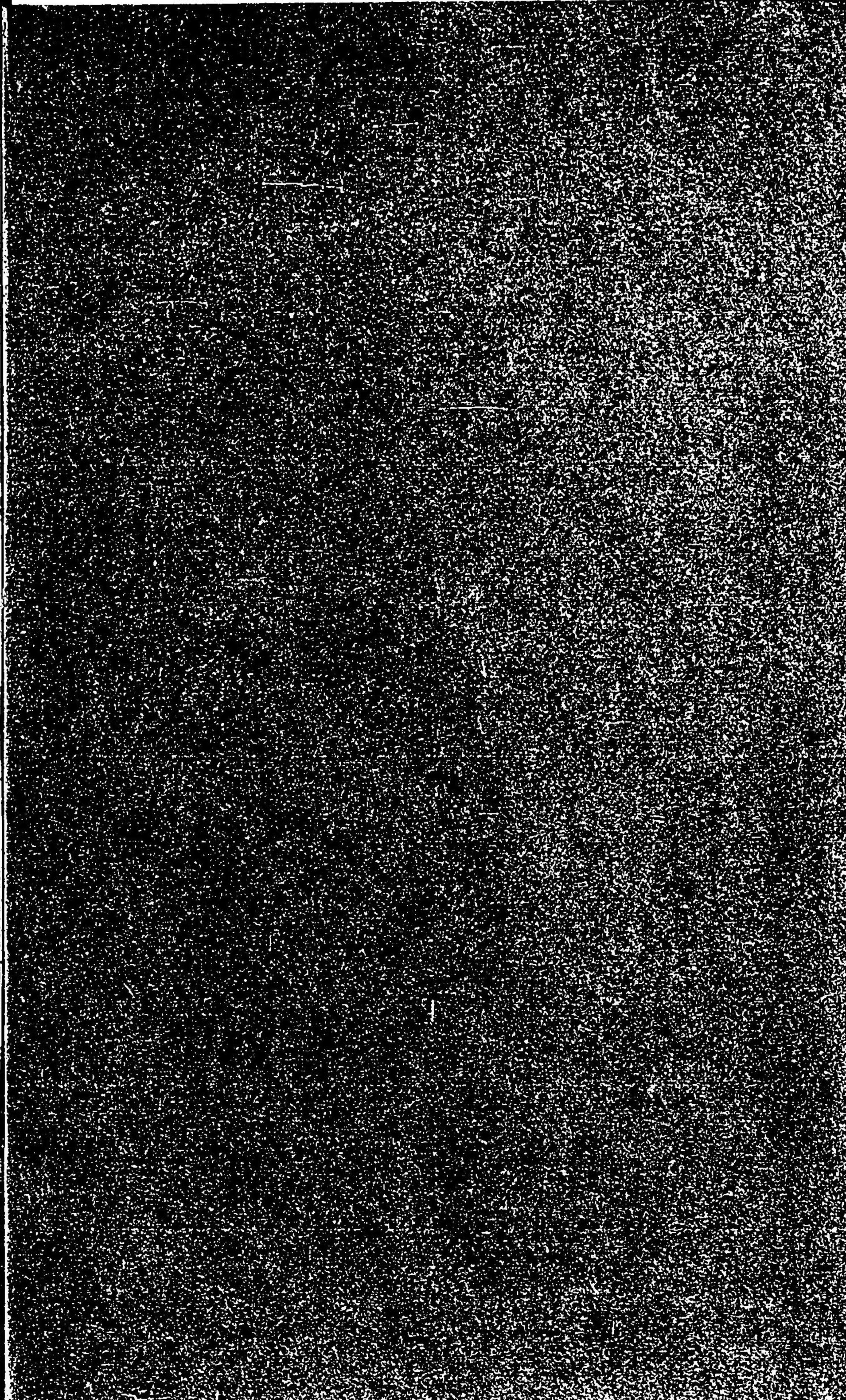


14-1

大審院判決録



C2  
2114  
03

# 大審院判決録

## 凡例

- 一 本書ハ大審院民刑各部ノ判決ヲ輯録ス
- 一 本書ハ毎月發兌シ前月ノ判決ヲ登録ス
- 一 本書編次ノ體裁ハ民刑ヲ區分シテ二卷トシ其輯録ノ順序ハ宣告日附ノ前後ニ依ル
- 一 目錄ヲ分テ總目錄、事件目錄、いろは索引、法文表、月日目錄及ヒ人名音字目錄ト爲ス
- 一 件名ノ次ニ判決ノ要旨ヲ摘録ス事件異ナルモ其判旨同一ナルモ、ハ前例ヲ參照シテ特ニ重録セス
- 一 上告ノ論點ト判決ノ説明トノ間ニ○ヲ施シ區劃ヲ明ニシ亦テ判決要旨ニ適合スヘキ説明ニハ、ハ、ハ、ヲ施シ閱覽ニ便ス
- 一 丁數ノ上ニハ關係ノ事項ヲ掲ク
- 一 年度末ニ至リ全部ニ通スル諸目錄ヲ作成シ搜索ニ便ス

凡例

大審院民事判決錄

總目録  
民法

抵當不動産ノ附加物ニ對スル抵當權ノ效力ノ事……………一  
民法第七百四十九條第三項ノ規定ハ推定家督相続人ニ適用スルヲ得スト  
ノ事……………八

他人ノ所有物ヲ賣却シタル賣渡人ノ買受人ニ對スル義務ノ事……………二  
町村カ他人ト締結セル契約ノ效力ノ事……………二  
保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セント  
欲セハ其所在ヲ立證スルコトヲ要ストノ事……………三四

商法

手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所住所及ヒ居所ヲ有セサル一事ヲ以テ支拂  
請求ノ手續ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルモノト看做スヲ得ストノ事……………四  
舊商法第七十二條ノ法意ノ事……………三九

民事訴訟法

證人タル資格ナキ者ノ宣誓シタル證言ノ證據力ノ事……………三二  
 第一審ノ請求原因ニ付テノ判決ニ對スル控訴ニ於テ請求金額ニ付キ下シ  
 マル判決ハ違法ナリトノ事……………三六  
 無印紙又ハ貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ印紙稅法施行後ハ民事裁判上之ヲ  
 採用スルヲ得ルトノ事……………三九

事件目錄

事 件	關 係 事 項	月 判 決	番 號	訴 訟 關 係 人	丁 數
損害賠償請求ノ件	抵當權ノ範圍	十一月	三十二年 （オ三三號）	上告人 株式會社西和銀行 右代表者 藤田禮三郎 被上告人 安江靜	一
約束手形金爲替訴訟ノ件	手形支拂請求ノ手續	九月十五日	三十二年 （オ三四號）	上告人 藏内次郎 被上告人 粘定芳太郎	四
離籍登記取消請求ノ件	推定家督相續人ノ離籍	八月十八日	三十二年 （オ三五號）	上告人 棚橋松太郎 被上告人 棚橋竹藏	二
契約維持並立木引渡請求ノ件	他人ノ物ノ賣渡人ノ義務 町村ノ他人ノ物ノ賣渡	九月十九日	三十三年 （オ三五號）	上告人 東江靜村 右法定代理人 光本長平 被上告人 龜本長平	八
奉納金及寄附金引渡請求ノ件	證人無資格者ノ證言	九月二十日	三十二年 （オ三六號）	上告人 橋本右衛門 被上告人 橋本右衛門	三
工費請負殘金請求ノ件	辯論以外ノ判決	九月二十日	三十二年 （オ三六號）	上告人 佐藤要藏 被上告人 片山政次	六
貸金請求ノ件	所在ノ證明	九月廿五日	三十二年 （オ三六號）	上告人 海老塚四郎兵衛 被上告人 堀谷左次郎	三
預金請求ノ件	會社印ナキ文書ノ效力、無 印紙證書ノ證據力	九月廿九日	三十三年 （オ三六號）	上告人 株式會社日宗銀行 右法定代理人 大島正辰 被上告人 オーガスト、ヴァレンチニス 右代理人 ヴィヴィン、アールバウデン	元

いろは索引

此索引ハ專ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從ヒ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サレハ形容詞若クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラス人ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ほうチはうニ入ルカ如シ

〔五〕

一審判決ノ變更

(辯論以外ノ判決) 参看

印紙貼用不足書類ノ證據力

(無印紙證書ノ證據力) 参看

保證人ノ義務

(所在ノ證明) 参看

辯論以外ノ判決

第一審ニ於テ請求ノ原因ニ辯論ヲ制限シタル判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ控訴審ニ於テ請求ノ金額ノ點ニ付キ判決ヲ下シタルハ違法ナリ

登記ノ效力

(抵當權ノ範圍) 参看

地所ノ附加物

(抵當權ノ範圍) 参看

町村ノ他人ノ物ノ賣渡

町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ノ所有物ヲ

賣渡スルハ索引

丁數

六

元

三

六

一

一

一

二

〔九〕

〔ヨ〕

離籍

(推定家督相続人ノ離籍) 参看

家督相続人ノ離籍

(推定家督相続人ノ離籍) 参看

會社印ナキ文書ノ效力

舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社力社印ヲ捺捺セスシテ交付シタル書類ハ總テ無効ノ制裁アルモノニ非ス

建物ノ附加物

(抵當權ノ範圍) 参看

他人ノ物ノ賣渡人ノ義務

他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シ若クハ他人ノ物件ナルコトヲ知リテ第三者ニ賣渡シタルトキハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ

丁數

八

八

八

六

一

一

二

民事いるは索引

〔む〕

買受ケテ買受人ニ引渡スノ義務アリ  
無資格者ノ證言

(證人無資格者ノ證言)參看  
無効ノ制裁

(會社印ナキ文書ノ效力)參看  
無印紙證書ノ證據力

證券印稅規則ハ印紙稅法ヲ以テ改正セラル  
舊法第四條ノ制裁ヲ廢止シタルカ故ニ無印  
紙又ハ貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判  
上裁判所ハ任意之ヲ採用スルコトヲ得

〔う〕

賣渡人ノ義務

(他人ノ物ノ賣渡人ノ義務)參看

〔く〕

訓示の規定

(會社印ナキ文書ノ效力)參看

〔ふ〕

不動産ノ範圍

(抵當權ノ範圍)參看

〔て〕

文書ノ效力

(會社印ナキ文書ノ效力)參看

〔て〕

抵當權ノ範圍

抵當權ノ目的タル地所若クハ建物ニ附加シ  
テ之ト一體ヲ爲シ不動産ト目スヘキモノハ  
縱令特ニ之ヲ登記スルコトナシト雖モ尙ホ

〔さ〕

債務者ノ所在ノ證明

(所在ノ證明)參看

裁判上ノ效力

(無印紙證書ノ證據力)參看

舊商法第七十二條ノ趣旨

(會社印ナキ文書ノ效力)參看

支拂請求ノ手續

(手形支拂請求ノ手續)參看

證人無資格者ノ證言

證人タル資格ナキ者ノ宣誓シタル證言ト雖  
モ當事者之ニ異議ヲ唱ヘサル以上ハ裁判所  
ハ其證言ヲ採用スルニ於テ何等ノ妨ケナシ

所在ノ證明

保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ債  
權ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セント欲セハ其住所  
ヲ立證スルヲ以テ足ルモノニ非ヌ必スヤ其

〔せ〕

宣誓ノ效力

(證人無資格者ノ證言)參看

〔す〕

請求金額ノ判決

(辯論以外ノ判決)參看

推定家督相續人ノ離籍

推定家督相續人ハ戶主ノ指定シタル居所ニ  
在ラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ヘ  
キモノニ非ス

所在ヲ證明スルヲ要ス

社印ナキ文書ノ效力

(會社印ナキ文書ノ效力)參看

〔せ〕

宣誓ノ效力

(證人無資格者ノ證言)參看

〔す〕

請求金額ノ判決

(辯論以外ノ判決)參看

推定家督相續人ノ離籍

推定家督相續人ハ戶主ノ指定シタル居所ニ  
在ラサルヲ理由トシテ離籍スルコトヲ得ヘ  
キモノニ非ス

法 文 表

丁數

民法

七四九條三項.....八

商法

四四二條.....四

舊商法

七二條.....三九

證券印稅規則

四條.....三九

民法文表



月日目錄

判決月日	番號	判決結果	原審	丁數
九月十一日	三十二年(才)三一號	破毀	大阪	一
九月十五日	三十二年(才)三二號	破毀	長崎	四
九月十八日	三十三年(才)三五號	棄却	名古屋	八
九月十九日	三十三年(才)三五號	棄却	廣島	二
九月二十日	三十二年(才)三五號	破毀	名古屋	三
九月二十日	三十二年(才)三七號	破毀	東京	六
九月二十五日	三十二年(才)六二號	棄却	東京	三
九月二十九日	三十三年(才)六四號	棄却	東京	三

總計 八件  
 破毀……………四件  
 棄却……………四件

人名音字目錄

人名	番號	原審	丁數
〔は〕 橋本右衛門 <small>被告上</small> .....			二
堀谷左次郎 <small>被告上</small> .....			三
〔を〕 大島正 辰對 <small>被告上</small> .....	三十二年 オ(三四)號	東京	三九
〔か〕 龜本長平 <small>被告上</small> .....			二一
片山政次 <small>被告上</small> .....			二八
〔た〕 柳橋竹藏對 <small>被告上</small> .....	三十二年 オ(三五)號	名古屋	八
柳橋松太郎 <small>被告上</small> .....			八
〔ろ〕 ゴイヰアン、アールハウデン <small>被告上</small> .....			三九
藏内次郎作對 <small>被告上</small> .....	三十二年 オ(四二)號	長崎	四
〔や〕 安江 <small>被告上</small> .....			一
〔ふ〕 藤田禮三郎對安江 <small>被告上</small> .....	三十二年 オ(二一)號	大阪	一
〔は〕 海老塚四郎兵衛對堀谷左次郎.....	三十二年 オ(二八)號	東京	三四

民事人名音字目録

[さ]	佐藤 要 藏對片山 政次	三十二年	東京	二六
[み]	光江 靜 波對龜本 長平	三十三年	廣島	二
[じ]	信叟 仙 受對橋本 右衛門	三十二年	名古屋	二
[す]	祐定 芳太郎	被告上		四

大審院民事判決録

第六輯 第八卷



○損害賠償請求ノ件

明治三十二年(才)第二百十一號  
明治三十三年九月十一日第一民事部判決

○判決要旨

一 抵當權ノ目的タル地所若クハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シ不動  
 産ト目スヘキモノハ縱令特ニ之ヲ登記スルコトナシト雖モ尙ホ抵  
 當權ノ及フヘキモノトス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

上告人 株式會社西和銀行

右代表者 藤田禮三郎 訴訟代理人 長島鷲太郎

抵當權ノ範圍

右當事者間ノ損害賠償請求事件ニ付キ大阪控訴院カ明治三十二年六月六日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判 決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ大阪控訴院ニ差戻ス

理 由

上告趣旨ノ追加第一ハ原判決理由ヲ閱スルニ「甲第三號證所載ノ物件ハ控訴人主張ノ如ク其性質不動産ナリ從テ被控訴人カ動産トシテ之ヲ差押ヘ及競賣ニ付シタル處分ハ違法タルヲ免カレス云々」ト判斷シ以テ本訴係争物件ハ其性質不動産ナルコト及ヒ之ヲ動産トシテ競賣シタルノ違法ナルヲ認メ且ツ「本訴係争物件ハ他ノ物件ト共ニ之ヲ抵當ノ目的ニ供シタルコトハ甲第一號證第四號證ニ依リ明白ナリ云々」ト説示シ以テ本訴物件ニ抵當權ノ設定セラレタルノ事實ヲ認メタリ然ルニモ拘ハラヌ原院カ上告人ノ主張ヲ排斥シタル所以ノモノハ「凡ソ抵當權ノ效力ヲ以テ第三者ニ對抗センニハ登記ヲ經ルヲ要ス然ルニ係争物件ハ他ノ物件ノ如ク登記ヲ經由シ居ラサルモノナリ故ニ被控訴人ノ執行處分ハ假令違法ノ爲メ無効ニ歸スルコトアルモ其結果係争物件ハ各債權者ノ共同擔保トナルニ過キスシテ控訴人ハ他ノ債權者ニ對シ抵當ノ效力即チ優先權ヲ主張シ得ヘキモノニアラスト謂フニ在リ」然レトモ舊

登記法ニ於テ書入質入ノ登記ヲ爲シ得ヘキモノハ土地建物船舶ノ三種ニ限ル而シテ本件係争物件ノ如キ備付機械カ不動産ナルヤ否ヤハ其定著物ナルヤ否ヤニ因リテ定ルモノトス（御院明治二十六年二月七日公賣配當金ニ對スル異議事件判決）故ニ若シ本件係争物件ニシテ原院判決ノ如ク不動産ナリトセハ少シモ其定著スル地所若シクハ建物ト俱ニ抵當ノ效力ヲ存スヘキヲ當然トス然ルニ原院カ本件係争物件ノ不動産タルヲ認メナカラ其抵當權ノ登記アラサルヲ以テ抵當ノ效力ヲ主張スルコトヲ得スト判斷シタルモノ是レ全ク登記ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルノ違法アリトス若シ本件ニシテ定著物ニアラスト判斷シタルモノナレハ本件係争物件ヲ以テ不動産ナリト解釋シタルハ不法ナルヘク且ツ此不動産ノ上ニ設定セラルヘキ抵當權ニ關シテ登記ヲ得ルヲ要スルモノ、如クニ判斷シタルハ上告人ニ求ムルニ至難ノコトヲ以テスルモノニシテ併セテ不法タルヲ免カレスト云フニ在リ

按スルニ本訴器械類ハ其附着シタル建物及ヒ地所ト共ニ抵當權ノ目的物ニシテ不動産ナリシコトヲ上告人カ主張シタルコトハ訴訟記録ニ徴シ明確ノ事項ナリ而シテ民法第三百七十條「抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シタル物ニ及フ」ノ規定ハ民法施行法第三十六條ノ明文ニ依リ本訴抵當權ノ如キ民法施行前ニ發生シタルモノニモ亦適用スルヲ得ヘキコト勿論ナルヲ以テ若シ本訴ノ器械類ヲシテ果シテ抵當權ノ目的タル地所若シクハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シ即不動産ト目スヘキモノナラシメハ假令特ニ之ヲ登記スルコト無シト雖モ尙抵當權ノ及

ハ、ハ、モノト云ハサルヲ得、然レハ即チ上告人請求ノ當否ヲ判斷セント欲セハ宜シク先ツ其器械類ハ  
 抵當權ノ目的タル地所若シハ建物ニ附加シテ一體ヲ爲シタルモノナルヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラザ  
 ルニ原院ノ處置此ニ出テス漠然「甲第三號證所載ノ物件ハ控訴人主張ノ如ク其性質不動産ナリ從テ被  
 控訴人カ動産トシテ之ヲ差押ヘ及ヒ競賣ニ付シタル處分ハ違法タルヲ免カレストスルモ云々」ト判示  
 シ其動産ナルヤ又ハ不動産ナルヤスラ明ニ判斷スル所ナキニ拘ハラヌ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加  
 シテ之ト一體ヲ爲シタルモノナルト否トノ別ナク必ス登記ヲ爲スニ非サレハ抵當權ヲ及ホスコト能ハ  
 サルカ如キ説明ヲ付シタルヲ以テ結局原判決ハ理由ヲ附セサル裁判タルコトヲ免レヌ  
 如上ノ理由ハ原判決ノ全部ヲ破毀スルニ足ルヲ以テ他ノ上告論旨ハ別ニ説明セス仍テ民事訴訟法第四  
 百四十七條初項及ヒ第四百四十八條初項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

○約束手形金爲替訴訟ノ件

明治三十三年(オ)第三百四十二號  
 明治三十三年九月十五日第一民事部判決

○判決要旨

一手形ノ支拂地ニ支拂人カ營業所住所及ヒ居所ヲ有セサル場合ニ於

テ商法第四百四十二條ノ手續ヲ爲サスシテ當然支拂請求ノ手續ヲ  
 爲シタルモノト看做シタルハ違法ナリ

(參照) 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權  
 利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナ  
 キトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場  
 所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ  
 拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要  
 ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公  
 署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得(商法第四百四十二條)

第一審 福岡地方裁判所小倉支部 第二審 長崎控訴院

上告人 藏内次郎作 訴訟代理人 米田 實

被上告人 祐定芳太郎 訴訟代理人 (花井卓藏、高野金重)

右當事者間ノ約束手形金爲替訴訟事件ニ付長崎控訴院カ明治三十三年三月二十六日言渡シタル判決ニ  
 對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判 決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ長崎控訴院ニ差戻ス

理由

上告第一點ハ上告人ハ第一審以來本訴甲一號證約束手形ハ支拂地ヲ記載セシモノナレハ其支拂地ニ於テ手形ヲ呈示シ且拒絶證書ヲ作成スヘキモノナルコトハ商法第四百九十條ノ規定スル所ナリ而シテ被上告人ハ支拂期日ニ振出人タル福田繁次郎カ自己ノ住所ニ居ラサリシコトハ甲第二號證ニヨリ證セラレ居ルモノナレハ其支拂地タル若松町ニ於テ手形上ノ權利ヲ保全スル行爲ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ其住居地ニ於テ爲シタルハ手形上ノ權利ヲ失ヒタルモノナリト主張シタルニ拘ハラヌ原院ハ尙ホ上告人ニ償還義務ヲ命セラレタルハ法律規定ニ背ク違法ノ判決ナリトス然ルニ原院ハ甲四號證ヲ以テ振出人タル福田繁次郎ハ若松町ニ營業所住所又ハ居所ナシトノ理由ヲ以テ其住居地ニ於テ爲シタル手形上ノ權利保全行爲ハ正當ナリトセラレタルモ法律カ所謂支拂地ト稱スルモノハ必ス營業所住所又ハ住所ナキヲ以テ支拂地トスルヲ得ストノ意ニ非スシテ却テ支拂地ハ營業所住所又ハ居所ト異ナルヲ本則トスルモノナレハ苟クモ支拂地ヲ記載スル以上ハ其支拂人ノ營業所住所又ハ住所ヲ有スルト否トニ關セズ手形上ノ權利保全行爲ハ必ス其地ニ於テ爲サ、ルヘカラサルモノトスルノ精神ニ基キ特ニ支拂地ト記載セシモノナレハ從テ其支拂地ニ於テ爲サ、ル手續ハ總テ效果ヲ生セサル無効ノモノナルヲ以テ上告人ハ之レニヨリ義務ヲ負フヘキモノニアラサレハナリト云フニ在リ

依テ按スルニ手形所持人ニ於テ其裏書人ニ對シ手形金ノ償還請求ヲ爲サンニハ必ス先ツ支拂人ニ對シ

支拂請求ノ手續ヲ履行シタルコト即支拂期日ニ手形面記載ノ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ支拂人ニ呈示シ其支拂ヲ請求シタルモ之レカ支拂ヲ拒絶セラレタルコトヲ要ス苟クモ此手續ヲ履行セザルニ於テハ裏書人ニ對シ手形上ノ權利ヲ喪失スルコトハ商法第四百八十六條同第四百八十七條同第四百九十條同第五百二十九條ノ規定スル所ナリ而シテ手形所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ受クル爲メ支拂期日ニ支拂地ニ至リ支拂人ノ營業所住所居所ノ間合ヲ爲シ尙ホ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スモ之ヲ知リ能ハサリシトキハ即チ支拂人ニ於テ支拂ヲ拒絶シタルモノトスヘキハ同第四百四十二條ニ徴シテ明カナルモ單ニ支拂人カ支拂地ニ營業所住所又ハ居所ヲ有セザルトノ一事ヲ以テ手形所持人カ支拂請求手續ヲ爲サ、ルモ之ヲ爲シタルモノト看做サ、ルヲ得ストノ規定ナキノミナラス支拂人カ支拂地ニ營業所住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ手形所持人ハ支拂人ノ本籍地ニ至リ手形ヲ呈示シテ支拂拒絶證書ヲ作成シ以テ裏書人ニ償還請求ノ通知ヲ爲スニ依リ手形上ノ權利ヲ失ハサルモノトスルカ如キ規定モ亦アルナシ然ルニ原院ニ於テ本件手形ノ支拂人カ支拂期日ニ其支拂地ナル若松町ニ營業所住所又ハ居所ヲ有セザリシモノト認メ此場合ニ於テハ縱令手形所持人ナル被上告人カ支拂地ニ於テ手形ヲ呈示シテ支拂請求ヲ爲サ、ルモ適法ニ之ヲ呈示シタルモノト看做サ、ルヲ得ヌ殊ニ被上告人ハ支拂人ノ本籍地ニ至リ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求シ且支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除セラレ居ルニモ不拘支拂拒絶證書ヲ作成シ裏書人ナル上告人ニ對シ償還請求ヲ通知シタルニ依リ手形上ノ權利ヲ失ハサルモノナリト判

定シタルハ前掲法條ノ規定ニ違背シタルモノニシテ上告論旨ノ如ク破毀ノ原由アル不法ノ判決タルヲ免カレス既ニ此ノ點ニ依リ原判決ヲ破毀スヘキモノトスル以上ハ他ノ上告論旨ノ當否ヲ判斷スル必要ナシ依テ之レカ判斷ヲ爲サス

以上ノ理由ナルニ依リ民事訴訟法第四百四十七條第一項ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ同第四百四十八條第一項ニ從ヒ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ原院ニ差戻ス

○離籍登記取消請求ノ件

明治三十三年(丙)第二百三十五號  
明治三十三年九月十八日第一民事部判決

○判決要旨

一 推定家督相續人ハ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルヲ理由トシテ

離籍スルコトヲ得ヘキモノニ非ス

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

上告人 棚橋竹藏 訴訟代理人 (鳩山和造 上原鹿造)

被上告人 棚橋松太郎

右當事者間ノ離籍登記取消請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十三年三月十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ民法第七百三十二條ニ「戸主ノ親族コシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トスルトアルカ故ニ苟モ(一)其戸主ノ親族ニシテ(二)其家ニ在ルモノハ如何ナル順位ノモノタルト又尊卑兩親屬ノ何レタルトヲ問ハス總テ之ヲ家族トスルハ法文ノ解釋上當然ノ事柄ナリトス而シテ民法第七百四十九條ハ戸主カ家族ノ住居ニ對スル監督權ノコトヲ規定シタルモノニシテ別ニ制限ヲ設ケタル規定ニアラサルカ故ニ家族ノ如何ナル部分ノ人ニ向テモ此權利ヲ行使スルニ差支アルコトナシ然ラサレハ折角家族主義ヲ重シ一家ノ安寧ヲ保維セント目的トシタル前條ノ規定ハ或特別ノ人ニ對シテハ殆ント其用ヲ爲サ、ルニ至ラン是レ上告人カ原院ニ於テ同條第三項ノ離籍權ニ推定家督相續人ナル除外例ヲ設クヘカラサルヲ論シタル所以ナリ然ルニ原判決カ民法第七百四十四條ヲ曲解シ推定家督相續人ノ離籍ハ同法第七百五十條第二項ニノミ限ルモノナリト判定シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタル違法アリト

推定家督相續人ノ離籍

云フニ在リトス

按、スルニ民法第七百四十九條ニ家族ハ、戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス其第二項ニ家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ云々其第三項ニ前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得云々ト規定シ在リテ一見戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者ハ何人ト雖モ家族ナレハ法定ノ推定家督相續人ニ對シテモ此ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ離テ同法第七百四十四條ヲ閱スルニ法定ノ推定家督相續人ハ一家ヲ創立スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ其例外トシテハ止テ同法第七百五十條第二項即チ家族カ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキ戸主カ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ム結果一家ヲ創立スル場合ニ係ル規定ノ適用ヲ妨ケスト在ルノミニシテ同法第七百四十九條第三項ノ規定ノ適用ハ之ヲ認メサルカ故ニ推定家督相續人ノ離籍ハ同法第七百五十條第二項ノ場合ノ外ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノト解釋スルヲ相當トス隨テ原院カ前記法文ヲ解釋シテ本件ノ如キ居所ノ指定ニ從ハサル推定家督相續人ニ對シテハ戸主ニ離籍ノ權ヲ與ヘサルモノトス云々ト判決シタルハ洵ニ相當ニシテ上告論旨ノ如キ法則ノ適用ヲ誤リタル違法ナシ乃チ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ本件上告ハ理由ナキモノトシ之ヲ棄却スル所以ナリ

○契約維持竝立本引渡請求ノ件

明治三十三年(三)第二百九十五號  
明治三十三年九月十九日第二民事部判決

○判決要旨

一 他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シ若クハ他人ノ物件ナルコトヲ知リテ第三者ニ賣渡シタルトキハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ買受ケテ買受人ニ引渡スノ義務アリ

一 町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ノ所有物ヲ賣買ノ目的ト爲シ之ヲ賣渡スヘキコトヲ結約シタルトキト雖モ契約履行ノ責任ヲ免ル、ヲ得ス

第一審 熊水地方裁判所 第二審 廣島控訴院

上告人 東砥川村

右法律上代理人 光江靜波

訴訟代理人 林立夫

被上告人 龜本長平

他人ノ物ノ賣渡人ノ義務○町村ノ他人ノ物ノ賣渡



右當事者間ノ契約維持並ニ立木引渡請求事件ニ付廣島控訴院カ明治三十三年三月六日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告理由第一ハ本訴ノ目的物ハ据置林ナル名稱ヲ有スル部分林民收權ノ賣買ニシテ未ダ立木ノ引渡ヲ受ケサル前ニ方リテ當事者間ニ於テ契約ヲ締結シタルモノナルコトハ甲第一號證ノ据置林民收木賣買特約書第一條乃至第五條ノ文詞ニ徴シテ明確ナリトス而シテ上告村ニ於テ明治二十九年八月六日ヲ以テ「本村部分林民收木ハ其所有權アル各部落ノ基本財産トス」ルノ議決ヲナシ郡參事會ノ許可ヲ受ケタルコトハ乙第一號ノ一乃至四ノ證スル如ク當事者間ニ於テモ亦爭ナキ所ナリ故ニ荷モ部分林ハ固有ノ權利アルモノタルト將タ他ヨリ取得スルモノトト問ハス關係部落ノ基本財産ニ編入セラルヘキハ勿論ナリ隨テ本訴ノ目的モ亦他人ノ所有權アル部分林ナリトスルモ上告村ニ於テ一タヒ其所有權ヲ取得スルトキハ同時ニ關係部落ノ基本財産タルハ言ヲ俟タス既ニ基本財産タル以上ハ之レカ處分ハ町村制第二百二十七條第二號ニヨリ郡參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス然ルニ原判決ハ「本訴ノ立木ハ當事者間ニ賣買契約ノ締結セラレタル當時第三者ニ所有權アリシモノナルコト明白ナルニ付被控訴村ノ基本

財産若クハ村有不動産ニ非サリシコト勿論ナルヲ以テ被控訴村々會ノ議決ハ町村制第二百二十七條第二號若シクハ第三號ニ該當スルモノト謂フヲ得サルカ故ニ本訴ノ立木ニ付テハ法律上當事者間ニ賣買契約カ有效ニ成立シタルハ疑ナキ所ニシテ被控訴人カ町村制第二百二十七條ヲ遵守セサル行爲ナルヲ理由トシ以テ之カ無効ヲ主張スルハ謂ハレナキモノトス」ト説明シ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ不法ニ事實ヲ認定シ且法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリ即チ本訴ノ目的物ハ全ク未ダ引渡ヲ受ケサル部分林民收權ナルニ立木ナリトシタルハ不法ニ事實ヲ認定シタルモノニシテ又第三者ノ所有權アリシモノナルヲ以テ町村制第二百二十七條第二號ニ該當セスト言フハ法理ヲ不當ニ解釋シタルモノナリ蓋シ賣買契約ハ目的物ノ所有權ヲ賣主ヨリ買主ニ移轉スルヲ目的トスルハ辯ヲ俟タサルヲ以テ第三者ノ所有權アル物ノ賣買ニ在リテハ賣主ハ先ツ自家ニ其所有權ヲ取得セサルヘカラス而シテ後買主ニ其目的物ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ得可シ故ニ本訴ノ目的物タル部分林民收權カ第三者ニ所有權アリシトスルモ上告村ヨリ被上告人ニ賣渡スニアタリテハ上告村ハ先ツ其所有權ヲ第三者ヨリ取得セサルヘカラス而シテ上告村ニ於テ其所有權ヲ取得シタルトキハ直ニ乙第一號證ノ一乃至四ニヨリ基本財産ニ編入セラルモノトス故ニ町村制第二百二十七條第二號ニ該當スルヲ以テ之カ處分ニシテ同條ノ規定ニ違反スルトキハ法律上其效力ヲ生セサルハ勿論ナリ然ルニ原院ハ單ニ第三者ニ所有權アリシトノ理由ヲ以テ恰モ第三者ヨリ直ニ被上告人ニ所有權ヲ移轉スルモノ、如ク速斷シ輒ク上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ不法ナリト

云フニ在リ

按スルニ原院ニ於ケル上告人抗辯ノ一ハ原判決ニ明カナル如ク本訴ノ立木ハ上告村ノ基本財産ナルヲ以テ其賣買ニ付テハ郡參事會ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其效ナシト云フニ在リテ訴外人楠田一兄等ヨリ本訴ノ立木ヲ買戻シタルトキハ上告村ノ基本財産ニ編入スヘキモノナレハ本件ノ賣買ニ付テモ亦郡參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラストノ事ハ曾テ申立テタル事跡ナシ然レハ今更之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルハ勿論原判決ノ認ムル所ニ由レハ上告人ハ楠田一兄等ノ所有ニ屬スル立木ヲ被上告人ニ賣渡シタルモノナルニ付同人ヨリ之ヲ買受ケ以テ被上告人ニ引渡スヘシト云フニ在レハ上告人ハ右一兄等ヨリ立木ヲ買受ケ被上告人ニ引渡ス義務アルノミニシテ之ヲ買受ケルト同時ニ一旦其基本財産ニ編入セサルヘカラサル條理ナキモノトス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

同第二ハ本訴ノ目的物ハ据置林ノ名稱ヲ有スル部分林ノ民收權ナルコトハ甲第一號證ノ明ニ示ス所ナルヲ以テ之カ賣買ハ當時ノ法律タリシ明治十一年三月十四日內務省布達甲第四號部分木仕付條例第十條ノ規定ニヨリ相當ノ手續ヲ爲シ其筋ノ許可ヲ受クルニアラサレハ法律上其效ナキモノトス然ルニ原院ハ「同法條ハ其明文ノ如ク部分木仕付シヘキ仕立主ノ權利ノ讓渡ニ付テ規定シタルモノニシテ成長シタル立木ノ讓渡ニ付キ規定シタルモノニアラスト解釋セサルヲ得ス而シテ本訴ノ當事者間ニ賣買ヲ契約シタル目的物ハ部分木仕付ノ權ニアラスト成長シタル立木ナルコトハ甲第一號證ニ徴シテモ

認知スルヲ得ヘク殊ニ當事者雙方ノ供述ニ據レハ官民間ニ已ニ引分チモ了ヘラレタルモノナルコト明確ナルヲ以テ之カ讓渡ニ付テハ部分木仕付條例第十條ヲ遵守スルヲ要セサルカ故ニ此點ニ關スル被控訴人ノ抗辯モ亦採用スルヲ得ス」ト説明シ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルハ適用スヘキ法律ヲ適用セス又事實ヲ不法ニ認定シタルモノナリ元來部分林ニ對スル官民ノ關係ハ部分木仕付條例ニ依リ規定セラレタル一種ノ權利義務關係ニ外ナラスト決シテ人民ハ立木ノ共有者トシテ官ト共ニ所有權ヲ有スルモノニアラスト殊ニ据置林ト稱スル部分林ニ有リテハ人民カ官ニ於テ處分ノ都度其收ムヘキ部分ニ相當スル金員ノ付與ヲ受クルニ止マリ立木ニ對シ何等ノ權利ヲ有セサルモノトス故ニ人民ニ於テ其權利ノ賣買ヲ爲サムト欲スルトキハ單ニ立木ノ賣買ヲ爲ス能ハサルハ勿論必スヤ部分木仕付條例ノ規定ニ依リ相當ノ手續ヲ經テ仕付權ノ讓渡ヲ爲スノ外ナシ本訴ノ目的ハ甲第一號證ニ表示シテ明カナル如ク据置林民收權ノ賣買ニ屬スルヲ以テ部分木仕付條例ニ遵ヒ成規ノ手續ヲ經由シ所轄官廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルニ拘ハラスト原判決カ適用スヘキ部分木仕付條例ヲ適用セサルハ不法ナリ而シテ上告人ハ固ヨリ被上告人モマタ第一審以來未ダ曾テ賣買契約ノ當時已ニ引分チ了ヘラレタルモノナルコトヲ供述シタルコト斷シテ之レナキニ拘ハラスト原院カ當事者雙方ノ供述ニヨレハ官民間ニ已ニ引分チ了ヘラレタルモノナルコト明確ナルヲ以テ云々ト説明シタルハ全ク當事者ノ陳述セサルコトヲ陳述シタリトナシタル不法アリトス甲第一號證第一條乃至第五條ノ文詞中官民引分請願云々トアルニ徴シ官民間未ダ

引分ナキ据置林民收權ヲ賣買ノ目的トナシタルハ一點ノ疑ヲ容レサル所ニシテ其當時ニアリテハ純粹ノ官林ニシテ未ダ上告村ニ於テ部分林トシテノ權利ヲ有セス明治二十八年四月二十三日即賣買契約後三十餘日ニ至リ始メテ熊本大林區署ヨリ處分ノ都度三分ノ一金ヲ付與スル旨ノ指令ニ接シタルモノナルヲ以テ法令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ手續ヲ經所轄官廳ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ賣買ヲ爲ス事ヲ得サルモノナルニ原院ハ深ク事實ヲ審究セスシテ擅ニ當事者ノ陳述セサルコトヲ陳述シタリトナシ部分木仕付條例ヲ適用セサリシハ不法モ亦甚シト云フニ在リ

依テ按スルニ原判決中段ニ「而シテ本訴ノ當事者間ニ賣買ヲ契約シタル目的物ハ部分木仕付ノ權利ニアラスシテ成長シタル立木ナルコト甲第一號證ニ徴シテモ認知スルヲ得ヘク」云々トアルカ如ク原院ハ本件賣買ノ目的物ハ仕付權ニアラスシテ成長シタル立木ナルニ付部分木仕付條例第十條ノ規定ヲ遵守スルヲ要セスト判斷シタルモノナレハ之ニ對シ仕付權ノ賣買ナルヲ以テ右ノ規定ニ從フヘキモノナリトノ事ハ原判旨ニ副ハサル論告ニシテ採用スルニ由ナシ又原判決ノ援用セル第一審ノ判決事實摘示及ヒ原院ノ法廷調書ニ由レハ部分木ノ引分ケハ既ニ終了シタル事實當事者間ニ異論ナキコト明白ナレハ原院カ當事者雙方ノ供述ニ據レハ官民間ニ已ニ引分チモ了ヘタルモノナルコト云々ト説明シタルハ相當ナリ故ニ本論旨モ亦其理由ナシ

同第三ハ本訴ノ目的物ハ据置林ト稱スル部分林民收權ニシテ上告村ハ當然其所有ニ屬スヘキモノナル

コトヲ確信シ村會ニ於テ賣買ノ議決ヲ爲シタルモノナリ而シテ部分林民收權ハ上告村ノ基本財産ナルヲ以テ之カ處分ニ關シテハ郡參事會ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ法律上何等ノ效果ヲ生スルコトナキハ町村制ノ明ニ定ムル所ナリ故ニ本件ノ契約ハ村會ノ議決郡參事會ノ許可ヲ得サルニ拘ハラス村長カ獨擅ニ其執行ヲ爲シタル違法行爲ニ外ナラサルヲ以テ被上告人カ契約ノ履行ヲ求ムルハ其理由ナキモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原院ハ第三者ニ所有權アリシコト明白ナルニ付云々ト説明シ町村制ヲ適用セサリシハ不法ナリ蓋シ上告村ハ村會ノ議決當時ニ在リテハ村有ノ財産ナルコトヲ確信シ村有基本財産ノ處分トシテ議決ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其實際ノ如何ニ拘ハラス形式上町村制ノ定ムル所ニヨリ郡參事會ノ認可ヲ受ケサルヘカラス即チ甲第一號證據置林民收權賣買特約書ノ冒頭下益城郡東區用村大字洞岳下福良組山出組植栽權アル据置林民收權處分方トアル如ク上告村ハ其植栽權アル部分林ノ賣買ヲ議決シタルモノニシテ決シテ他人ノ所有權ヲ目的トセサリシハ一點ノ疑ナキニ依リ右ノ議決ハ全ク村有基本財産ノ處分ニ屬スルニ付キ其執行ノ效力ヲ得ルニハ必ス郡參事會ノ許可ヲ要スルハ明カナリトス隨テ此點ニ付キ原判決カ町村制ヲ適用セサリシハ法則ヲ不當ニ適用セサリシモノナリト云フニ在リ

上告村ノ基本財産ヲ賣却スル場合ニハ町村制ノ規定ニ從ヒ郡參事會ノ許可ヲ受シヘキハ勿論ナルモ實際基本財産ニアラサルトキハ假令基本財産ナリト確信シテ賣買シタルニモセヨ其許可ヲ要セサルコト

ハ原院説明ノ通りナレハ本論旨ハ適法ノ理由トナラス

同第四ハ本訴ノ目的物ハ甲第一號證ニ明記セル如ク下益城郡東砥用村大字洞岳下福長組山出組ノ植栽  
權アル部分林ニシテ被上告人モ亦第一審以來上告村ノ所有タルコトヲ主張シタルヨリ見ルモ本訴部分  
林ノ他人ノ所有權アルニアラザリシ事明了ナルモ原院ノ認定ニ隨ヒ第三者ニ所有權アリシ部分林ヲ以  
テ賣買ノ目的ト爲シタリトセハ是レ町村制ノ許サ、ル違法ノ議決ナリト謂ハサルヘカラス町村ハ町村  
制ニ依リテ法人ト認メラレ法律ノ許容シタル範圍ニ於テ權利義務ノ主體タルモノニシテ其内外ノ關係  
ハ法律命令ノ定ムル所ニ隨ヒ町村會ニ於テ議決シ町村長之カ執行ヲ爲スモノナリ然レハ町村會ハ町村  
制第三十二條以下第三十七條ノ規定セル範圍ニ於テ職務權限ヲ有シ町村長ハ同第六十八條第六十九條  
ノ範圍ニ於テ職務權限ヲ有シ此他ニ於テ法律上何等ノ行爲ヲモ爲スヘカラス而シテ町村會ハ第三十三  
條ニ依リ町村有財産ノ管理處分等ニ就キ議決ヲ爲スノ權限ヲ有スレトモ第三者ノ所有權アルモノ、賣  
買ヲ議決スルノ職務權限ヲ有セス即チ第三十二條ニ明カニ規定セラル、如ク町村會ハ町村ヲ代表シテ  
町村制ニ準據シテ町村一切ノ事件ヲ議決スルモノニシテ町村制ニ準據セスシテ違法ノ議決ヲナスコト  
アルモ法律上何等ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス隨テ町村長カ斯ル違法ノ議決ヲ執行スルモ其無効ナ  
ルハ論ヲ俟タス然ルニ本件ノ賣買ニ就キ原院ノ認メタル如ク其目的ニ於テ第三者ニ所有權アリシトス  
レハ町村會ノ議決ハ其職務權限外ニ出テ町村制第三十二條及第三十三條ニ違背シタルモノナルヲ以テ

縱令村長之ヲ執行シタリトスルモ法律上當然無効ナリトス此點ニ對シ原院カ毫モ審案スルコトナクシ  
テ町村制ヲ顧ミザリシハ全ク法則ヲ不當ニ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リ

他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シテ第三者ニ賣渡シ又ハ他人ノ物件ナルコトヲ知リテ第三者ニ賣  
渡シタル場合ニハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ買受ケ買受人ニ引渡スノ義務アルモノニシテ單ニ他人ノ  
物件ナルコトヲ理由トシ賣買契約上ノ責任ヲ免ル、ヲ得サルハ法理ノ當然ナリ町村會及ヒ町村ハ町村  
制ノ定ムル所ニ從ヒ行動スヘキハ勿論ナリト雖モ町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ト賣買ノ契約ヲ締結  
シタルトキハ假令其物件ハ他人ノ所有物ナルニモセヨ前記法理ノ適用ヲ受ケ契約履行ノ責任ヲ免ル、  
ヲ得ス左スレハ上告村ノ村會カ本件ノ立木ヲ上告村ノ所有ナリト信シテ賣渡ノ議決ヲ爲シタルニモセ  
ヨ被上告人ニ對シ單ニ此點ノミヲ以テ賣買契約ノ無効ヲ主張スルヲ得サルモノトス依テ此論旨モ其理  
由ナシ

同第五ハ本訴ノ目的物ハ上告村内ノ部落ニ於テ植栽權アル据置林民收權ニシテ未ダ引分チモ引渡チモ  
受ケスシテ單ニ官ニ對シテ一種ノ權利關係ヲ有スルニ過キサル時ニ當リ其權利ヲ賣買ノ目的トナシタ  
ルハ甲第一號證ニ記載スル文字ニ依リ明確ナルニ原院カ不法ニ事實ヲ確定シテ成長シタル立木ヲ賣買  
ノ目的トナシタル如ク説明シタルハ不法ナル事第二點所陳ノ如シ然レトモ今本件ノ目的ハ成長シタル  
立木ナリト假定スルモ立木ハ縱令伐採ノ目的ヲ以テ賣買セラル、ト雖モ其土地ニ定着スル間ハ不動産

タル性質ヲ變スルコトナキハ勿論ナリトス故ニ町村有立木ノ賣却讓與ハ町村制第二百二十七條第三號ノ規定ニ依リ郡參事會ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス此規定ニ違背スル行爲ハ法律上何等ノ效力ナカルヘキナリ然ルニ本訴ノ契約ニ對シ原院ハ「本訴ノ立木ハ當事者間賣買契約ノ締結セラレタル當時第三者ニ所有權アリシモノナルコト明白ナルニ付被控訴村ノ基本財産若クハ村有不動産ニ非サリシコト勿論ナルヲ以テ」云々ト判示シ町村制ヲ適用セザリシハ法則ヲ適用セサル不法アリトス第一點ニ於テ述ヘタル如ク賣買契約ハ所有權ノ移轉ヲ目的トスルモノナルヲ以テ他人ノモノヲ以テ賣買ノ目的トナシタルトキ賣主ハ先ツ自家ニ其所有權ヲ取得シ而シテ後之ヲ買主ニ移轉スヘキハ勿論ナルニヨリ町村ニ於テ他人ノ不動産ヲ賣買ノ目的トナシタルトキハ先ツ町村自ラ其所有權ヲ取得セサルヘカラス而シテ其所有權ヲ取得シタルトキハ直チニ町村有不動産トナルヘキハ辯テ俟タス隨テ之レカ賣却讓與ハ町村制第二百二十七條第三號ニ從ヒ郡參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス又同條町村有不動産云々ノ文詞中ニハ當然如斯場合ヲ包含スルモノト解釋スルヲ至當トス何トナレハ等シク不動産ノ賣却讓與ニシテ一ハ自己ヨリ直ニ所有權ヲ移轉スルヲ以テ郡參事會ノ許可ヲ要シ他ハ他人ヨリ先ツ自家ニ所有權ヲ得テ而シテ後移轉スルモノナルヲ以テ許可ヲ要セストスル理由ナキノミナラス事ノ輕重ヨリ論スレハ自己ヨリ直ニ所有權ヲ移轉スルニスラ要スルモノトセハ況ンヤ他人ヨリ所有權ヲ自家ニ得テ而シテ後ニ之ヲ移轉スルモノニアリテハ愈々郡參事會ノ許可ヲ必要トスルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原判決カ村有不

動産ニアラストシテ町村制ヲ適用セザリシハ違法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○本論旨ハ結局前數點ニ論告スル不服ノ理由ヲ反覆論争スルニ外ナラスシテ其理由ナキコトハ右數點ノ論旨ニ對スル説明ニ依リ了解シ得ヘキヲ以テ特ニ説明ヲ與ヘス  
以上辯明ノ理由ナルニ依リ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ之ヲ棄却スヘキモノトス

○奉納金及寄附金引渡請求ノ件

明治三十二年(ハ)第一二六十五號  
明治三十三年九月二十日第一民事部判決

○判決要旨

一 證人タル資格ナキ者ノ宣誓シタル證言ト雖モ當事者之ニ異議ヲ唱  
ヘサル以上ハ裁判所ハ其證言ヲ採用スルニ於テ何等ノ妨ケナシ

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

上告人 信史仙受 訴訟代理人 高木祖來

被上告人 橋本右衛門 訴訟代理人 不破清賢

證人無資格者ノ證言

右當事者間ノ奉納金及寄附金引渡請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十二年十月七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判 決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ差戻ス

理 由

上告論旨第一點ハ原判決ハ（抑被控訴人ニ於テ本訴ノ請求ヲ爲サントスルニハ先ツ控訴人カ一割奉納ヲ受領シタル事實アルコトヲ證セサルヘカラス然ルニ此點ニ對シ控訴代理人ハ甲第二號證ヲ提出スル他何等立證スル所ナシ而シテ同證ハ單ニ七月十五日トノミ在ルヲ以テ其證書自體ニ於テハ何年ノ成立ナルカヲ知ル能ハスト雖モ同證ハ明治二十七年ノ成立ニシテ控訴人カ會計係トナルニ際シ其任ナル岡本ト被控訴人間トノ計算ヲ明カニスル爲メ帳簿ニ被控訴人ノ檢印ヲ求メタルモノナルコトハ本院ニ於テ取調ヘタル證人奥村哲次郎ノ陳述ニ因リ明瞭ナレハ同證ハ被控訴代理人ノ主張スル如ク明治二十七年ヨリ同二十九年迄ノ一割奉納金ヲ控訴人カ受領シタルコトアリトノ證トスルニ足ラサルノミナラス云々）ト説明シ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタリ該判決ニ於テ上告人ノ立證ニ係ル甲第二號證ハ明治二十七年ノ成立ニシテ明治二十七年ヨリ同二十九年迄ノ一割奉納金ヲ控訴人カ受領シタルコトアリトノ證トスルニ足ラストシ該證立證ノ主旨ヲ排斥セラレタルハ專ラ證人奥村哲次郎ノ證言ニ基クモノナリ

然ルニ該證人ハ本訴ノ原因タル羽休三尺坊永續講ニ關シ被上告人ト同シク取締ニシテ殊ニ證人ハ其專務取締タルコトハ甲第一號證記名ニヨリ明カニシテ該證ハ被上告人モ認ムル所ナリ且又本件第一審第二回調書（被告代理人ハ云々被告ハ他ノ者ト右永續講ノ取締役ヲ爲シ居リテ講金ノ出納ニ從事シ居リタルコトアルモ一割奉納金並ニ特別寄附金ヲ直接取扱ヒタルコトナキニ付云々）第一審判決事實摘示ニ（假リニ被告ハ之ヲ取扱アリトスルモ該講ニハ被告ノ外數人ノ取締アリシヲ以テ被告一人ヲ相手取ルハ不當ナリ云々）被上告人ノ提出セル控訴狀ニ（控訴人ハ該頼母子講取締役トシテ取締役奥村哲次郎外十數名ト共ニ與ニ該講ノ金員出納ニ關與シタルコトハ之レアルモ是レ固ヨリ一己トシテ取扱ヒタルニアラス故ニ此取扱ノ結果本訴人ニ受取濟ニナラストノコトナレハ被控訴人ハ宜シク奥村哲次郎ヲ始メ總テノ取締ヲ相手取り云々）トアリ而シテ此事實ハ原院ニ呈出セラレシコトハ原院調書ニ（控訴代理人ハ控訴狀並ニ三十二年七月一日附準備書面ニ基キ事實ノ陳述ヲ爲シタリ）トアリ又原判決事實ノ摘示ニ（各事實上ノ演述ハ原判決ニ揭示スル所ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス）トアルニヨリ明瞭ナリ而シテ上告人ニ於テ被上告人ノミニ係リ出訴セシモノハ本訴請求ノ金員ニ係ル一般ノ責任ハ素ヨリ總テノ取締役ニ存スルコトハ被上告人ノ主張スル如クナルモ本訴ハ被上告人ハ金員ノ當該所持者ニシテ之レカ引渡ヲ請求スル訴ナルヲ以テナリ然リ而シテ證人ニ於テモ其訊問調書ノ如ク（問。其トキノ取締役ハ何人カ）答。十四人ナリ。問。スルト十四人ノ名義ニテ出スカ正當カ。答。十四人ノ互選

ニ依リタルモノカ出スモノナレハ一人ニテ出ス譯ナリト申立テアリテ此十四人ノ内ニハ證人モ含マレ居ルコトハ甲第一號證記名ニヨリ明カニシテ本訴請求金員ニ係ル擔當者ヲ互選テ以テ定メ即チ各取締一人ノ取締即チ被上告人ヲ代理ト定メ取扱ハシメタルモノナルコト亦タ明瞭ナリ如上ノ事實ナレハ本訴請求金ニ付證人ハ責任アルモノニシテ本訴ノ結果被上告人カ義務ヲ果ス能ハサルニ於テハ其辨償ノ義務ハ當然證人ニ歸スルモノニシテ而シテ此事實ハ原院ニ呈出シアリテ原院ノ知悉セラル、所ナリ然ラハ原院ニ於テ採用セラレタル證人ハ民事訴訟法第三百十條第五號ニ該當スルモノニシテ假令ヒ證人カ自ラ利害ニ關係ナキ旨ヲ陳述スルモ宣誓セシムルコトハ絶對ニ法律ノ許サ、ルモノナリ然ルニ原判決ハ證據人ニ宣誓セシメ此證言ヲ以テ判斷ノ材料ニ供シタルハ訴訟手續ニ違背シ且ツ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノナリト云フニ在リ

按スルニ證人與村哲次郎ニシテ果シテ本件訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ナランニハ原院カ之レニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問シタルハ訴訟手續上違法タルヲ免カレスト雖モ當事者之レニ異議ヲ唱ヘサル以上ハ裁判所ハ其證言ヲ採用スルニ於テ何等ノ妨ケアルコトナシ而シテ原審訴訟記録上當事者ヨリ異議ヲ申立テタル事蹟ナキヲ以テ其申立ナキモノト謂ハサル可カラス隨テ本上告論旨ハ其理由ナシ

其第二點ハ本件ニ付テハ甲第二號證ノ成立ハ明治二十七年ノ七月ナルカ將タ明治二十九年ノ七月ナル

カハ實ニ本件勝敗ノ繫ル所ニシテ重要ノ問題タリ而シテ本件第一審第一回調書ニ(裁判長ハ陪席判事ト筆談合議ノ上被告本人ヲ訊問スルコトニ決定スルヲ告ケ)問。被告橋本右衛門ナルヤ」答。左様ナリ(中間略ス)被告本人ニ」問。甲第二號證ニ一割奉納ノ分トアリ之レハ三尺坊へ寄附スル金ナリトノコトハ覺ヘアリヤ」答。夫レハ覺ヘアリ」問。然ラハ甲第二號證ニ別冊トアルハ奉納金之金高記載アル帳簿ニ認メ印ヲ吳レト云フニハナキヤ果シテ然ラハ出納ニ關スルモノナルコトハ見得ラル、ニアラスヤ」答。出納ニ關スル帳簿ナリトノコトハ見ルモ果シテ原告ノ云フ帳簿ナリトノ事ハ覺ヘス」問。出納ニ關スル帳簿ハ取締役ノ手ニ在リヤ」答。アリ」問。別冊帳簿トアルハ住職ニ渡シタルモノニハナキヤ」答。二十七年以後二十九年迄ハ取締ニ於テ取扱ヒ居リタリ」問。二十九年ハ何月迄カ」答。七月ニ解散トナリタリ」問。七月迄ハ甲第二號證ノ別冊帳簿トアルハ取締リノ手ニアリシヤ」答。左様ナリトアリ以上ハ被上告人ノ爲シタル裁判上ノ自白ナリ此自白ニ依リ甲第二號證ニ(一割奉納ノ分トアルハ甲第一號證ノ第十三條ノ奉納金ヲ云ヒ(別冊帳面)トアルハ奉納金ノ記録タル帳簿ヲ云フモノニシテ此帳簿ハ明治二十九年七月迄被上告人等ノ手ニ所持セリト云フヲ得ヘク而シテ一割奉納金ハ講會發會後ニアラサレハ生セサルモノニシテ其發會ハ甲第一號證ノ如ク明治二十八年十月十日ナレハ一割奉納金帳簿ノ事ヲ記スル甲第二號證ノ明治二十七年ニ成立スル筈ナシ即チ明治二十九年七月講會解散ニナリ警察ノ検査アル爲メ甲第二號證ノ成立シタルモノナルコト明カナルモノナリ茲ヲ以テ上告人

ハ原審ニ於テ第一回辯論調書(第一審ノ一回辯論調書中被告本人ニ甲第二號ハ一割奉納金ノ分トアリ云々トノ問ニ對シ云々然ラハ甲第二號ニ別冊トアルハ云々トノ問ニ對シ出納ニ關スル帳ト覺ユ原告人ノ云フ如キ帳トハ覺ヘストノ意ヲ採用シ甲第二號ノ事實ハ一割奉納金ニ關スルモノニシテ講方ニハ關係ナキコトヲ證ス尙ホ同調書ニ別冊帳トアルハ住職ニ渡シタルモノニアラスヤトノ問ニ二十九九年七月迄ハ取締リノ手ニアリ云々トノ意ヲ採用シ甲第二號證ノ成立ハ二十七年ニアラスシテ二十九九年ナルコトヲ證ス)ノ如ク被告上告人ノ自白ヲ採用シ甲第二號證ハ明治二十九年七月ノ成立ナルコトヲ主張セシニ原判決ハ之ヲ不問ニ付シ此自白ニ反對ノ判決アリタリ抑モ第一審ニ於ケル裁判所ノ自白ハ二審ニ於テモ有效ナルコトハ民事訴訟法第四百十八條ノ規定スル所ニシテ原判決ガ該自白ニ反對ノ事實ヲ認定スルニハ其錯誤タル立證ヲ俟テ取消シタル上ニアラサレハ爲ス可カラサルモノナリ或ハ然レトモ該自白ハ直接ニ甲第二號證ハ二十九年七月ノ成立ナリト自白シタルニアラサルヲ以テ自白ノ效ナシトスルモ此等被告上告人ノ申立ヲ採用シ上告人主張ノ事實ヲ立證シタルニ之ヲ不問ニ付シ何等ノ理由ヲモ付セラレサルハ亦タ不法タルヲ免レス即チ原判決ハ自白ニ關スル法則ヲ適用セサル不法アルニアラサレハ證據ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノナリト云フニ在リ

因リテ原審辯論調書ヲ查閱スルニ上告人カ原審ニ於テ甲第二號證ノ成立ハ明治二十七年七月ニアラスシテ同二十九年七月ナルコトヲ證明スル爲メニ被告上告人カ第一審ニ於テ爲シタル陳述ヲ採用シタルコ

トハ本上告論旨中ニ記載スル所ノ如シ而シテ甲第二號證ノ果シテ明治二十七年ノ成立ナルヤ將タ同二十九年ノ成立ナルヤハ原院カ認メテ以テ本件主要ノ爭點ト爲ス所ノモノニ重要ノ關係ヲ有スル問題ナルコトハ原判文上明白ナリ故ニ原院ハ本件訴訟ノ曲直ヲ判斷スルニハ必ラスヤ上告人ノ證據トシテ採用シタル被告上告人ノ陳述ヲモ其資料ニ供セサル可カラス然ルニ原判決ハ其冒頭ニ於テ「抑被控訴人ニ於テ本訴ノ請求ヲ爲サントスルニハ先ツ控訴人カ一割奉納金ヲ受領シタル事實アルコトヲ證セサル可カラス然ルニ此點ニ對シ被控訴代理人ハ甲第二號證ヲ提出スル他何等立證スル所ナシ」ト説明シ去リテ上告人ノ採用シタル證據ニ付キテハ一言モ記述スル所ナキヲ以テ原院ハ此證據ヲ不問ニ付シ其判斷ノ資料ニ供セサリシモノト認ムルノ外ナシ故ニ本上告論旨ハ相當ニシテ原判決全部ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ルモノトス

以上説明ノ如クナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百四十七條第一項同第四百四十八條第一項ニ依リ注文ノ如ク判決ス



○工費請負殘金請求ノ件

明治三十二年(オ)第二百六十七號  
明治三十三年九月二十日第一民事部判決

○判決要旨

一 第一審ニ於テ請求ノ原因ニ辯論ヲ制限シタル判決ニ對シ控訴アリ  
タル場合ニ控訴審ニ於テ請求ノ金額ノ點ニ付キ判決ヲ下シタルハ  
違法ナリ

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 佐藤要藏

訴訟代理人 山口 憲

被上告人 片山政次

訴訟代理人 竹内平吉

右當事者間ノ工費請負殘金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年十月二十三日言渡シタル判決ニ對  
シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判 決

原判決ヲ破毀ス

第一審ノ判決ヲ廢棄ス

被上告人ノ請求ノ原因ハ之レアルモノトス

數額ニ付キ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス

理 由

上告理由ノ第一ハ原判決ハ乙第一號ナル上告人ト訴外木村勝平間ノ工事請負契約ハ甲第一號證ニ依リ  
被上告人ニ於テ直接擔任シ木村勝平ハ乙第一號ノ契約ヨリ脱退セシモノナリトノ趣旨ヲ骨子トシ上告  
人ニ敗訴ヲ言渡サレタレトモ甲第一號證ノ三ニ同證ノ二ナル委任狀ヲ添附シテ差出シタルモノニシテ  
甲第一號ノ二ト木村勝平ノ脱退トハ兩立スルモノニアラス何トナレハ木村勝平カ甲第一號ノ三ナル契  
約ニ依リ乙第一號ノ契約ヨリ脱退シテ關係ナキモノナレハ甲第一號ノ三ト同時ニ同號ノ二ナル委任狀  
ヲ差出シ被上告人ヲ代理トスヘキ旨ヲ上告人ニ申出ツヘキ理ナケレハナリ此ヲ以テ上告人ハ甲第一號  
ノ二ナル委任狀ヲ援用シ訴外木村勝平ト上告人間ノ工事受負契約ハ依然存在シ被上告人ハ甲第一號ノ  
三ニ基キ木村勝平ノ代理者タル工事施行ノ任ニ當リタルニ過キス從テ直接ノ受負契約者タル受負代金  
ヲ請求スルハ失當ナリトノ抗辯ヲ提出セリ而シテ此甲第一號證ノ二ニ基ク代理抗辯ノ適否ハ實ニ本件  
ノ曲直ニ關スル至要ノ論點ナリトス然ルニ原判決ハ甲第一號ノ二ヲ援用シタル抗辯ニ對シ何等ノ判斷  
ヲ與ヘラレサルハ理由ヲ欠ク不法ノ裁判ナリト謂ヒ上告追加理由ノ第一ハ原判決ハ甲第一號ノ二ナル  
委任狀ヲ採用シテ判決ノ材料トセラレタリ是ハ原判決中「甲第一號證ノ二、四ナル工事設計書委任屆書  
等ニ添ヘ以テ被控訴人ノ許ニ差出シ其承諾ヲ求メタルモノナルコト甲第一號證ノ一ナル證明願ニ徴シ  
明瞭ナレハ云々」トアルニ因リ明ナリトス而シテ甲第一號ノ二ハ工事請負人木村勝平カ其請負タル工

事ニ關シ被告上告人ヲ代理トスル旨記載セシ委任狀ナレハ原院カ是ヲ採用セラレタル以上ハ被告上告人ハ  
工事請負人木村勝平ノ代理トシテ本案ノ工事ニ關與セシモノナルコトヲ認メラレタルモノト云ハサル  
ヘカラス然ルニ原判決後段ニ於テ被告上告人ハ木村勝平ノ代理ニアラス直接ノ請負人トシテ工事ニ關與  
セシモノナリト判示シ去レタルハ前後理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリトス何トナレハ本案件ニ於テ  
ハ代理者トシテ工事ニ關與セシ事實ハ直接受負人トシテ工事ニ關與セシ事實トハ兩立スルモノニアラ  
サレハナリト謂フニ在リ

按スルニ事實裁判所カ事實上ノ判斷ヲ下タスニ當リ其判斷ノ憑據ト爲リタル證據ニ付キ説明ヲ爲スニ  
於テハ判決ノ理由ハ備ハルモノニシテ敢テ當事者ノ提出シ援用シタル證據ニ付キ一々採否ノ説明ヲ爲  
サ、ルモ判決ノ理由ヲ欠クモノニ非ス又原院ハ甲第一號證ノ三及ヒ甲第三號證ニ依リテ事實上ノ判斷  
ヲ下タシ同證ノ二ヲ其判斷ノ材料ニ供シタルコトナキハ原判文上明晰ニシテ上告人ノ引用スル原判文  
ノ一段ハ單ニ甲第一號證ノ一ヲ同證ノ二、四ニ添ヘテ上告人ノ許ニ差出シ上告人ノ承諾ヲ求メタル事  
實ヲ叙述シタルニ過キスシテ同證ノ二ヲ以テ何等判斷ノ材料ニ供シタルモノニ非ス然レハ上告人代理  
人所論ノ如ク同證ノ三ト二ト其旨趣相容レサルモノナラン歟原院ハ證據取捨ノ職權ニ依リ同證ノ三ヲ  
採用シ其ニ採採用セサリシコト自ラ判然タルヲ以テ原判決ノ理由ニ於テ前後齟齬スルノ不法アルコト  
ナシ

其第二ハ原判文ニハ「被控訴人ハ乙第二乃至第五號證ヲ以テ控訴人カ本訴工事ニ干與セルハ當ニ木村  
勝平ノ代理タルニ過キスシテ直接工事ヲ受負タルモノニ非ラサル事實ヲ立證セントスルモ該證中元請  
負人木村勝平又ハ木村勝平代人片山政次ノ文字アルハ云々其以前使用セル文字ヲ依然襲用セルモノダ  
ルニ過キサルモノト認ム云々」ト判示セラレタレトモ以前被告上告人カ木村勝平ノ代理人タル文字ヲ使  
用セシトノコトハ當事者間一言半句モ申立テタルコトナク全ク原院ノ捏造ニ係ル事實ナリトス且被告  
告人カ木村勝平ノ請負工事ニ關與セシハ甲第一號契約ノ成立ニ原因セシモノナルコトハ原院モ認メテ  
ル、所ニシテ而シテ甲第一號ノ契約ハ請負人木村勝平ヲ脱退セシメ被告上告人ヲ直接請負人ト變更シタ  
リトノ原院判決ノ説明ナレハ其以前使用セシ文字ヲ襲用セシトノ説明ハ毫モ解スルヲ得ス而シテ此以  
前使用セシ文字ヲ襲用セシトノ事實ノ有無ハ乙第二號乃至五號證ノ運命ニ非常ノ大關係ヲ有シ從テ被  
上告人カ木村勝平ノ代理者ナルヤ否ヤヲ判スルニ至重ノ影響ヲ及ホス事實關係ナリトス如斯重大ナル  
事實ヲ原院カ捏造シテ判決ノ材料トセラレタルハ即チ不當ニ事實ヲ確定セシ不法ノ裁判ナリトスト謂  
フニ在リ

因テ乙第二號證乃至第五號證ヲ閱ミスルニ其日附ハ凡テ甲第一號證ノ日附ナル明治三十一年三月三十  
日以後ニ係ル而シテ此乙號數證ハ被告上告人カ直接受負人ニアラスシテ訴外木村勝平ノ代人タルコトヲ  
證セムカ爲メ上告人ノ提出シタルモノナルコト記録ニ徴シテ明カナリ然レハ原院ハ此等各證據ヲ實驗

シ甲第一號證ニ散見スル文字ニ照シテ以前使用セル文字ヲ依然襲用セルモノタルニ過キスト判定シタルモノニシテ原院カ事實ヲ捏造シテ判決ノ材料トシ從テ不當ニ事實ヲ確定シタルモノトノ論旨ハ失當ナリトス何トナレハ事實裁判所カ證據ヲ實驗シテ之ヲ取捨スルハ固ヨリ其職權ニ屬スル所ナレハナリ

其第三ハ本件ハ原因及ヒ數額ニ付爭アリ而シテ第一審裁判所ハ先其原因ニ付判決ヲナスヘキ事ヲ決定シ辯論ヲ原因ヲ爭フ點ニ制限セラレタルモノナレハ第一審ノ判斷ヲ受ケタルハ單ニ原因ノ當否ノミニシテ數額ニ付テハ未タ第一審ヲ經タルモノニアラス故ニ原因ナシトスル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ正當ナリトスル場合ニ於テハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻シ數額ノ爭ヲ判斷セシメサル可カラズ是ハ民事訴訟法第四百二十二條ノ規定スル所ニシテ條理上ニ於テモ亦然ラサルヲ得サル筋合ナリトス只例外トシテ數額ヲ認諾シ辯論ノ必要ナキ場合ニ限り差戻ヲ要セサルノミ而シテ本件ハ其數額ヲモ爭フモノナルコトハ答辯書及ヒ口頭辯論調書ニ照シ明白ナレハ右ノ例外ニ屬ス可キ事件ニアラス然ルニ原院判決ハ第一審ニ差戻サス直ニ數額ニ付判決ヲ下サレタルハ不法ナリトスト謂ヒ其第四ハ上告人ハ原院ニ於テ被告ノ請求權アリトスルモ其請求金額ハ承諾セサル旨ヲ申立被告ノ請求額ヲ否認セリ其ハ第一審答辯書及ヒ原院ニ提出セシ答辯書末項ノ記載ト原院ノ口頭辯論調書中事實關係ノ部ニ「被控訴人ハ第一審並ニ控訴ノ答辯書ニ因リ控訴代理人ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述ヲナシタリ」トアルニ

依リ明カナリトス如斯被告タル上告人ニ於テ原告タル被告上告人ノ請求ヲ否認セシ以上ハ其請求ノ相當ナル立證ヲ原告者タル被告上告人ニ於テ爲サ、ル限りハ被告タル上告人ハ其請求金額ノ不當ナルコトヲ立證スルノ責任ナキハ證據法上ノ原則ナリトス然ルニ原院判決ハ上告人カ其請求ヲ否認セシ事實アルニモ拘ハラズ原告タル被告上告人ノ請求ハ適法ニ立證セラレタルヤ否ヤノ判示モナク請求數額ニ付キ上告人カ不當ナリトノ反證ヲ提出セサルヲ以テ辨濟ノ責アリト判示セラレタルハ舉證ノ責任ヲ轉倒セル裁判ナリトスト謂フニ在リ

因テ訴訟記録ニ徵スルニ本件ノ控訴ハ第一審ニ於テ請求ノ原因ニ辯論ヲ制限シ其原因ノ爭ニ付キ先ツ與ヘタル判決ニ對シテ被告上告人ヨリ爲シタルモノニシテ原審ニ於テモ辯論ハ請求ノ原因ニ關シテノミ之ヲ爲シ其金額ニ付キ辯論ナキコト勿論ナリ然ルニ原院カ當事者ノ辯論ヲ爲サ、ルハ勿論控訴ト爲リ居ラサル否ナ控訴ト爲リ得ヘカラス且ツ記録ニ徵スレハ爭アル請求金額ノ點ニ付キ判決ヲ下シタルハ元來第一審ニ於テ爲シタル終局判決又ハ終局判決ト看做スヘキ中間判決ニ付テノミ控訴審ノ判斷ヲ受クヘキモノトスル法則ニ違反シタルモノニシテ原院判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免カル、コトヲ得ス

以上説明ノ如ク上告理由ノ第一乃至追加理由ノ第二ハ失當ナリト雖モ請求金額ノ判決ニ對スル追加理由ノ第三第四ハ相當ニシテ原院判決ヲ破毀スヘキ價值アルモノトス而シテ請求ノ原因ニ付テハ原院判決ニ依リテ確定セラレタル事實ニ依リ裁判ヲ爲スニ熟スルモノト認ム是レ民事訴訟法第四百四十七條第一

項第四百五十一條及第四百二十二條ノ規定ニ依リ主文ノ判決ヲ爲ス所以ナリ

○貸金請求ノ件

明治三十二年(オ)第二百八十二號  
明治三十三年九月二十五日第一民事部判決

○判決要旨

一 保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求  
セント欲セハ其住所ヲ立證スルヲ以テ足ルモノニ非ス必スヤ其所  
在ヲ證明スルヲ要ス

第一審 横濱地方裁判所

第二審 東京控訴院

上告人

海老塚四郎兵衛

訴訟代理人 岡崎正也

被上告人

堀谷左次郎

訴訟代理人 關島宇兵衛

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年十一月十四日言渡シタル判決ニ對シ上告人  
ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

理 由

上告理由ノ第一ハ本件ハ被上告人ニ於テ上告人ニ對シ保證義務ノ履行ヲ求ムルノ訴ニシテ上告人ハ是  
ニ對シ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキコトヲ請求シタルモノナリ然ルニ被上告人ハ主タル債務者  
カ行衛不明ナルヲ以テ催告スルコト能ハサル旨ヲ主張シ主タル債務者ニ催促ヲ爲サ、ルコトハ第一審  
ニ於テ認メテ爭ハサル所ナリキ詳言スレハ被上告人カ第一審ニ於テ主タル債務者カ本訴ノ當時其所在  
ヲ晦マシメタリトノ主張ノ理由ハ主タル債務者香取新之助ハ明治二十五年六月二十八日北海道へ寄留  
ノ届出ヲ爲シ居キナカラ明治三十一年七月十五日ノ頃ニ在リテハ該地ニ居住セザリシ事ト同年十一月  
十二日ニ至リ漸ク千葉縣へ寄留ノ届出ヲ爲シタル事實ニ依リ本訴起訴ノ當時即チ明治三十一年九月ニ  
アリテハ所在ヲ晦マシ居タルモノナリト云フニ外ナラス然ルニ第二審ニ至リテハ證人高辻謙治ノ證言  
ヲ引用シ明治三十一年八月頃迄ハ主タル債務者ノ住所ニ於テ請求シタリト主張シ以テ明治三十一年九  
月ノ頃迄所在不明ナリシトノ申立ヲ變更シタルモノナリ何トナレハ右被上告人申立ノ如ク明治三十  
一年八月頃ニ在リテ主タル債務者ノ住所ニ於テ催告ヲ爲シタルモノナリトセハ右當時ニ在リテ主タル

住所分明ナリシハ當然ニシテ即チ右申立ニ反對スル明治三十一年七月十五日頃ヨリ同年十一月十二日マテ主タル債務者ノ住所不明ナリシト第一審ノ申立ハ之ヲ變更シタルコト明カナリ若シ否ラストセハ被上告人ノ申立ハ一ツハ住所分明ナルコトヲ主張シ一ツハ住所ノ不明ナルコトヲ主張スルモノニシテ全ク相牴觸シ併立スヘカラサルモノナリ果シテ然ラハ主タル債務者カ行衛不明ナルヤ否ヤノ問題ハ消滅ニ歸シ控訴審ニ於ケル争點ハ催告ヲナシタルヤ否ヤニ歸着シタルモノナレハ此點ニ對シ判斷説明ヲ與フヘキ筋合ナルニ却テ被上告人ノ取消ニ依リテ消滅シタル主張ニ對シ主タル債務者ハ所在ヲ晦マシタルモノト判定シ以テ本件保證義務履行ノ請求ヲ容レタルハ一方ニ於テ必要ナル争點事實ヲ遺脱シ判決ヲ與ヘサル不法アリ他方ニ於テ當事者ノ申立テサル事實ヲ提出シタリト看做シ以テ判決ノ基本トナシタル不法ヲ免レサルカ若クハ被上告人ノ自認セル事實ニ反シ之ニ牴觸セル事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ

因テ原審ノ記録ヲ閱ミスルニ「控訴人一審ニ於テ（香取新之助ニ對シ催促ヲ爲サ、リシモ同人ニ對スル強制執行ニ於テ再ヒ配當ニ加入シタルハ債務履行ノ催告ヲ爲シタルニ相當スルヲ以テ更ニ催告スルノ必要ナシ故ニ被告ニ對シ直ニ本訴ヲ提起シタル旨）ノ陳述ハ之ヲ取消ス控訴人ハ出訴以前人ヲ以テ即訴外高辻謙治ナル者ヲ以テ催告シタルモ調金スルヲ得サル旨ノ答アリ且出訴當時香取新之助所在不明ノミナラス同人ハ無資産ノモノニ付即被控訴人ニ對シ本訴ヲ提起シタル次第ナリ」トアリテ香取新

之助即チ主債務者ノ所在不明ナルコトカ原審ニ於テモ被控訴人主張事實ノ一ナリシコト明カナリ加之被上告人カ原審ニ於テ新タニ提出シ原院カ其判斷ノ證據ト爲シタル甲第四號證乃至第六號證ノ立證趣旨カ起訴當時ニ於テ香取新之助所在ノ不明ナリトノコトニ在ルコトハ原院辯論調書ニ記載シテ明カナルカ故ニ主債務者ノ行方不明ナルヤ否ノ問題カ原審ニ於テ消滅ニ歸セサリシコト明確ナリトス而シテ以前主債務者ニ催告シタリシトノ申立ト起訴當時ニ於テ主債務者ノ所在不明ナリトノ申立ハ相容レサルモノニ非サルノミナラス原院ハ本件起訴ノ當時主債務者カ被上告人ニ對シテ其所在ヲ晦マシ居リタルモノナルカ故ニ被上告人カ上告人ニ對シテ直チニ本訴ノ請求ニ及タルハ相當ナリト判定シタルモノナルヲ以テ原判決ハ上告所論ノ如キ不法アルモノニ非ス

其第二ハ民法第四百五十二條ノ規定ニ因リ保證人カ債權者ニ對シ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求シ得ヘキ權利ハ債權者カ保證人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ何時ニテモ之ヲ行使シ得ヘキ筋合ニシテ其行使ハ必スシモ債權者カ保證人ニ對シ債務履行ノ訴ヲ提起スル以前ニ制限セラルヘキモノニ非ス依テ上告人ハ本訴第一審明治三十一年十二月五日及明治三十二年二月十三日ノ辯論ニ於テ乙第二號證ノ一二ヲ提出シ主タル債務者ノ現住所ヲ證明シ且ツ右主タル債務者ニ對シ先ツ催告ヲ爲スヘキコトヲ請求シ又原院ニ至リテ右同一ノ主張ヲ爲シタリ然ルニ原裁判所ニ於テハ「主債務者香取新之助ハ云々（中略）本件起訴ノ日明治三十一年九月二十六日頃ノ當時ニ在ツテハ債權者タル控訴

人ニ對シ其所在ヲ晦マシ居リタルモノト認定セサルヘカラス故ニ控訴人カ被控訴人ニ對シ直チニ本件ノ請求ニ及ヒタルハ相當ナリト判示シ要スルニ保證債務履行ノ起訴當時ニ在リテ主タル債務者カ住所不明ノ時ハ起訴後主タル債務者ノ所在分明トナルモ保證人ハ債權者ニ對スル催告請求權ヲ行使シ能ハサルモノ、如ク單ニ右起訴當時主タル債務者ノ所在不明ナリシトノ理由ニ依リ上告人ノ抗辯ヲ棄却セラレタルハ法則ニ反スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ原審ニ於テ上告人カ乙第二號證ノ一二ヲ提出シテ先ツ主債務者ニ催告スヘキコトヲ請求シタル事跡ハ原院ニ於ケル記錄ヲ查閱スルモ之ヲ發見セス今假ニ此抗辯ノ提出アリタリトスルモ被上告人ハ主債務者ノ所在不明ナルカ故ニ保證人タル上告人ニ對シテ請求スル旨ヲ主張スル者ナルヲ以テ上告人ハ之ニ對シ主債務者ノ現住所ヲ證明スルヲ以テ足ルモノニ非スシテ主債務者其人ノ所在ヲ證明セサルヘカラス然ルニ第一審調書ニ記載スル所ニ依レハ上告人ハ同審ニ於テ乙第二號證ノ一二ヲ提出シテ其現住所ヲ證明セントスルニ止マリ主債務者其人ノ所在ヲ證明セントスルモノニ非サルカ故ニ原院ハ甲第四號乃至第六號證ニ因リ本件起訴當時ニ於テ主債務者ノ所在不明ニシテ被上告人ノ請求相當ナルコトヲ判示シタルニ過キス原判決ハ保證債務ノ履行請求ノ訴提起アリタル後ハ何レノ場合ト雖モ債權者ニ對シ催告ノ抗辯ヲ對抗スルコトヲ得ストノ趣旨ニ非ス要スルニ本論旨モ亦失當ナリトス上來説明ノ如クナルヲ以テ民事訴訟法第四百五十二條第七十二條第一項ニ依リ主文ノ判決ヲ爲ス

○預金請求ノ件

明治三十三年(オ)第二百六十四號  
明治三十三年九月二十九日第一民事部判決

○判決要旨

一 舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社カ社印ヲ押捺セシメテ交付シタル書類ハ總テ無効ノ制裁アルモノニ非ス(判旨第一點)

(參照) 社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ(舊商法第七十二條)

一 證券印稅規則ハ印紙稅法ヲ以テ改正セラレ舊法第四條ノ制裁ヲ廢止シタルカ故ニ無印紙又ハ貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判上裁判所ハ任意之ヲ採用スルコトヲ得(判旨第三點)

(參照) 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但シ處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラズ(證券印稅規則第四條)

會社印ナキ文書ノ效力、無印紙證書ノ證據力

明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス(印紙稅法第十六條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 株式會社日宗銀行

右法定代理人 大島 正辰 訴訟代理人 平井恒之助

被上告人 大島 正辰

右代理人 大島 正辰

右當事者間ノ預金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年四月四日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ノ第一ハ原院判決ニヨレハ甲第二號證ハ社印ノ押捺ナキニモ拘ハラヌ大島正辰ニ於テ上告人銀行ヲ正當ニ代表シタルモノトシテ其效ヲ認メラレタリト雖舊商法第七十二條ニ社印ハ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用ユトアリテ會社カ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ書類ニハ社印ノ押捺ヲ以テ有效要件トナシタルヤ同法條並ニ前後ノ條項ニ照シ明了ナリトス然ルニ原院ニ於テハ該法律ハ訓示の規定トシテ上告人主張ノ論旨ヲ排斥セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリ

ト信スト云ヒ其第三ハ舊商法第七十條ニ「會社ハ社名ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設クルコトヲ要ス」又同法第七十一條ニ「社印ニハ社名ヲ刻ミ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存スル爲メ之ヲ第十八條ニ掲ケタル裁判所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス」トアリテ會社存立ニハ社印ノ作調及ヒ其印鑑届出ヲ要シ又同法第七十二條ニ「社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ」トアリ原院判旨ニ「舊商法第七十二條ハ訓示の規定ニ過キスシテ社印ヲ以テ書類ノ有效要件トナシタルモノニアラス」ト説示セラレタリト雖モ前掲法律ノ明文ニ(一)會社ニ社印ヲ所有セシメテ印鑑ノ提出ヲ命ジ(二)社印押捺ノ場合ヲ規定シアルニ徴スレハ會社ノ書類ニハ社印ノ押捺ヲ要スルヤ明ナリ若シ原院判旨ノ如クセハ該法條ハ悉ク徒法空文タルヲ免カレヌ何ントナレハ社印ヲ用ユルト用イサルトハ會社ノ任意ナリトセハ會社ニ社印ヲ所有セシメテ印鑑ノ提出ヲ命スルノ必要秋毫モ存セザレハナリ蓋シ會社ノ法律行爲ハ自然人チシテ代表セシムルカ故權利ヲ得義務ヲ負フヘキ書類ニハ即チ社印ヲ用ヒ以テ會社ノ行爲タルヲ標識セシムルノ要アレハコソ抑々該法律ノ規定アル謂レニシテ徒ラニ無用ノ條文ヲ配置シタリト云フヘカラス原院判定ノ如クナリセハ會社ヨリ官廳ニ呈出スル書類及株券報告書等ノ如キ社印ノ押捺シアラサルモノト雖モ當然有效タレハ會社ハ社印ヲ押捺スルノ煩ヲ避ケ多クノ場合ニ之レヲ押捺シアラサルノ奇觀ヲ生シ該規定ノ旨意ト相反スル甚シキニ至ルヘシ故ニ原院ハ舊商法

第七十二條ノ見解ヲ誤リ爲メニ該條ヲ適用セサルノ違法アルヲ免カレスト云ヒ又其第四ハ舊商法第七十條乃至第七十二條ノ法文ヲ參照シ其規定ノ精神ヲ究ムレハ則チ會社カ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ書類ニハ社印ノ押捺シアルト否ラサルトニヨリ會社ノ發シタルト否トチ區別シ從テ其結果トシテ社印ノ押捺シアラサルモノハ會社ノ發シタル書類ニアラサルノ推定ヲ受クヘシ故ニ甲二號證ノ如ク社印ノ押捺シアラサル書類ハ會社ニ對シテ特立シテ完全ノ證據力ヲ有セス必ス他ニ補充ノ證據ヲ要スヘキナリ原院判旨ニ「控訴人ニ於テ甲二號證ハ大島正辰ノ實印ナルコトハ認ムルモ該證ニ社印及ヒ頭取印ノ押捺シアラサルヲ以テ同人ハ銀行ヲ代表シタルモノニアラスト主張スレトモ大島正辰カ控訴銀行ノ頭取タルコトニ爭ヒナク且ツ甲二號證ニ明カニ日宗銀行ノ頭取ト記載シアル以上ハ同人ハ銀行ヲ代表シテ行爲ヲナシタルモノト認ム」云々トアリテ(一)大島正辰ノ頭取タル事實ト(二)日宗銀行頭取ト記載シアル文言トニヨリ甲二號證ハ社印ノ押捺シアラサルニ拘ハラス有效ノ證書ナリト斷定セラレタリト雖抑々前掲(一)(二)ノ事項ハ上告人ニ於テハ大島正辰カ頭取トシテ正當ニ行爲シタルモノナリセハ社印ノ押捺シアラサルヘカラス然ルニ其頭取タル文言ヲ記載シナカラ社印並ニ頭取印ヲ押捺セス却テ自己ノ實印ヲ押捺シタルハ頗ル怪シムヘシ故ニ同人ハ當時上告人ヲ代表シタルニアラスト從テ上告人ハ同證ニ對シテハ何等ノ權利關係ヲ有セスト爭ヒタル謂レニシテ該爭點ニ干シテ被上告人ハ何等ノ立證ヲ爲サ、ルニ拘ハラス其爭アル事實ヲ探テ以テ證據トシ判定ノ材料ニ供セラレタルハ探證法則ヲ誤

判旨第一點

リ不當ニ事實ヲ確定シタル違法アリト信スト云フニ在リ○然レトモ舊商法第七十二條ノ規定ハ原院カ判示セシ如ク訓示的ノモノニシテ會社カ社印ヲ捺セスシテ交付シタル書類ハ總テ無効ナリトノ制裁アルモノニ非ス然レハ原院カ甲二號證ニ對スル上告人ノ主張ニ付キ「大島正辰カ控訴銀行ノ頭取タルコト爭ナク且甲二號證ニ明ニ日宗銀行頭取ト記載アル以上ハ同人ハ銀行ヲ代表シテ行爲ヲ爲シタルモノト認ム」ト説明シテ甲二號證ノ效力ニ付キ事實上ノ判斷ヲ爲シタルモ其判斷ハ毫モ法律ニ違背スル點ナシ

其第五ハ原院ニ於テ上告人ハ甲一號證ニハ明ニ社印並ニ頭取印ノ押捺シアルニ拘ハラス同證ト全然效  
用ヲ同フスル甲二號證ニハ單ニ大島正辰カ上告人銀行ノ頭取ト記載シテ同人ノ實印ノミヲ押捺シアル  
ハ之レ則チ同人ハ正當ニ代表セラレス且ツ被上告人モ上告人銀行ヨリ發スル證書ハ社印並ニ頭取印ノ  
押捺シアルヲ知得シナカラ特ニ甲二號證ニ限リ大島正辰一己ノ印ノミニヨリテ上告人ニ責メテ負ハシ  
メントスルハ自己ノ過失ヲ他ニ歸セシメントスルモノニシテ旁以テ不當ナリト申立タリ然ルニ原院判  
文ヲ閱スルニ該爭點ハ毫モ說示セス全然遺脱シ以テ不當ニ事實ヲ確定セラレタル違法アリト信スト云  
フニ在レトモ○原審ニ於テ上告人カ前掲ノ如キ申立ヲ爲シタルコトハ原審ニ於ケル記錄ヲ調査スルモ  
其形跡ナク隨テ其爭點トナリタル形跡ナキカ故ニ原判決ハ上告所論ノ如キ不法アルモノト爲スコトヲ  
得ス



其第二ハ甲第二號證ノ成立ハ明治三十一年九月十七日ニシテ當時ノ證券印稅法ニヨレハ相當印紙ノ貼用ナキ書類ハ裁判上證據トシテ採用スヘキモノニアラス右ハ法律ノ明定及本院判例ノ認ムル所ナリ然ルニ原院ハ單ニ現行印紙稅法ニ無效規定ナキヲ以テ云々ト說示シテ之ヲ有效ト判定セラレタリト雖現行印紙稅法ハ明治三十二年四月ノ頒布ニシテ其以前ノ制度ニ溯及ノ效ナキハ論ヲ俟タス故ニ此點ニ對スル原院判決モ又不當ニ法律ヲ適用シタル違法アリト信スト云フニ在レトモ○明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ明治三十二年第五十四號法律ヲ以テ改正セラレ舊法第四條ノ制裁ヲ廢止シタルカ故ニ無印紙又ハ貼用不足ノ證書帳簿ト雖モ民事裁判上裁判所ハ任意之ヲ採用スルコトヲ得ルニ至レリ而シテ舊法ニ於テ定メタル制裁ヲ不必要トシ新法ニ於テ之ヲ廢止シ又ハ之ヲ輕減シタル場合ニ於テハ縱令舊法ノ下ニ發生シタル行爲ニ付テモ其新法ニ依ルヘキハ法律上ノ制裁ニ干スル法理ナルカ故ニ原判決ハ相當ニシテ上告所論ノ如キ不法アルコトナシ

上來説明ノ如ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ主文ノ判決ヲ爲ス

判旨第三點

○大審院民事部裁判長及部員氏名表

第一民事部

裁判長

院長 判事男爵南 部 夔 男

部員

- 判事 井上正一
- 判事 岡村爲藏
- 判事 和田收藏
- 判事 馬場愿治
- 判事 清水一郎
- 判事 志方 鍛

本部ノ開廷

火 曜 日

木 曜 日

民事判事氏名表

土 曜 日

本部ノ所管

人事、米穀、物品、證券、金錢、損害要償

第二民事部

裁判長

部長 判事 寺 島 直

部員

- 判事 西川鐵次郎
- 判事 今村 信 行
- 判事 柳 田 直 平
- 判事 芹 澤 政 温
- 判事 掛下重次郎

本部ノ開廷

月 曜 日

水 曜 日



民事判事氏名表

九月四日豫備代理 判事 井原師義

開廷日

火曜日

金曜日

大審院刑事判決錄

總 目 錄  
刑 法

刑事ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證シタル所  
爲ノ事.....一

被告人ノ罪ノ有無ハ偽證罪ノ成否ニ影響ヲ及ホサストノ事.....一

町村ノ收入役ニシテ徵收シタル府縣稅ヲ竊取シタル所爲ノ事.....三

監守盜罪ヲ犯スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ノ事.....三

他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ竊取シタル所爲ノ事.....八

既ニ抵當典物ト爲シタルコトヲ欺隱シテ重ネテ抵當ト爲シタル所爲ノ事.....三

詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタル所爲ノ性質ノ事.....六

郵便爲替券ヲ竊取シタル上其金圓ヲ收受スルニ付キ之ヲ變換行使シタル  
所爲ノ事.....六

民 法

債務者ノ行爲ニ因リ擔保ヲ失ヒタル場合ニ於ケル債權者ノ請求權ノ事……………一六

刑事訴訟法

刑事訴訟法第九十八條第二項ニ所謂證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ  
 爲サシムヘシトノ趣旨ノ事……………一六  
 詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對スル免訴ノ事……………一八  
 檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ法則(刑事訴訟法第二百十八條第二項)ノ  
 適用ノ事……………一九

事件目錄

事 件	關係事項	判決 月日	番 號	訴訟關係人	丁數
偽證ノ件	偽證罪ノ構成	九月十七日	三十三年 九八〇號	被告 平井政太郎	一
監守盜及私書偽造行使ノ件	收入役ノ監守盜、監守盜ニ因 ル私書偽造行使	九月十七日	三十三年 九八三號	公訴狀上告人 柴村勘左衛門 私訴狀上告人 日向	三
竊盜ノ件	竊取品ノ所有者	九月二十日	三十三年 九八八號	被告 船田政吉	八
詐欺取財ノ件	抵當ノ欺隱	九月廿一日	三十三年 九七三號	被告 土開用次郎	三
私印私書偽造行使ノ件	證憑物件ノ辯解	九月廿四日	三十三年 九八二號	被告 淺香忠五郎	六
私書偽造行使並附帶私訴ノ件	擔保物喪失ノ救済方法、詐欺 取財ニ因ル私書偽造行使	九月廿七日	三十三年 九八一號	公訴狀上告人 五十嵐孝三 私訴狀上告人 岡田 凌	六
竊盜及官文書偽造行使ノ件	竊取爲替券ノ變改	九月廿八日	三十三年 九五一號	被告 吉成縫藏	六
竊盜及監視規則違反ノ件	被告事件ノ陳述	九月廿八日	三十三年 九五四號	被告 森 福太郎	六

いろは索引

此索引ハ専ラ法律上ノ用語ニ依リ其頭音ヲ取テいろはノ順ニ從ヒ排列編纂ス止ムヲ得サルニ非サレハ形容詞者クハ普通名詞ヲ用ヒス〇頭音ハ必スシモ字音ノ假名遣ニ拘ハラズ人ノ通常言フ所ノ音聲ニ據ル例之ハいろはニ入ルトカ如シ

〔カ〕

二重抵當

(抵當ノ欺隱。參看)

〔ヘ〕

辯解

(證憑物件ノ辯解。參看)

〔ト〕

登記ノ效力

(抵當ノ欺隱。參看)

〔チ〕

町村収入役ノ監守盜

(収入役ノ監守盜。參看)

〔リ〕

利益ノ證憑

(證憑物件ノ辯解。參看)

〔カ〕

監守盜罪ノ構成

(収入役ノ監守盜。參看)

監守盜ニ因ル私書偽造行使

犯罪遂行ノ手段ト雖モ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テハ特別ノ定メナキ限リハ別罪ヲ成スモノトス故ニ監守盜罪ヲ犯スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ私書偽造行使竝ニ監守盜ノ二罪ヲ構成ス

刑事いろは索引

丁數

三

六

三

三

六

〔ク〕

貸金辨濟ノ請求

(擔保物喪失ノ救濟方法。參看)

官文書變造罪ノ構成

(竊取爲替券ノ變改。參看)

擔保物喪失ノ救濟方法

債務者ノ行爲ニ因リ擔保(貨物)ヲ失ヒタル場合ニ於テハ債權者ハ直チニ貸金辨濟ノ請求ヲ爲シ或ハ擔保物(貨物)ノ回收ヲ請求スルコトヲ得ルモ損害賠償トシテ公訴ニ附帶シ貸金ノ元利ヲ請求スルコトヲ得ス

損害賠償

(擔保物喪失ノ救濟方法。參看)

刑事ノ偽證

(偽證罪ノ構成。參看)

不利益ノ證憑

(證憑物件ノ辯解。參看)

抵當ノ欺隱

登記ヲ經由シタルト否トナ間ハス既ニ抵當

丁數

六

三

六

一

六

三

三

ト爲シタルコトヲ欺隠シテ重子テ抵當ト爲シタル所爲ハ刑法第三百九十三條第二項ノ罪ヲ構成ス

詐欺取財罪ノ構成

(抵當ノ欺隠。參看)

債務者ノ不法行爲

(擔保物喪失ノ救済方法。參看)

詐欺取財ニ因ル私書偽造行使

詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ナルヲ以テ私書偽造ニ付キ免訴ヲ言渡シタルトキハ詐欺取財モ亦其免訴中ニ包含セラルトモノトス

偽證罪ノ構成

刑事ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證シタル以上ハ偽證罪ハ直チニ成立スルモノニシテ被告人ノ罪ノ有無ハ偽證罪ノ成否ニ影響ヲ及ボサス

郵便爲替券ノ竊取

(竊取爲替券ノ變改。參看)

事實ノ掩蔽

(偽證罪ノ構成。參看)

收入役ノ監守盜

町村ノ收入役ハ府縣稅領收ノ職務ヲ有ス從テ其領收シタル税金ヲ監守スルノ職責アルヲ以テ之ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス

所有者ノ明示

(竊取品ノ所有者。參看)

證憑物件ノ辯解

刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定ハ被告人ニ對シ不利益ナル證憑ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムヘキ趣旨ナリトス從テ利益ノ證憑ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナシ

實質上ノ一罪

(詐欺取財ニ因ル私書偽造行使。參看)

私書偽造行使ト詐欺取財

(詐欺取財ニ因ル私書偽造行使。參看)

被告人曲庇ノ所爲

(偽證罪ノ構成。參看)

被告事件ノ陳述

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シトノ法則(刑事訴訟法第二百十八條第二項)ハ第一審公判ニ適用スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用

〔七〕

竊取品ノ所有者

用スヘキモノニ非ス他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ヲ構成ス從テ其所有者ヲ明示スルヲ必要トセス

竊取爲替券ノ變改

郵便爲替券ヲ竊取シタル上其金圓ヲ收受スルニ當リ之ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ竊盜罪並ニ官文書變造行使罪ヲ構成ス



法 文 表

刑法

三九三條……………三

刑事訴訟法

一九八條二項……………六

二二八條二項……………九

丁數

刑事法文表

月 日 目 録

宣告月日	番 號	判決結果	原 審	丁 數
九月十七日	三十三 れ八〇一號	棄 却	東 京	一
九月十七日	三十三 れ八三五號	棄 却	東 京	三
九月二十日	三十三 れ八八一號	棄 却	東 京	八
九月二十一日	三十三 れ七八二號	棄 却	大 阪	三
九月二十四日	三十三 れ九二五號	棄 却	東 京	六
九月二十七日	三十三 れ九八一號	一 部 破 毀	宮 城	六
九月二十八日	三十三 れ九五一號	棄 却	大 阪	六
九月二十八日	三十三 れ九五四號	棄 却	長 崎	元

總 計 八 件  
 棄 却……………七 件  
 一 部 破 毀……………一 件

人名音字目録

人名	番號	原審	丁數
五十嵐 孝義 <small>公訴私訴上告人</small>	三十二年 れ九八一號	宮城	六
五十嵐 庄三郎 <small>公訴上告人</small>	三十二年 れ九八一號	宮城	六
岡田 凌 <small>私訴被上告人</small>	三十二年 れ九八一號	宮城	六
吉成 纒 <small>藏被</small>	三十二年 れ九五二號	大阪	三
土開用次 <small>郎被</small>	三十二年 れ七八二號	大阪	三
船田 政 <small>吉被</small>	三十二年 れ八八一號	東京	八
淺香 忠五 <small>郎被</small>	三十二年 れ九二五號	東京	六
紫村 勘左衛門 <small>公訴私訴上告人</small>	三十二年 れ八三五號	東京	三
平井 政太 <small>郎被</small>	三十二年 れ八〇一號	東京	一
日向 靖 <small>私訴被上告人</small>	三十二年 れ八三五號	東京	三
森 福太郎 <small>被</small>	三十二年 れ九五四號	長崎	元

# 大審院刑事判決録

第六輯

第八卷

## ○偽證ノ件

明治三十三年九月十七日宣旨  
明治三十三年第九〇一號

### ○判決要旨

刑事ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證シタル以上ハ偽證罪ハ直チニ成立スルモノニシテ被告人ノ罪ノ有無ハ偽證罪ノ成否ニ影響ヲ及ホサス

第一審 水戸地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院

被告人 平井政太郎 辯護人 茂手木慶信

右偽證被告事件ニ付明治三十三年六月十九日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告平井政太郎ヲ重禁

偽證罪ノ構成

鋼十五日ニ處シ罰金貳圓ヲ附加スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告辯護人茂手木慶信ノ上告趣意ハ原判決ノ理由ニ「(上略)千太郎ノ犯罪ヲ曲庇スル意思ヲ以テ明治三十二年九月十八日小澤熊藏ハ自ラ證人方ニ來リ懷中ヨリ實印ヲ取出シ證人カ吉田千太郎ニ頼マレ代書シタル委任狀地所賣渡證書等ニ押印スヘキコトヲ依頼シタルニ付之ヲ受取り右書類ニ捺印シタル旨不實ノ事ヲ陳述シ引續キ右同月十五日前同様訊問ヲ受クルニ至リ前同ノ陳述ハ事實ニ相違ナキ旨ヲ供述シ以テ事實ヲ掩蔽シ偽證シタルモノト認ム」トアレトモ吉田千太郎被告事件ハ明治三十三年五月七日水戸地方裁判所下妻支部ニ於テ無罪ノ言渡シヲ受ケタリ而シテ其理由ハ「熊藏ヨリ被告千太郎ニ實印ヲ貸與スルニ於テ地所ノコトニ關シ書類ヲ作製シ該印ヲ使用スルコトハ豫メ默諾ノ上貸與シタルモノト云ハサルヲ得ス云々千太郎ニ於テ承諾以外ニ印ヲ使用シ書類ヲ作製シタルモノト云フヲ得ス云云」ト云フニ在リテ吉田千太郎カ熊藏ヨリ地所ノ賣買ニ付キ實印ヲ受取り其使用ヲ聽サレタルコトハ確的ノ事實ナリト云ハサルヲ得ス印判ノ使用ヲ聽サレタル上ハ吉田千太郎カ自ラ熊藏ノ印影ヲ捺スルモ本人熊藏カ自ラ捺スルモ吉田千太郎カ印影盜用等ノ犯罪行爲ニ何等ノ影響ヲモ及ホス可キモノニアラサルナリ抑モ偽證罪ノ構成ニ於ケル本罪ヲ曲庇若クハ陷害スルノ意ニ出ルト雖モ其證言カ本罪ニ何等ノ影響ヲモ及ホサル限リハ之ヲ罪トシ論スルノ必要ナカル可シ因テ被告ハ原院ニ於テ下妻支部ノ判決ヲ引用シ反證ヲ供シタルニ此點ニ付何等ノ理由ヲ附セサルノミナラス本件ハ以上述ルカ如ク罪トシ論ス可ラサルニモ拘ラス刑法第二百十八條第二ニ適用處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○荷モ刑事ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル上ハ偽證罪ハ直ニ成立スルヲ以テ被告人ノ所爲カ罪トナラスシテ偽證カ其效果ヲ生シタルヤ否ヤハ偽證罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ又原判文ニ罪トナルヘキ事實及ヒ之ヲ認メタル證據並ニ法律上ノ理由ヲ明示シタル上ハ被告提出ノ反證ニ對シ説明ヲ爲スノ要ナキヲ以テ本論旨ハ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年九月十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○監守盜及私書偽造行使ノ件

明治三十三年九月十七日宣旨

○判決要旨

(判旨第三點) 町村ノ收入役ハ府縣稅領收ノ職務ヲ有ス從テ其領收シタル稅金ヲ監守スルノ職責アルヲ以テ之ヲ竊取シタルトキハ監守收入役ノ監守盜○監守盜ニ因ル私書偽造行使

盜罪ヲ構成ス

(判旨第五點) 犯罪遂行ノ手段ト雖モ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テハ特別ノ定メナキ限リハ別罪ヲ成スモノトス故ニ監守盜罪ヲ犯スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ私書偽造行使竝ニ監守盜ノ二罪ヲ構成ス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 紫村勘左衛門

私訴被上告人 日向 靖

右監守盜及私書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月十六日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決ヲ取消ス被告勘左衛門ヲ輕懲役七年ニ處ス差押金品ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴費用ハ全部被告ノ負擔トス私訴ニ付テハ原判決ヲ取消ス控訴人ハ金三百四十六圓六十五錢ヲ被控訴人ニ賠償ス可シ私訴費用ハ第一二審トモ控訴人ノ負擔トスト言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告趣意書ハ原判決ハ其認定シタル事實ニ從フモ委託金費消罪ヲ構成スルニ過キサレモノナルニ監守盜ノ罪ニ問擬シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ヲ免レサルモノト云フニ在レトモ○原判決ハ

被告ハ茨城縣行方郡潮來町收入役奉職中其管守ニ係ル賦金ヲ竊取シタル事實ヲ認メタルモノナレハ此事實ニ對シ監守盜罪ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタルモノニアラス

私訴上告趣意書ハ公訴上告趣意書ニ申立ツル如ク上告人ハ納稅者ヨリ委託ヲ受ケタル金圓ヲ費消シタル責ヲ免レスト雖モ本件民事原告人ヨリ私訴ノ請求ヲ受クヘキ謂レナキモノト云フニ在レトモ○前說明ノ如ク被告ハ管守ニ係ル税金ヲ竊取シタルモノナレハ其被害者ハ本件ノ民事原告人ニ在ルヲ以テ同人ヨリ私訴ノ請求ヲ爲スハ當然ナレハ上告ハ其理由ナシ

辯護士擴張書第一點ハ原判決ニ所謂娼妓賦金ハ府縣稅ニシテ市町村ハ府縣稅徵收法第一條ニ因リ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アリ而シテ同法第八條ニ依レハ市町村長ノ發スル徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人ハ税金ヲ市町村收入役ニ拂込ムヘキコトヲ規定ス此規定ハ納稅人カ納稅ノ便宜手段トシテ其市町村ノ收入役ヲ經由スヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ法制上管理ノ職責收入役ニ存スルコトヲ明カニシタルニ非ラサルハ法文上疑ヲ容レズ御院ハ嘗テ町村制第七十一條ノ規定ニ關シ本條ハ町村收入役カ町村ノ收入支出ヲ掌ルコトヲ規定スルニ止マリ町村有ノ財産ヲ管理スルハ素ヨリ町村長ノ職ニ屬スト解釋セラレタリ町村有ノ財産ニシテ猶且ツ然リ一時行政上ノ便宜ノ爲メニ收入役ニ於テ徵集シ更ニ町村ノ名義ニ於テ府縣ニ納稅スヘキ府縣稅ノ如キ其管理ノ職責收入役ニコレアルヘカラサルハ自明ノ理ナリ然ルニ上告人ニ擬スルニ監守盜犯トシテ刑法第二百八十九條ヲ以テシ

收入役ノ監守盜○監守盜ニ因ル私書偽造行使

判旨第三點

タルハ擬律ノ錯誤タルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○收入後ハ府縣稅徵收法ノ規定ニ基キ各納稅人ヨリ拂込ミタル稅金ヲ領收スル職務ヲ有スルモノナルヲ以テ已ニ職務上之レヲ領收シタル以上ハ該金ニ對シ其管守ノ職責アルコト勿論ナリトス而シテ被告ハ其管守ニ係ル金員ヲ竊取シタルモノナレハ原院カ監守盜罪ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ニアラス』其第二點ハ原判決ハ漫然上告人ヲ刑法第二百八十九條ニ問擬シタレトモ果シテ同條第一項ニ依リタルモノナルカ將タ同條第二項ニ依リタルモノナルカ明カニセサルノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告ハ其管守スル所ノ稅金ヲ竊取シタル事實ヲ認メ刑法第二百八十九條ヲ適用シタルモノナレハ同條第一項ニ依リタルコト自カラ明カナルヲ以テ之ヲ示サ、ルモ不法ニアラス』其第三點ハ原判決ハ上告人ニ娼妓賦金竊取及ヒ私書偽造變造行使ノ二所爲アルモノトシテ各刑法第二百八十九條及ヒ第二百十條第二項ヲ適用シ同第百條ニ則リ重キ監守盜ノ罪ニ從ヒ處斷セラレタリ然レトモ按スルニ本件第二ノ所爲タル私書偽造變造ニ必須欠クヘカラサル手段ニ供セラレタルモノニ過キスシテ處分上第一ノ所爲ニ吸收セラルヘキモノニ屬ス監守盜ヲナスニ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタル場合ノ處分ハ別ニ刑法第二百八十九條第二項ニ規定セラレ別罪ヲ構成スルヤ勿論ナリト云ヘトモ私文書ニ關シテハ別ニ何等ノ規定ナシ乃チ刑法ハ如斯場合ヲ別罪ト看做サ、ルモノナルコトヲ知ル原院カ此二所爲ニ對シ別罪トシテ法則ヲ適用シタルハ不法タリト信スト云フニ在レトモ○假令犯罪遂行ノ手段ナリト雖モ苟モ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テ

判旨第五點

特別ノ定メナキ限リハ別ニ之ヲ問擬スヘキモノナリ而シテ本件ノ私文書偽造行使ハ別箇ノ犯罪行為ニシテ監守盜罪ニ吸收セラルヘキモノニアラス故ニ原院カ二個ノ所爲ヲ認メ刑法第百條ニ依リ處斷シタル相當ナリトス』其第四點ハ原判決事實認定理由ノ部ニ掲ケル第四十一第四十二第四十三ノ三項ヲ檢案スルニ何レモ描改ノ痕迹ヲ印セリト盲斷シタルノミニシテ其描改ハ果シテ上告人ノ所業ニ係レリヤ否ヤヲ知ラシムルニ足ル證據ヲ示サスカクノ如キハ不當ニ事實ヲ認定シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ハ列舉シタル各證據ノ理由ヲ説明シ其結尾ニ於テ前説明ノ如ク屆書中多數ハ被告ノ自筆ニ係リ若クハ被告ノ印影ヲ捺捺シアルヲ以テ被告ノ偽造變造ノ所爲ヲ確ムルニ足ルト其認メタル理由ヲ掲ケアレハ證據ニ依ラスシテ不當ニ認定シタルモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ被告ノ負擔トス

明治三十三年九月十七日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十三年九月二十八日宣告

○判決要旨

他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ヲ構成ス從テ其所有者ヲ明示スルヲ必要トセス

第一審 前橋地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 船田 政吉

右竊盜被告事件ニ付明治三十三年七月二日東京控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ明治三十二年九月三日被告カ松本寅吉方ニ於テ瀧田八五郎所有ノ外套ト被告所有ノ外套トヲ誤リテ持歸リタリトノ理由ニ依リ原院カ被告ヲ竊盜犯ニ處斷シタルハ擬律錯誤ニシテ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ瀧田八五郎ノ外套ヲ竊取シタル事實ヲ認メ竊盜罪トシテ處斷シタルモノニシテ論旨ノ如ク被告カ誤テ持歸リタル事實ヲ認メタル事ナケレハ本論旨ハ原判決ノ趣旨ニ副ハサルモノニシテ上告ノ理由トナラス

辯護人ノ擴張書第一點ハ本件事實ハ准現行犯ニ非ルニ准現行犯トシテ處分シ及審判セラレタルハ違法ナリ原院カ援用セル巡査ノ逮捕告發調書「木下分署調書」瀧田八五郎外一名始末書ニ依レハ明治三十二

年九月二十日松本寅吉方ニ於テ懇親會ノ際瀧田八五郎所持ノ黑羅紗外套一枚ヲ被告所有ノ外套ト取違ヘテ持歸リタリト云フニ止リ八五郎ハ告訴若クハ盜難届ハ勿論其他何等ノ届出無之何人カ取換ヘニ來ル者アラントテ其儘歲月ヲ送ルコト八个月ニ及明治三十三年四月七日巡査高梨吉彌カ突然被告方ニ來リ被告ヲ犯人ト想像シ被告寢所長持ノ内ヨリ外套一枚ヲ持出シ同時ニ被告ヲ木下分署ニ引致シ警察署ニ於テ訊問調書ヲ作り准現行犯トシテ之ヲ檢事ニ送致シ直ニ公判ニ付セラレタルモノナリ而シテ右ノ處分ニ關スル事實ハ原院モ亦之ヲ認メラレナカラ准現行犯トシテ公訴ヲ審判シ被告ヲ竊盜犯ニ問擬シタルハ違法ノ裁判ナリ何者被告事件ヲ准現行犯トシテ處分シ得ヘキハ非常特別ノ場合ニシテ刑事訴訟法第五十七條ニ該當スル事情存在セサルヘカラス然ルニ本件公判ニ付セラル、マテノ手續ハ原院カ認ムル證據竝ニ事實ニ依ルモ刑事訴訟法第五十七條第一號及同第三號ニ該當セサルハ勿論同條第二號ヲモ適用セラルヘキ事情無シ即チ被告ハ自己ノ所有ト信スル外套ヲ長持ノ中ニ貯ヒ置キタル處巡査高梨吉彌カ曾テ松本寅吉方ニテ黑羅紗外套壹枚竊取セラレタル趣聞知シタルコトアリ云々而シテ該犯人ハ被告政吉ナラント想像シテ被告ヲ引致シタルモノナレハ刑事訴訟法第五十七條第三號ニ所謂贓物其他ノ物件ヲ携帶シ犯人ト思料ス可キ事情毫モ存在スルコトナシ蓋シ同條項ハ犯人ト思料セラルヘキ者カ贓物其他ノ物件ヲ携帶シ居ル的確ナル實況ヲ相當官吏カ目撃シタル場合ニ適用セラルヘキ規定ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用セラルヘキ法條ニ非ス是ニ依テ之ヲ觀レハ本案ハ准現行犯トシテハ適法ニ起訴



セラレタルモノニアラス從テ受訴裁判所ハ公訴不受理ノ判決ヲ與ヘサル可ラサルニ原院及第一審裁判所カ該違法ノ手續ニ據テ起サレタル公訴ヲ審判シ直ニ採テ以テ被告事件ヲ竊盜犯ニ處斷シタルハ法則ノ適用ヲ誤ル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○假ニ本件ハ論旨ノ如ク准現行犯ニ非スシテ巡查カ被告ヲ逮捕告發シタル手續ハ相當ナラストスルモ檢事ニ於テ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケ被告ニ犯罪アリト認メ公訴ヲ提起シタルモノナレハ其准現行犯ナルト否トニ拘ハラヌ檢事ノ公訴ハ固ヨリ違法ニアラス從テ原院及ヒ第一審裁判所カ本件ノ審理判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ

第二點ハ原裁判ハ左ノ如キ違法ノ證據ヲ採テ判決ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ(一)巡查高梨吉彌逮捕告發調書及第一審ニ關スル調書ハ第一點所論ノ如ク被告事件ヲ妄リニ准現行犯トシテ處分シタル違法ノ書類ニシテ適法ナル證據力ヲ有セス(二)原裁判カ判決ノ證據ニ援用シタル偽證犯海老原磯吉ノ裁判書ハ違法ノモノナリ何者磯吉ヲ偽證犯トシテ審判スルニ當リ磯吉カ證人トシテノ宣誓書ヲ援用摘示セス「控訴公判調書證據調ノ部」而シテ控訴判決書ニハ該宣誓書ヲ援用セラル是偽證罪ヲ處斷スルニハ不法ノ審判ト謂ハサルヘカラス此不法ノ方法ニ據テ成立シタル書類ハ適法ニ證據力ヲ有スルモノニアラスト云フニ在レトモ○假ニ本件ヲ以テ准現行犯ニアラストスルモ巡查カ被告ヲ逮捕シ告發ヲ爲シタルトキハ司法警察官ニ於テ逮捕告發調書ヲ作ルハ當然ナルヲ以テ其調書ハ違法ト云フヲ得ス故ニ原院カ

之ヲ證據トシテ採用シタルモ不法ニアラス其他本件ヲ准現行犯トシテ取調ヘタル調書及ヒ海老原磯吉ノ裁判書ハ原院ニ於テ之ヲ本件ノ證據ト爲シタル形跡ナキヲ以テ本論旨亦相立タス

第三點ハ竊盜ヲ以テ處罰セシムルニハ必ス他人ノ所有物ヲ竊取シタル事實ヲ認メサルヘカラス然ルニ原判決及第一審判決共被告ハ瀧田八五郎所持ノ黒羅紗筒袖外套一枚ヲ竊取シ云々ト掲ケ瀧田八五郎ノ占有中ニアルモノヲ竊取シタルモノトノ事實ヲ認定シアレトモ其外套ノ所有者カ何人ナルカノ事實ニ至テハ之ヲ認定シタルコトナシ是レ判決ニ必要ナル理由ヲ備ヘサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告政吉ハ云々來客瀧田八五郎所持ノ黒羅紗筒袖外套一枚ヲ竊取シタルモノナリト在リテ被告カ竊取シタル物件ハ八五郎ノ占有中ノモノニシテ被告ノ所有ニ非サルコト自カテ明ナリ而シテ已ニ他人ニ屬スル物件ヲ竊取シタルコト明カナル以上ハ必スシモ其所有者ノ何人ナルカヲ明示セザルモ理由不備ト云フヘカラス故ニ本論旨亦理由ナシ

第四點ハ原判決ハ瀧田八五郎外一名ノ始末書ノ記載ニ依リ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認定セラレタリ然ルニ第二審公判始末書ニ依レハ瀧田八五郎ノ始末書ヲ朗讀シ被告ヲシテ辯解セシメラレタルモ瀧田八五郎外一名ノ始末書ヲ朗讀シ被告ヲシテ辯解セシメラレタル形跡ナシ果シテ然ラハ原判決ハ朗讀ノ上被告ヲシテ辯解セシメサル證據書類ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモノニシテ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ違反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ瀧田八

五郎外一名連署ノ始末書アリテ八五郎ノミノ始末書アルコトナケレハ原院公判始末書ニ瀧田八五郎ノ始末書トアルハ外一名ヲ略記シタルコト明カナルヲ以テ本論旨ハ相立タス

第五點ハ原判決ニ依レハ瀧田八五郎外一名ノ始末書ノ記載及ヒ同人ノ四月七日附御受書ノ記載ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認定ストアリ其同人トハ瀧田八五郎外一名ヲ指スモノト見ルノ外ナシ然ルニ訴訟記録ニ依レハ瀧田八五郎外一名ノ四月七日附御受書ナルモノアルヲ見ス果シテ然ラハ原判決ハ架空ノ證據ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモノニシテ探證法則ニ違反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ同人云々トアルハ瀧田八五郎ヲ指シタル事疑ヲ容レサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

第六點ハ原判決ニ依レハ第一審公判始末書ニ被告供述トシテ巡査カ自分方ヘ來リ取調ヘタルニ付黒羅紗筒袖外套一枚ヲ差出シタルニ相違ナキ旨ノ記載アルニ依リ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認定セラレタリ然ルニ第一審公判始末書中ニハ被告カ黒羅紗筒袖外套一枚ヲ差出シタルニ相違ナキ旨ヲ供述シタル形跡アルコトナシ果シテ然ラハ原判決ハ架空ノ證據ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモノニシテ探證法則ニ違反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ヲ閱スルニ原判決ニ摘示シタル趣旨ノ供述アルヲ以テ本論旨亦理由ナキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十三年九月二十一日宣告

○判決要旨

登記ヲ經由シタルト否トヲ問ハス既ニ抵當ト爲シタルコトヲ欺隱シテ重ネテ抵當ト爲シタル所爲ハ刑法第三百九十三條第二項ノ罪ヲ構成ス

(參照) 自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ(刑法第三百九十三條第二項)

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
被告人 土開用次郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年六月九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告

ヲ爲シタリ

抵當ノ欺隱

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
 上告趣意第一點ノ要旨ハ被告カ金四百圓ヲ借受ケタルハ公正證書作成前ナルコトハ證書自體ニ徴シテ  
 明白ナリ尤公正證書ニ記載セラレタルカ故ニ悉ク眞實ト斷シ難キハ勿論ナルモ一應其記載ノ事實ヲ眞  
 實ト推定スルハ證據ノ法則ナルニ原判決ニ於テ「公證人岸六三郎役場ニテ右ノ趣旨ノ公正證書ヲ作リ  
 同日右兵太郎宅ニ於テ其番頭ノ手ヲ經テ金四百圓ヲ騙取シタリ」云々輒ク公正證書反對ノ事實ヲ認メ  
 ラレタルハ法則ヲ適用セサル不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ其理由ノ示ス如ク各證據ヲ  
 綜合シテ本件事實ヲ認定シタルモノニシテ畢竟論旨ハ原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定  
 ニ對スル批難ニ外ナラス毫モ所論ノ如キ不法ナシ」同第二點ノ要旨ハ原院ハ明治三十二年十一月十五  
 日ニ騙取シタルモノトシテ第一審裁判所カ翌十六日ト爲シタルハ誤記ナリト認メ明カニ其認定ノ事實  
 ノ不當ナルコトヲ認メナカラ第一審判決ヲ取消スコトナク控訴ヲ棄却セラレタルハ不法ナリト云フニ  
 在レトモ○文字ノ誤記ヲ認メタル以上ハ事實ノ認定ヲ異ニシタルモノニ非サルヲ以テ原判決カ第一審  
 判決ヲ取消サ、ルハ相當ナリ」上告趣意擴張第一點ハ縷々記述スル所アルモノ之ヲ要スルニ原判決ハ被  
 告カ他ニ抵當トナレルヲ明言セサリシコト債權者守永兵三郎カ他ニ抵當トナレルコトヲ知ラサリシコ  
 トノミハ之ヲ見ルヘキモノアリト雖モ欺隱ノ行爲ニ至テハ毫モ認ムヘキモノナシ則チ證據ノ理由ヲ備  
 ヘサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ證人富岡正明ノ豫審調書等ヲ示シ被告カ他ニ抵當

ト爲シアル事實ヲ欺シタルコトヲ説明シ其他ノ證據ヲ綜合シ以テ他ニ抵當トナリアルコトヲ欺隱シタ  
 ル事實ヲ判示シタルモノナレハ毫モ所論ノ如キ不法ナシ」同第二點ノ要旨ハ凡不動產ヲ抵當トナシ之  
 チ欺隱シテ重テ抵當ト爲シタルトキ詐欺取財ヲ以テ論センニハ前抵當ノ登記ヲ經タルモノナルコトヲ  
 要ス然ルニ原判決ハ被告カ前年齊藤金藏ニ抵當トナシタルコト竝ニ之ヲ欺隱シタルコトヲ認定サレタ  
 レトモ其抵當カ果シテ登記ヲ經タルヤ否ヤニ付明示チ欠キタルハ犯罪構成ニ關スル事實ヲ遺脱シタル  
 不法アルト云フニ在レトモ○登記ハ一ノ公示方法ニ過キスシテ假令登記ヲ行ハサルモ抵當契約ハ雙方  
 間ノ承諾ニ依リ成立ス故ニ已ニ抵當ト爲シタルモノヲ欺隱シテ他人ニ重テ抵當ト爲シタルトキハ刑  
 法第三百九十三條第二項ノ罪ヲ成スモノナルヲ以テ其前ノ抵當カ登記ヲ經タルモノナルヤ否ヤノ事實  
 ハ該犯罪ノ構成ニ關係ナシ即チ原判決カ之ヲ說示セサルハ不法ニアラス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印私書偽造行使ノ件

明治三十三年九月二十五號  
明治三十三年九月二十四日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定ハ被告人ニ對シ不利利益ナル  
證憑ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムヘキ趣旨ナリトス從テ利益  
ノ證憑ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナシ

(參照) 裁判長ハ各證憑ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益  
ト爲ル可キ證憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ又證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯  
解ヲ爲サシム可シ(刑事訴訟法第  
百九十八條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 淺香忠五郎

右私印私書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月二十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ  
被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ原院ハ本件審理ノ起頭ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサルハ法律規定ニ違  
反セリト云フニ在レトモ○本件ハ被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ被告ヨリ先ツ其控訴ノ趣旨ヲ陳述スルハ當  
然ノ順序ナレハ原院ニ於テ先ツ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサリシハ不法ニアラス

辯護人ノ辯明書第一點ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ニヨレハ裁判長ハ證憑物件ハ被告人ニ示シテ  
辯解ヲナサシメサルヘカラストアリ而シテ該證憑トハ明文上何等ノ制限ナキカ故ニ被告人利益ノ證憑  
ヲモ包含セルハ勿論ナリ然ルニ原院公判始末書中「安齊辯護人ハ此時書面ヲ提出シ左ニ申立ヲ爲シタ  
リ安齊辯護人曰其書面ハ安五郎ノ利益トスルモノニシテ八月四日ノ公正證書ノ事ニ付テハ安左衛門ト  
云ハ當時發表セス忠五郎丈ト信シ居リタルコトヲ證ス(中略)裁判長ハ辯護人等ヨリ提出シタル書面ヲ  
列席判事ト閱覽ノ後檢事ニ示シ了テ各差出人ニ下戻シタリ」トアリテ辯護人ノ差出シタル被告人利益  
ノ證憑ニ付キ辯解ヲナサシメサリシハ法律ニ違背セリト云フニ在レトモ○同條ノ規定ハ犯罪ノ證憑即  
チ被告人ニ對シ不利利益ナル證憑ハ之ヲ被告ニ示シ辯解セシムヘシトハ趣旨ニシテ被告利益ノ證憑ハ之  
ヲ被告ニ示シテ辯解セシムルハ必要ナキヲ以テ原院ノ手續ハ不法トセス

同第二點ハ原院ハ公判ノ際被告ニ示サ、ル委任狀二通ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在  
リ○依テ訴訟記録ヲ查閱スルニ押收目錄中封書一通ト記シタルモノ二通アリ又書類二通添ト記シタル  
モノ一通アリ果シテ何レカ委任狀ナルヤ判明ナラスト雖モ原院公判始末書ニヨレハ「裁判長ハ茲ニ於  
テ押收目錄列記ノ證據悉皆ヲ示シ辯解スル事アラハ申立ヨト告ク被告忠五郎曰委任狀ノ印ハ宮城サン  
カ作リ押シタルモノテ被告金之助曰ク云々」トアリテ被告ヨリ委任狀ニ付テ辯解シタル事跡アルニ  
依レハ裁判長ヨリ被告ニ示シタル證憑中委任狀モ亦之アリタルコト疑ナシ故ニ原判決ハ被告ニ示シテ

擔保物喪失ノ救済方法○詐欺取財ニ因ル私書偽造行使

辯解セシメサル證據ヲ採用シタル不法アリト云フヘカラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

○私書偽造行使並附帶私訴ノ件

明治三十三年九月九日第一號  
明治三十三年九月二十七日宣告

○判決要旨

(判旨第六點) 債務者ノ行爲ニ因リ擔保(質物)ヲ失ヒタル場合ニ於テハ  
債權者ハ直チニ貸金辨濟ノ請求ヲ爲シ或ハ擔保物(質物)ノ回收ヲ請  
求スルコトヲ得ルモ損害賠償トシテ公訴ニ附帶シ貸金ノ元利ヲ請  
求スルコトヲ得ス

(判旨第七點) 詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實  
質上ノ一罪ナルヲ以テ私書偽造ニ付キ免訴ヲ言渡シタルトキハ詐

欺取財モ亦其免訴中ニ包含セラル、モノトス

第一審 山形地方裁判所鶴岡支部 第二審 宮城控訴院

公訴私訴上告人 五十嵐孝義 辯護人 村松山壽

公訴上告人 五十嵐庄三郎

私訴被上告人 岡田 凌

右被告孝義庄三郎兩名ニ對スル私書偽造行使事件並ニ之レニ附帶スル私訴事件ニ付明治三十三年七月  
十日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告孝義庄三郎ヲ各重禁錮五月罰金七圓監視六月ニ處ス押  
收ノ豫審第一號ノ一中偽造ニ係ル部分ハ之ヲ沒收シ餘ハ其他ノ書類ト共ニ各差出人ニ還付ス公訴裁判  
費用中金八圓三十二錢ハ被告孝義ノ負擔トシ被告庄三郎一名ニ關スル部分即チ再起訴以後ノ部分ハ庄  
三郎ノ負擔トス檢事ノ附帶控訴ハ之ヲ棄却ス被告孝義ハ庄三郎ト連帶シ民事原告人請求ノ通り金三百  
六十五圓七十五錢ニ其貸借當日ヨリ本件判決執行ノ日マテ百圓ニ付日歩三錢八厘ノ割合ヲ以テ遲滞ノ  
損害ヲ加算シ之ヲ民事原告人ニ辨濟スヘシ私訴費用中第一審分ノ半額及第二審分ハ被告孝義ノ負擔ト  
スト言渡シタル處公訴判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ私訴判決ニ對シ被告孝義ヨリ上告ヲ爲シタ  
リ又原院檢事長川目亨一ハ被告庄三郎ニ對スル公訴判決ニ對シテ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二  
百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

擔保物喪失ノ救済方法○詐欺取財ニ因ル私書偽造行使

被告孝義ノ上告趣意書第一點ハ本件ニ於テハ金三百六十五圓七十五錢ノ借用證書(豫第一號ノ一)中五十嵐喜七五十嵐兵右衛門菅原平五郎ノ氏名ヲ記入スルニ方リ自分カ關係シタル所アリヤ否ヤヲ判定スルコトヲ要ス而シテ原判決ノ説明ニヨレハ右ノ記入ハ皆相被告庄三郎ノ取計ヒタル所ニ係リ自分カ庄三郎ヲシテ斯クナサシメタリトスル事實アルコトナシ果シテ然ラハ自分ニ於テハ刑事上何等ノ責任ナシ又民事上何等ノ賠償義務ナキヤ明白ナル筋合ナリトス故ニ原院カ自分ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘ又損害ノ賠償ヲ命シタルハ失當ナリト信ス尤モ原判決中自分並ニ庄三郎ハ共謀シタル旨記載シアルモ共謀トハ如何ナル事ヲ云フノ意ナルヤ知ルニ由ナキヲ以テ結局損益スル所ナシト信スト云フニ在レトモ〇原判決ニ依レハ被告孝義庄三郎ノ兩名ハ共ニ私書ヲ偽造行使セシト謀リ庄三郎ニ於テ右共謀ニ基キ私書ヲ偽造シ之ヲ行使シタル事實ナレハ孝義ハ自カラ手ヲ下シテ文書偽造行使セスト雖モ共謀者ノ一人庄三郎ノ手ニ依リ其犯罪ヲ實行シタル者ナレハ固ヨリ其罪責ヲ免カレサルヲ以テ原院カ被告ニ對シ私書偽造行使ノ罪アリトシテ處斷シタルハ相當ニシテ公訴ニ關スル本論旨ハ理由ナシ其私訴ニ關スル點ハ第二點ノ説明ニ讓ル

被告孝義ノ辯護人村松山壽ノ擴張書第一點ハ原判決ハ證人若生富治ノ豫審調書ヲ斷證ニ供セラレタルモ右調書ハ五十嵐庄三郎被告事件ノ證人調書ナリトセンカ同人ト民事原告人トノ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ訊問セサル者ナリ而シテ右ハ庄三郎孝義兩名ニ對スル被告事件ノ調書ナリトセンカ原院

ハ之ヲ被告ニ讀聞ケサル者ナリ即チ無効ノ證人調書ヲ斷證ニ供シタルニアラザレハ讀聞ケサル證據ニ因リ斷罪シタル者ニシテ原判決ハ失當ヲ免カレスト信スト云フニ在レトモ〇原院公判始末書ヲ閱スルニ證人若生富治豫審調書ヲ朗讀シタル旨ノ記載アレハ同人ノ豫審調書ハ總テ之ヲ朗讀シタルコト明カナリ而シテ庄三郎被告事件ノ同人豫審調書ニ依レハ「問五十嵐庄三郎ト刑事訴訟法第二百二十三條各項ノ關係ナキカ此時判事ハ該條ノ各項ヲ說示シタリ答關係ナシ」トアリテ用語妥當ナラサルノ嫌アリト雖モ刑事訴訟法第二百二十三條ノ各項ヲ說示シ其干係ノ有無ヲ問ヒタル以上ハ即チ民事原告人トノ干係ヲ問ヒタルコト亦疑ヲ容レサルヲ以テ右調書ハ不法ニアラス故ニ本論旨ハ總テ其理由ナシ同第二點ハ稻葉信吉五十嵐兵左(左ハ右ノ誤ナラン)衛門同喜七菅原平五郎豫審調書ハ原院ニ於テ被告人ニ讀聞ケサル者ナリ故ニ之ヲ斷證ニ供シタル原判決ハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ〇原院公判始末書ニ依レハ「次ニ田中榮次西村庄左衛門稻葉新(新ハ信ノ誤記ト認ム)吉熊本隆義五十嵐兵右衛門菅原平五郎五十嵐喜七小池榮藏伊藤治助被告孝義ノ原公判始末書及ヒ云々岡田凌ノ各豫審調書原公判始末書等ヲ朗讀セリ」トアリ而シテ訴訟記録中信吉兵右衛門平五郎喜七等ノ豫審調書アルモ同人等ノ公判始末書アルコトナケレハ原院公判始末書ノ記載ハ「被告孝義」ノ上ニ「豫審調書」ノ數文字ヲ遺脱シタルモノニシテ同人等ノ豫審調書ヲ朗讀シタルヤ明カナレハ本論旨亦謂レナシ

第三點ハ原院ハ「證人岡田凌カ被告庄三郎ニ對スル事件ノ豫審調書」ヲ斷證ニ供セラレタリ然レトモ同

人ハ明治三十二年十月中本件ノ民事原告人トナリ右調書ノ日附即チ同三十三年二月十七日ニハ證人タル資格ナキ者ナリ而シテ現ニ參考人トシテ取調ヲ受ケタル者ナルニ原判決ノ如ク之ヲ證人調書トナシ罪證ニ供セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ〇原判決ニ證據トシタル證人岡田俊ノ豫審調書ハ同人カ未タ民事原告人トナラサル以前ノ調書ニ係リ論旨ニ舉クル所ノ明治三十三年二月十七日ノ調書ニアラサルヲ以テ原判決ハ失當ニアラス

同第四點ハ原判決ハ「庄三郎ニ對スル事件證人木村正ノ豫審調書」ヲ斷證ニ供セラレタルモ該調書ニヨレハ豫審判事ハ同人ト本件民事原告人間ノ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ訊問セサル者ナリ故ニ該調書ハ證言ノ效ナキヲ以テ之ヲ採用シタル原判決ハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ〇同人ノ豫審調書ヲ閱スルニ第一點ニ於テ説明シタル若生富治ノ豫審調書ト同シク「問五十嵐庄三郎ト刑事訴訟法第二百二十三條各項ノ關係ナキヤ」トアルヲ以テ民事原告人トノ關係モ亦之ヲ問查シタルヤ明カナレハ本論旨ハ相立タス

被告孝義ノ上告趣意書第二點ハ本件ノ私訴ハ自分等ニ於テ偽造證書ヲ行使シ擔保品ヲ取戻シタル故ヲ以テ損害ノ賠償ヲ求ムト云フニ在リ而シテ擔保品ノ詐取ハ或ハ期限到來ノ原因タル可ク或ハ新ニ擔保ヲ求ムルノ原因タル可シト雖モ貸借ノ關係ヲ全然滅却セシムルノ效力ナキナレハ損害賠償ノ訴權ヲ發生セサルヤ論ナキ所ナリトス何トナレハ債權者ハ貸付ケタル元利金ノ外ニ別ニ損害ヲ受クルノ謂ハレ

ナキヲ以テナリ故ニ民事原告人ノ請求ハ本來失當ヲ免レサルモノトス又原院ハ自分等ニ於テ債務ノ履行ヲ免レタルヲ以テ損害ヲ賠償セサル可カラスト判決シタルモ這ハ元來民事原告人ノ訴旨ニ副ハサル判決ニシテ其理由ニ於テ失當タルノミナラス貸金返済ノ不履行ハ爲メニ損害賠償ノ訴權ヲ發生セサルコト明白ノ筋合ナルヲ以テ原判決ハ結局失當ヲ免レスト思料ス加フルニ金參百六十五圓七十五錢ハ金參百貳拾圓ニ對スル元利金ノ合計ニシテ謂フ所ノ偽造證書ニヨリ初メテ生シタル金額ナルヲ以テ此金額ノ全部ニ對シ更ニ日歩三錢八厘ノ利子ヲ付スヘシトノ判決ハ偽造證書ノ行使ヲ以テ義務不履行ノ事實ナリトスル前段ノ判旨ト正シク矛盾スルノ不法アルモノト信スト云フニ在リ〇因テ按スルニ本件ノ私訴ハ民事原告人ニ於テ被告等ノ偽計ニ陥リ抵當物ヲ奪ハレタルヲ以テ其損害賠償トシテ被告等ニ對スル貸金ノ元利ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如ク債務者ノ行爲ニ因リ債權者ヲシテ擔保ヲ失ハシメタル場合ト雖モ貸金ノ債權ハ依然トシテ存在スルヲ以テ債權者ハ爲メニ貸金ノ元利ヲ損失シタルモハト云フヘカラス唯債權者ハ擔保ヲ失ヒタルカ爲メ債務不履行ノ場合ニ損害ヲ被ムルノ虞アルヘキヲ以テ直ニ貸金辨済ノ請求ヲ爲スヲ得ヘシ或ハ擔保物ノ回收ヲ求ムルヲ得ヘシト雖モ損害賠償トシテ公訴ニ附帶シ貸金ノ元利ヲ求ムルハ固ヨリ失當ノ請求ト云ハサルヘカラス然ルニ原院カ其請求ヲ理由アリトシテ被告ニ其辨済ヲ命シタルハ不當ノ判決ニシテ本論旨ハ其理由アリ已ニ此點ヲ以テ私訴ニ對スル原判決ヲ破毀スル以上ハ私訴ニ干スル他ノ論旨ニ付説明スルノ要ナシ

判旨第六點





六條ニ依リ被告庄三郎ニ對スル原判決ヲ破毀シ事件ヲ函館控訴院ニ移シ同第二百八十七條ニ依リ私訴判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

民事原告人ノ請求相立タス

私訴費用ハ總テ民事原告人ノ負擔トス

明治三十三年九月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○竊盜及官文書偽造行使ノ件

明治三十三年九月二十八日宣告

○判決要旨

郵便爲替券ヲ竊取シタル上其金圓ヲ收受スルニ當リ之ヲ變換シテ行使シタル所爲ハ竊盜罪並ニ官文書變造行使罪ヲ構成ス

第一審 徳島地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 吉成 繼藏

辯護人 井出 勝己

右竊盜及官文書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月三十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不

法トシ辯護人井出勝己ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本案ハ第一審裁判所ニ於テ輕罪ナリト處斷シタルヲ檢事ハ之ヲ重罪ナリトシテ控訴シ原院ハ其控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ重罪ニ問擬シタルモノナリ斯ル場合ニハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ニ依ルヘキハ明晰タルニモ係ハラス原院ノ處置玆ニ出テサリシハ同法ヲ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○右第二百六十四條ハ第一審ニ於テ輕罪事件トシテ審判シタル場合ニ適用スヘキ規定ナリトス而シテ本件ハ第一審ニ於テ輕罪ナリト判決シタルモ其事件ハ重罪トシテ審理シタルモノナルヲ以テ原院ニ於テ刑事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ盡セハ足ルモノニシテ同第二百六十四條ヲ當行セザリシハ當然ナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

上告趣意擴張書第一點ハ原院ニ於テ竊盜罪ノ外尙官文書ノ變換行使罪ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フ何トナレハ他人ノ名義ヲ以テ郵便局ヨリ金員ヲ受取ラシメタルハ假令如何ナル手段方法ヲ用ヒタルニモモトモ畢竟小爲替券在中ノ郵便信書ヲ竊取シタル結果ニ過キサレハナリ故ニ別ニ他ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○本件小爲替券ノ金圓ヲ收受スルニ付之ヲ變換行使シタル上ハ小爲替券竊取罪ノ外尙ホ他ニ犯罪ヲ構成スヘキコトハ勿論ナレハ原院カ之レヲ二罪トシテ處罰シタルハ相當ナリトス

第二點本案ノ事實ハ果シテ小爲替券其モノ、要部ヲ變換シタルモノナリト云フヘキヤ抑モ小爲替ハ其條例ノ定ムル所ニ依リ政府カ一人ヨリ金員ヲ一時預リ之ヲ或ル指定人ニ拂渡スヘキ義務ヲ負フニ過ギスシテ其支拂局ノ如キハ同シク義務者タル政府ノ一部ノ事務ヲ取扱ヘキ一ノ支局ナリ果シテ然ラハ東京トアルチ大阪順慶町ト變換スルモ權義ノ創設若クハ消滅ニ干スルモノニアラサレハ決シテ要部ト云フヘカラス況ンヤ自己カ自由ニ記載シ得ヘキ受取人ノ指定ニ於テチヤ然ルニ原院ニ於テ右事實ヲ官文書變換罪ナリトシテ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト確信スト云フニ在レトモ○原判旨ニ依レハ被告ハ竊取シタル小爲替中ニ記入シアル東京ノ字ヲ大阪順慶町ト變換シ受取人無指定ナリシチ大阪用達合資會社ト記入シ其文書ノ眞實ヲ詐リ之ヲ行使シタルモノナレハ官文書變造行使罪ヲ構成スヘキハ言チ俟タサルナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奧宮正治立會宣告ス

○竊盜及監視規則違反ノ件

明治三十三年九月二十八日宣告

○判決要旨

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シトノ法則(刑事訴訟法第二百十八條第二項)ハ第一審公判ニ適用スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用スヘキモノニ非ス

(參照) 檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ(刑事訴訟法第二百十八條第二項)

第一審 福岡地方裁判所久留米支部 第二審 長崎控訴院

被告人 森 福太郎

右竊盜及監視規則違反被告事件ニ付明治三十三年六月三十日長崎控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮四年監視一年ニ處シ贓物ハ假下ノ儘所有者ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要ハ第一原判決ノ事實ニ依レハ被告ハ被害者ノ店頭ニ至リ反物ヲ買入ル、如キ體ヲ示シ反物ヲ差出サシメ之ヲ持去リタルモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキニ竊盜ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○店頭ニ反物ヲ差出シタルハ被告ニ交付シタルモノニ非サルヲ以テ竊カニ之ヲ取去リタル所爲ハ竊盜ニシテ詐欺取財ニアラス』第二贓物ヲ返還スルニハ刑法第四十八條ヲ適用ス

被告事件ノ陳述

へキニ何等ノ法律ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○**赃物還給ノ言渡ハ刑ノ言渡ニアラサル**  
ナ以テ其適條ヲ明示セサルモ不法ニアラス』第三原院ハ第一審判決ヲ取消スニ當リ第一審カ重禁錮二  
年ヲ言渡シタルハ何故ニ失當ナルカヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○**原判決ニハ本件被告ノ**  
所爲ニ對シテハ重禁錮四年ニ處スへキモノナルコトヲ判示シタルヲ以テ第一審判決ノ失當ナル理由ハ  
明示シアルモノト謂ハサルヲ得ス』第四原院ハ公判開廷ノ際檢事ヨリ被告事件ノ陳述ナキニ拘ラス事  
實ノ取調ニ取掛リタルハ刑事訴訟法第二百八條第二項ニ背反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ  
○**同條規ハ第一審公判ニ適用ス可キモノニシテ第二審公判ニ適用スへキモノニアラス**

同辯明書ノ要ハ第一原判決中前科ノ部ニ明治三十一年八月竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月同三十二年八  
月贓物收受罪ニ依リ重禁錮六月ニ處セラレタルモノトセリ然ラハ其主刑滿期ハ共ニ三十三年二月ナリ  
然ルニ被告カ竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月ニ處セラレタルハ三十一年八月ニアラスシテ同年十二月ナ  
ルコトハ一件記録及原判文中「本年五月十一日主刑滿期云々トアルニ依リテ明瞭ナレハ原判決ハ前後  
理由ノ齟齬ヲ免カレスト云フニ在レトモ○**原判決ヲ閱スルニ被告カ竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月ノ處**  
分ヲ受ケタル年月ハ三十一年十一月トアルヲ以テ其滿限ハ三十三年五月ニ當リ而シテ贓物收受罪ハ竊  
盜罪ノ餘罪ニ係リ輕キヲ以テ不問ニ付セラレタルコトハ一件記録中犯罪人名標抄本ニ照シ明白ナレハ  
本論旨ハ謂レナシ』第二原判決前科ノ部前段ニハ三十一年八月ニ重禁錮一年六月ニ處セラレタルモノ

ノ如ク後段ニハ三十二年八月ニ贓物收受罪ニ依リ重禁錮六月ニ處セラレタルカ如ク判示シアリテ最初  
ノ刑期内即在監中ニ贓物ヲ收受シタルカ如ク判定シ之ヲ以テ本件ノ證據トシ事實ヲ認定シタルハ不當  
ナリト云フニ在レトモ○**贓物收受罪ハ竊盜罪ノ餘罪ナルコトハ前項ノ說明ニ依リ明瞭ナレハ本論旨モ**  
亦謂ハレナシ』第三本件ノ贓物ハ中村藤吉ヨリ買受ケタルコトハ一件記録ニ依リ明白ナルヲ以テ刑法  
第三百九十九條ヲ適用處斷スへキモノナルニ竊盜罪ト認定シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ  
○**事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ他ヨリ容喙スルコトヲ許サス』第四原院ニ於テハ證據物件**  
及證據書類ヲ取調へタル毎ニ被告ニ意見ヲ問ヒ且ツ利益トナルへキ證據ヲ差出スヲ得ルコトヲ告知ス  
へキニ此手續ヲ爲セ、リシハ失當ナリト云フニ在レトモ○**原院公判始末書ヲ檢スルニ右手續ヲ履行シ**  
アルヲ以テ本論旨ハ謂レナシ

同辯明追伸書ヲ要スルニ被告ハ第二ノ事實ヲ司法警察官ニ對シ陳述シタルコトナケレハ聽取書ハ警察  
官ノ擅ニ作製シタルモノナリ又其調書ハ宣誓ナクシテ作りタルモノナレハ法律上證據トナルへキモノ  
ニ非ス然ラハ本件ノ反物ハ竊取シタルモノナルヤ購買シタルモノナルヤ明白ナラサルニ竊盜罪トシテ  
處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○**本論旨ハ原院ノ職權ニ存スル證據判斷ノ批難ニ屬シ又司法**  
警察官カ被告ノ陳述ヲ聽クニハ宣誓ヲ爲サシム可キモノニアラサルヲ以テ總テ上告ノ理由トナラス  
第二辯明書ヲ要スルニ原院カ第一審判決ヲ取消シ被告ノ不利益ニ變更セラレタルハ檢事ノ附帶控訴ニ

基キタルモノナレハ附帶控訴ノ理由アルハ勿論ナルモ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シナカラ其理由ノ在ル所ヲ示サ、ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告ノ控訴及檢事ノ附帶控訴ハ共ニ第一審判決ノ全部ニ對スル攻撃ナルヲ以テ苟モ第一審判決ニ瑕疵アリテ之ヲ取消ス以上ハ其控訴ハ共ニ理由アリト論決セサルヲ得ス故ニ原判決ニ「檢事ノ附帶控訴ハ理由アルモノトス從テ被告ノ控訴モ理由アルニ歸ス」ト掲ケアル以上ハ被告ノ控訴ノ理由アル理由ヲモ亦説明シアリテ上告所論ノ如キ不法ノ廉アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○大審院刑事部裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

部長 判事 原田 種成

部員

判事 小松 弘隆  
判事 永井 岩之丞  
判事 伊藤 悌治  
判事 井原 師義  
判事 末弘 嚴石

本部ノ開廷

火曜 日

金曜 日

本部ノ所管

刑事判事氏名表

名古屋控訴院

大阪控訴院

長崎控訴院

廣島控訴院

第二刑事部

裁判長

部長 判事 長谷川 喬

部員

判事 岩田 武儀  
判事 木下 哲三郎  
判事 津村 董  
判事 鶴 丈一郎  
判事 鶴見 守義

本部ノ開廷

月曜 日

刑事判事氏名表

木曜日

本部ノ所管

東京控訴院

函館控訴院

宮城控訴院

休暇部

(自七月十一日  
至同月廿五日)

裁判長 部長 判事 寺島直

判事 岡村爲藏

判事 永井岩之丞

判事 柳田直平

判事 井原師義

判事 鶴丈一郎

判事 小野衛門太

七月卅一日正代理 判事 馬場愿治

七月卅一日豫備代理 判事 清水一郎

八月三日正代理 判事 清水一郎

八月三日豫備代理 判事 伊藤悌治

八月七日正代理 判事 伊藤悌治

八月七日豫備代理 判事 馬場愿治

(自八月十一日  
至同月廿五日)

裁判長 院長 判事男爵南部夔男

判事 井上正一

判事 津村董

判事 伊藤悌治

判事 馬場愿治

判事 清水一郎

判事 末弘嚴石

八月十四日正代理 判事 岸澤政温

刑事判事氏名表

二

七月十三日正代理 判事 掛下重次郎

七月十三日豫備代理 判事 和田收藏

七月十七日正代理 判事 和田收藏

七月十七日豫備代理 判事 小松弘隆

七月二十日正代理 判事 小松弘隆

七月二十日豫備代理 判事 掛下重次郎

(自七月廿六日  
至八月十日)

裁判長 部長 判事 長谷川喬

判事 小松弘隆

判事 今村信行

判事 和田收藏

判事 掛下重次郎

判事 鶴見守義

判事 末弘嚴石

判事 津村董

八月十四日豫備代理 判事 岩田武儀

八月十七日正代理 判事 西川鐵次郎

八月十七日豫備代理 判事 志方鍛

八月廿一日正代理 判事 岩田武儀

八月廿一日豫備代理 判事 木下哲三郎

(自八月廿六日  
至九月十日)

裁判長 部長 判事 原田種成

判事 西川鐵次郎

判事 岩田武儀

判事 木下哲三郎

判事 岸澤政温

判事 志方鍛

判事 永井岩之丞

判事 岡村爲藏

判事 柳田直平

三

刑事判事氏名表

八月卅一日豫備代理 判事 鶴 丈一郎  
九月四日正代理 判事 鶴 丈一郎  
九月四日豫備代理 判事 井原 師義

開廷日

火曜日

金曜日

明治三十三年十一月十六日印刷  
明治三十三年十一月十九日發行

定價金參拾錢

著作權所有

大審院

東京市神田區錦町貳丁目貳番地

發行者 東京法學院

東京市麴町區內幸町壹丁目三番地

代表者 菊池武夫

東京市麴町區下六番町十七番地

同勞舍

印刷者 松澤玳三

大審院判決錄



## 大審院判決録

### 凡例

- 一本書ハ大審院民刑各部ノ判決ヲ輯録ス
- 一本書ハ毎月發兌シ前月ノ判決ヲ登錄ス
- 一本書編次ノ體裁ハ民刑ヲ區分シテ二卷トシ其輯録ノ順序ハ宣告日  
附ノ前後ニ依ル
- 一目錄ヲ分テ總目錄、事件目錄、いろは索引、法文表、月日目錄及ヒ人名音  
字目錄ト爲ス
- 一件名ノ次ニ判決ノ要旨ヲ摘録ス事件異ナルモ其判旨同一ナルモノ  
ハ前例ヲ參照シテ特ニ重録セズ
- 一上告ノ論點ト判決ノ説明トノ間ニ○ヲ施シ區劃ヲ明ニシ亦タ判決  
要旨ニ適合スヘキ説明ニハ、ハ、ハ、ハ、ヲ施シ閱覽ニ便ス
- 一丁數ノ上ニハ關係ノ事項ヲ掲ク
- 一年度末ニ至リ全部ニ通スル諸目錄ヲ作成シ搜索ニ便ス

大審院民事判決錄

總目録

民法

辨濟期限後ニ於ケル貸金利息ノ稱呼ノ事……………三三

買戻契約ノ性質ノ事……………三六

不動産賣買後ニ締結シタル買戻契約ハ當事者ノ意思如何ヲ問ハス再賣買ノ豫約ナリトノ事……………三六

故意又ハ過失ニ因リ營業上必要ナル物品ヲ差押ヘ爲メニ休業セシメタル者ノ損害賠償ノ責任ノ事……………三七

辨濟未了ノ利息ニ利息ヲ附スルコトヲ約シタル契約ト利息制限法トノ關係ノ事……………三九

民法第三百七十四條ニ所謂利息ノ意義ノ事……………一〇七

民法施行前ニ於テハ遅延利息ニ對シ優先權ヲ附與シタリトノ事……………一〇七

貸貸中ノ家屋ニ對スル侵害除去ノ救濟權ノ事……………一一二

商法

商法第千九十九條第二項第一號ノ法意ノ事.....一〇三

民事訴訟法

訴ニ依リ商業帳簿ノ閱覽ヲ求メ得ヘキ場合ノ事.....一

不變期間ノ開始前ニ取消ノ訴ヲ提起シ得ルトノ事.....四

檀家總代ハ訴訟ニ關シ寺院ヲ代表スル資格ナシトノ事.....四

寺院ノ訴訟ニ於テ住職ニ非サル者ノ受ケタル裁判ノ確定力ノ事.....四

判決主文ニ係争物件ヲ記載スル程度ノ事.....七

建物ノ競落人ニ於テ地所明渡ノ請求ニ對シ異議ヲ唱フルノ權利ナキ場合ノ事.....二

裁判所ノ印章ヲ脱落セル判決正本ノ效力ノ事.....三

訴訟當事者以外ノ者ニ對シ爲シタル假處分ハ不當ナリトノ事.....四

社掌ハ社司ノ缺ケタル場合ニハ神社ヲ代表スヘキモノナリトノ事.....四

信徒總代ハ神社ヲ代表スル資格ナシトノ事.....四

民事訴訟法第七十四條第一項ノ法意ニ關スル事.....六

重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ爲メ再抗告ヲ許スヘキ場合ノ事.....六

許スヘカラサル確認訴訟ノ事.....三

相手方ノ關係セサル書面ノ證據力ノ事.....五

本人訊問ノ決定ヲ爲サスシテ呼出狀ヲ送達シタル場合ノ口頭辯論ニ基ク判決ノ事.....五

民事訴訟法第九十七條ノ規定ヲ適用スル場合ノ事.....六

關席判決ノ申立ハ書面ヲ要セストノ事.....六

手續上ニ瑕疵アル送達ノ效力ノ事.....七

確認訴訟ヲ提起シ得ヘキ場合ノ事.....九

控訴院ニ於ケル上告審ノ裁判ニ對スル抗告ノ事.....九

不動産登記法

登記法中登記スヘキ規定ナキ事項ニ付テハ登記ヲ命スヘカラストノ事.....三





民事いゝは索引

取消ノ訴ノ提起ノ時期

民事訴訟法第四編中ノ過期間ノ開始前ニ取  
消ノ訴ヲ提起シ得ケル旨ノ規定ナキヲ以テ  
其開始前ニ於テモ之ヲ提起シ得ルモノト解  
釋スルヲ相當トス

登記セサル賣買ノ效力

正當ノ所有者ヨリ買得シタル地所ト雖モ登  
記ナシタルニ非サレハ登記法第六條ノ法  
意ニ依リ其賣買ハ賣主ニ對スルノ外人ニ  
對シテモ絕對ニ無効ナリ

當事者認諾ノ效力

(賣買契約ノ登記)參看

登記ノ規定

(賣買契約ノ登記)參看

當事者以外ニ對スル假處分

訴訟當事者以外ノ者ニ對シ假處分ヲ爲スハ  
不當ナリトス

當事者ノ關係ナキ私書ノ否認

(相手方ノ關係ナキ私書ノ否認)參看

當事者ノ權利關係

(確認訴訟ノ條件(ロ))參看

遅延利息

(利息ノ意義。優先權アル利息)參看

賃貸家屋ノ侵害

(家屋侵害ノ救済)參看

利息ノ利息

(重利契約ノ效力)參看

利息ノ意義

民法第三百七十四條ニ所謂利息トハ元金支  
拂期限前ノ利息ヲ指シ遅延利息ハ其内ニ包  
含セズ

確定判決ノ結果

(借物競落人ノ義務)參看

買戻契約ノ性質

(買戻後ノ買戻契約)參看

買戻ト再賣買ノ豫約トノ差異

(再賣買ノ豫約)參看

假處分ノ對手

(當事者以外ニ對スル假處分)參看

確認訴訟ノ條件

事件自體カ直チニ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ  
性質ノモノニシテ且結局履行ヲ求メサレハ  
其目的ヲ達スルコト能ハサルモノニ付テハ

民事いゝは索引

二五 三三 三二 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

民事いゝは索引

登記ノ效力

(假登記ノ效力)參看

寺院ノ代表者

(損家總代ノ代表權)參看

遅延利息ノ性質

金銭ノ貸借ニ於テ辨濟期限後ノ利息ハ損害  
賠償ノ性質ヲ有スルハ固ヨリ論ヲ待タサレ  
トモ又稱シテ遅延利息ト云フコトアルヲ以  
テ之ヲ損害金ト云フモ利息ト云フモ毫モ妨  
ケアルヘカラス

應印ナキ判決正本ノ效力

民事訴訟法第二百三十九條第二項ニハ無効  
ノ制裁ナキヲ以テ判決正本ニ裁判所ノ印章  
ノミカ捺印シアルニモモ既ニ書記カ署名  
捺印シタルニ於テハ絕對ニ無効ト云フヲ得  
ス

重利契約ノ效力

辨濟未了ノ利息ニ對シ既往ニ遡リテ利息ヲ  
附スルコトヲ契約シタル場合ニ於テ新舊利  
息ヲ通算シテ制限利率ニ超過セサルモノハ  
有效ナントモ若シ之ニ超過シタルモノハ無  
効ナリトス

確認ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス(イ)  
確認訴訟ハ起訴者カ給付ノ請求ヲ爲シ得ル  
場合ニ於テモ單ニ當事者間ノ權利關係ノミ  
ヲ即時ニ確定スルニ於テ法律上ノ利益ヲ有  
シ且之ニ因リテ更ニ給付ノ請求ヲ爲スコト  
ヲ要セサルトキハ之ヲ提起シ得スヘキモノ  
トス(ロ)

過失ニ因ル營業品ノ差押  
(休業ニ對スル損害賠償)參看

假登記ノ效力

登記ナルモノハ本登記ト假登記トヲ問ハス  
總テ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ有ス隨テ民  
法施行法第三十七條ニ所謂登記ナル文字ニ  
ハ本登記ノ外尙ホ假登記ヲモ包含スルモノ  
ト解釋スルヲ相當トス

管財人ノ上訴

商法第九十九條第二項ニ「管財人ハ左ニ掲  
クル行爲ニ付テハ破産主任官ノ認可ヲ受ク  
ヘシ第一訴訟ヲ爲スコトト記載アルノミ  
ニ付キ管財人カ最初訴訟提起スルニ當リ破  
産主任官ノ認可ヲ受クルヲ以テ足リ上訴ヲ  
爲シ又ハ其對手下ト爲ル場合ニハ再々其認

二五 三三 三二 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

民事いゝは索引

民事いろは索引

可チ求ムルノ必要ナキモノトス

元金支拂期限前ノ利息

(利息ノ意義)参看

家屋侵害ノ救済

賃貸中ノ家屋ニ對シ第三者カ該家屋ヲ侵シ不利ヲ蒙ラシムルトキ所有者ニ於テ其侵害ヲ除去スル爲メ救済ヲ求ムルコトハ所有權行使ノ範圍内ニ屬ス

呼出狀送達ノ缺點

(送達ノ呼出狀)参看

檀家總代ノ代表權

寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願州等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス

建物競落人ノ義務

他人ノ地所ニ建設シタル建物ノ強制競賣ノ場合ニ告示ニ因リ地所所有者ト被競賣者トノ間ニ於テ地所明渡ノ訴訟中ナル事實ヲ了知シタル上之ヲ競落セシメタルトキハ其競落人ハ地所所有者ヨリ確定判決ノ結果トシテ明渡ヲ請求セラルトモ之ニ對シ異議ヲ唱

フル權利ナシ

訴狀送達ノ效力

(無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力)参看

損害賠償ノ性質

(遲延利息ノ性質)参看

訴訟手續ノ違背

(唯一證據ノ排斥)参看

損害賠償ノ責任

(休業ニ對スル損害賠償)参看

送達ノ瑕疵

送達吏ノ送達手續上ニ瑕疵アルモ受領者カ之ヲ有效トシテ受領シ之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シタル上ハ其相手方ニ於テ其送達ヲ無効トシ得ヘキモノニ非ス

訴訟行爲ノ認可

(管財人ノ上訴)参看

無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力

寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ訴訟シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス

無効ノ判裁

(應即ナキ判決正本ノ效力)参看

訴ノ原因不變更ノ裁判

訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ストノ民事訴訟法第九十七條ノ規定ハ單ニ地方裁判所ノ裁判ニ對スル場合ノミナラス控訴院ノ裁判ニ對シテモ一般ニ適用スヘキモノトス

納稅保證ノ抵當

酒造稅法第十三條ニ依リ納稅ノ擔保ニ供シタル抵當ノ設定行爲ハ行政法ニ基キタル徵收手續上ノ關係ニシテ民事上ノ關係ニ非ス故ニ其抵當ノ釋放拒絕ニ起因スル訴訟ノ如キハ行政上ノ處置ノ當否ヲ争フコトニ原因スルヲ以テ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルモノトス

形式上ノ確定力

(無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力)参看

係争物件掲記ノ程度

係争物件數筆ニ涉ルモ其物件ノ何物タルヤニ付キ當事者間ニ争ナキトキハ判決本文ニ該物件ヲ逐一明記セサルモ之ヲ知り得ヘキ民事いろは索引

四

フル權利ナシ

訴狀送達ノ效力

(無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力)参看

損害賠償ノ性質

(遲延利息ノ性質)参看

訴訟手續ノ違背

(唯一證據ノ排斥)参看

損害賠償ノ責任

(休業ニ對スル損害賠償)参看

送達ノ瑕疵

送達吏ノ送達手續上ニ瑕疵アルモ受領者カ之ヲ有效トシテ受領シ之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シタル上ハ其相手方ニ於テ其送達ヲ無効トシ得ヘキモノニ非ス

訴訟行爲ノ認可

(管財人ノ上訴)参看

無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力

寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ訴訟シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス

原狀回復ノ許可

程度ニ於テ掲クレンハ足ルモノトス  
民事訴訟法第七十四條第一項ノ規定ハ通法ノ送達ヲ受ケタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス

原因不變更ノ裁判

(訴ノ原因不變更ノ裁判)参看

關席判決ノ申立

關席判決ヲ受ケントスル申立ハ書面ニ基キ之ヲ爲スナラセズ

不變期間開始前ノ起訴

(取消ノ訴ノ提起ノ時期)参看

物件表示ノ程度

(係争物件掲記ノ程度)参看

不服申立ノ制限ノ適用

(訴ノ原因不變更ノ裁判)参看

公示送達無効ノ立證

(唯一證據ノ排斥)参看

故意ニ因ル營業品ノ差押

(休業ニ對スル損害賠償)参看

五



控訴院ノ上告ノ性質

(上告審ノ裁判ニ對スル抗告)參看

營業品差押ニ基ク損害

(休業ニ對スル損害賠償)參看

寺ノ代表者

(僧家總代ノ代表權)參看

抵當ノ種類

(納税保證ノ抵當)參看

相手方所有ノ帳簿

(商業帳簿ノ閲覧)參看

相手方ノ關係ナキ私書ノ否認

相手方ノ關係セサル私書ハ相手方カ之ヲ否認スルモ當然其證據力ヲ失フモノニ非ス故ニ裁判所ハ相當ノ理由ヲ附シテ其採否ヲ決セサルヘカラス

再買買ノ豫約

買戻ト再買買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ラス再買買ノ豫約ト見做スコトナ得

〔四〕

優先權アル利息

民法施行前ニ於テハ元金支拂期限前ノ利息ト期限後ノ遲延利息トニ區別ナク共ニ優先權ヲ附與シタルモノトス

〔五〕

民事訴訟法第百七十四條第一項ノ適用

(原狀回復ノ許可)參看

民事訴訟法第百九十七條ノ適用ノ範圍

(訴ノ原因不變更ノ裁判)參看

民法第三百七十四條ノ利息ノ範圍

(利息ノ意義)參看

民法施行前ノ利息

(優先權アル利息)參看

〔六〕

商業帳簿ノ閲覧

當事者間ノ買取引等ヲ詳記シタル商業帳簿ト雖モ相手方所有ノ帳簿タル上ハ強テ閲覧ヲ求ムルノ權ナシ隨テ特ニ法律ニ於テ規定シタル場合ノ外獨立ノ訴ヲ以テ之カ閲覧ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

民事いろは索引

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

〔七〕

裁判所ノ印章ナキ判決正本ノ效力

(封印ナキ判決正本ノ效力)參看

再抗告ノ理由

(唯一證據ノ排斥)參看

期限後ノ利息

(遲延利息ノ性質)參看

休業ニ對スル損害賠償

故意又ハ過失ニ因リ營業上必要ナル物品ヲ差押ヘ爲メニ休業スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル各ハ營業者ニ於テ該物品ハ他ヨリ買受ケ又ハ借受ケテ營業ヲ繼續シ得ヘキ性質ノモノナリトノ理由ヲ以テ休業ニ對スル損害賠償ノ責任ヲ免カレ得ヘキモノニ非ス

行政上ノ徵收手續

(納税保證ノ抵當)參看

起訴者ノ利益

(確認訴訟ノ條件(ロ))參看

期限前ノ利息

(優先權アル利息)參看

實質上ノ送達ノ效力

(無効ノ送達ニ基ク裁判ノ效力)參看

社掌ノ代表權

社掌ハ社司ノ缺ケタル場合ニハ神社ヲ代表シ訴訟ノ對手ト爲ルノ權アリ隨テ其訴訟行為ハ訴訟審理中ニ任命セフンタル社司ニ對シテ效力アリ

信徒總代ノ代表權

信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權ナシ

人證ノ排斥

(唯一證據ノ排斥)參看

私書否認ノ效力

(相手方ノ關係ナキ私書ノ否認)參看

訊問ノ決定ナキ呼出

(違法ノ呼出狀)參看

書面ニ依ラサル關席判決ノ申立

(關席判決ノ申立)參看

受領者ノ訴訟行為

(送達ノ障礙)參看

酒造税法ニ依ル納税保證ノ性質

(納税保證ノ抵當)參看

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

民事いろは索引

上告審ノ裁判ニ對スル抗告

控訴院カ上告審ノ資格ヲ以テ上告事件ヲ審  
理スルニ當リ爲シタル裁判ニ對シテハ大審  
院ニ抗告スルヲ得ス

所有權行使ノ範圍

(家屋侵害ノ救済)參看

制限利率内ノ重利契約

(重利契約ノ效力)參看

九

三

五

八

〔セ〕

法 文 表

民法	丁數
三七四條……………	一〇七
民法施行法	
三七條……………	九七
商法	
一〇一九條二項……………	一〇三
民事訴訟法	
一七四條一項……………	三六
一九七條……………	六二
二三九條二項……………	三三
酒造税法	
一三條一項……………	八三
舊登記法	

民事法文表

六條…………… 10

明治十四年内務省乙第三十三號達…………… 四





人名音字目錄

人名	番號	原審	丁數
[シ] 池永岩 吉對小林	三十三年 (才)三九號	東京	五
井上サ ト對河内谷 久兵衛	三十三年 (才)八四號	大阪	七
岩田商一 郎對今枝 彬	三十三年 (才)四一八號	名古屋	一〇三
今枝 彬	三十三年 (才)七四號	東京	一〇三
[は] 幡谷仙之介對國友 德 祐	三十三年 (才)三六號	廣島	四
[と] 鳥本本七 郎外三百九十八名	三十三年 (才)三六號	廣島	七五
友田 盛 登對宮井重三 郎	三十三年 (才)三六號	廣島	七五
宮井重三 郎	三十三年 (才)三六號	廣島	七五
[を] 奥田 最 淵	三十三年 (才)三六號	廣島	八
大浦 五郎兵衛	三十三年 (才)三六號	廣島	一〇七
[わ] 和田 壯 三	三十三年 (才)三六號	廣島	一三
[か] 川土佐太 郎	三十三年 (才)三六號	廣島	一

民事人名音字目錄

民事人名音字目録

- 柏 不松太郎外一名對和田壯三.....三十二年(才)六六號.....東京.....三
- 河内谷久兵衛被告上.....三十二年(才)四二號.....大阪.....七
- 河原林義雄對奥田最熙.....三十二年(才)四二號.....大阪.....八
- 川瀬シユン被告上.....三十二年(才)四二號.....大阪.....九
- 河邊傳次郎被告上.....三十二年(才)四二號.....大阪.....一〇
- 塚本智雄外一名被告上.....三十二年(才)四二號.....大阪.....一一
- 波木井ハツ對深澤湛善.....三十二年(才)四二號.....宮城.....一二
- 永島國太郎對山岸茂八外一名.....三十二年(才)四二號.....東京.....一三
- 中川ナヲ對塚本智雄外一名.....三十二年(才)四二號.....東京.....一四
- 野口タケ對相原平八.....三十二年(才)四二號.....東京.....一五
- 野上啓兵衛被告上.....三十二年(才)四二號.....東京.....一六
- 國友徳祐被告上.....三十二年(才)四二號.....東京.....一七
- 山岸茂八外一名被告上.....三十二年(才)四二號.....東京.....一八
- 安井昭太郎對佐伯増行外三名.....三十二年(才)四二號.....大阪.....一九
- 松井九兵衛被告上.....三十二年(才)四二號.....大阪.....二〇

- 馬淵時次郎對エム、ラスベー.....三十二年(才)一號.....大阪.....六一
- 松野喜兵衛被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....六二
- 深澤湛善被告上.....三十二年(才)一號.....東京.....六三
- 福田甚太郎外一名對福田兼太郎.....三十二年(才)一號.....東京.....六四
- 福田兼太郎被告上.....三十二年(才)一號.....東京.....六五
- 小泉萬次郎被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....六六
- 後藤善十郎外百二十名對鳥本本七郎外三百九十八名才一八四號.....三十二年(才)一號.....大阪.....六七
- 小林エイ被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....六八
- 小泉新助對河邊傳次郎.....三十二年(才)一號.....大阪.....六九
- エム、ラスベー被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....七〇
- 遠藤興藏被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....七一
- 相原平八被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....七二
- 安樂盛右衛門對野上啓兵衛.....三十二年(才)一號.....長崎.....七三
- 鮑子郷對松野喜兵衛.....三十二年(才)一號.....大阪.....七四
- 佐伯増行外三名被告上.....三十二年(才)一號.....大阪.....七五

民事人名音字目録

民事人名音字目録

[き]	木村喜榮・門野川上佐太郎……………	三十三年	東京……………	一
[み]	清宮 質對遠藤 與藏……………	三十三年	宮城……………	八三
[り]	水野慶次郎對川瀨シユン……………	三十三年	東京……………	九七
[お]	芝野チツ外二名對大浦五郎兵衛……………	三十三年	大阪……………	一〇七
[せ]	森脇市 松對松井九兵衛……………	三十三年	大阪……………	一一
	ヨ外三名抗告……………	三十三年	宮城……………	九

# 大審院民事判決録

第六輯

第九卷

## ○帳簿閱覽請求ノ件

明治三十三年(オ)第二百十四號  
明治三十三年十月二日第二民事部判決

### ○判決要旨

一 當事者間ノ賣買取引等ヲ詳記シタル商業帳簿ト雖モ相手方所有ノ帳簿タル上ハ強テ閱覽ヲ求ムルノ權ナシ隨テ特ニ法律ニ於テ規定シタル場合ノ外獨立ノ訴ヲ以テ之カ閱覽ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

第一審 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 東京控訴院

上告人 木村喜榮門 訴訟代理人 戸口茂里

被上告人 川上佐太郎

商業帳簿ノ閱覽

右當事者間、帳簿閱覽請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年三月十五日言渡シタル判決ニ對シ上告  
代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ハ上告人カ閱覽ヲ請求スル本件ノ帳簿ハ當事者間ノ賣買取引金錢受渡等ノ事項ヲ詳細記入シ  
タル商業帳簿タルコトハ當事者間毫モ爭ナキ事實ナリトス然ラハ其帳簿タルヤ假令ヒ被上告人ノ所有  
ニ屬スルモノトスルモ取引關係ノ證據資料トシテハ相互間共通ノ性質ヲ具有スルモノナリ既ニ共通ノ  
性質ヲ有スルモノトセハ則チ其之レニ記載セラレタル取引關係ノ證據物トシテハ當事者雙方ノ共有物  
ト看做スモ敢テ失當ノ觀察ニアラサルヲ信ス故ニ上告人ハ本件帳簿ノ閱覽ヲ要求スル權利アリト確信  
シ其閱覽ヲ求メタル次第ナリ而ルチ原院ニ於テハ上告人カ民事訴訟法第三百三十六條第二號ニ基キ本  
訴ノ請求ヲ爲スモノト誤斷セラレ其結果トシテ第一民事訴訟法第三百三十六條ハ已ニ繫屬セル訴訟ニ  
於テ立證ノ目的、爲メ證書提出ヲ必要ナリトスルトキニ限り其義務アルコトヲ規定シタルモノ即チ訴  
訟手續法上ノ權利義務ヲ定メタルモノニシテ云々左レハ控訴人カ民事訴訟法第三百三十六條ニ因リ獨  
立ノ訴ヲ以テ本訴ノ請求ヲ爲スハ其當ヲ得ス云々第二然レトモ民法其他本邦ノ法律中本件ノ如キ商業

帳簿ニ干シ控訴人ニ之ヲ提出セシムル權利ヲ附與セルモノアルニ於テハ獨立ノ訴ヲ以テ之ヲ要求シ得  
可シト雖モ本邦ノ法律中斯ル權利ヲ附與シタルモノナキヲ以テ控訴人ハ云々本件帳簿ノ閱覽ヲ請求シ  
得可キ權利ナキモノナリ云々ト判定セラレタルハ不法ノ甚クシキモノナリ  
蓋シ社會人民ハ法律ノ禁止以外ノコトニ付キテハ其利害ニ從テ奈何ナル行動ヲ爲スモ其隨意ニシテ其  
之ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノナリ而シテ原判決第二段ノ意味ヲ諸般ノ場合ニ擴張スルトキハ社會人民  
ハ凡テ法律ノ明文ニ基キ行動ス可ク法ニ明文ナキコトハ何事モ爲スヲ得スト云フコトニ歸着ス豈ニ如  
此キ理アル可ケンヤ去レハ法律ニ明文ナシト雖モ本件ノ如キ場合ニ在テハ無論獨立訴訟ヲ以テ本件ノ  
請求ヲ爲シ得サル道理ナキコトナリ況ヤ民事訴訟法第三百三十六條所定ノ如ク訴訟ノ繫屬中ハ單純ナ  
ル申立ヲ以テスラ其閱覽ヲ請求シ得ルニ於テハ獨立ノ訴訟ヲ以テ其請求ヲ爲スニ於テ其閱覽ヲ拒絕ス  
ヘキ理何レニ在ルカ更ニ之ヲ見出ス能ハサルナリト云フニ在リ  
按之本件ノ商業帳簿ハ上告論旨ノ如ク當事者間ノ賣買取引金錢受渡等ノ事項ヲ詳記シタル簿冊ナリト  
スルモ元來被上告人所有ノ帳簿タル上ハ上告人ハ被上告人ニ對シ強テ其閱覽ヲ求ムルノ權ナシ若シ本  
件ノ簿冊ニシテ當事者間共通ノ性質ヲ有シ民事訴訟法第三百三十六條第一項第二號ニ相當スルモノナ  
ルトキハ同條ノ規定ニ從ヒ提出ヲ請求シ得ヘシ其他又法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ノ外ハ獨立ノ訴  
ヲ以テ之レカ閱覽ヲ求メ得ヘキモノニアラス要スルニ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシトス



取消ノ訴ノ提起ノ時期○榎家總代ノ代表權○無効ノ送達ニ基テ裁判ノ效力

以上辯明ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○地所所有名義書換請求取消ノ件

明治三十三年(正)第二百八十七號  
明治三十三年十月一日第二民事部判決

○判決要旨

一 民事訴訟法第四編中不變期間ノ開始前ニ取消ノ訴ヲ提起シ得サル旨ノ規定ナキヲ以テ其開始前ニ於テモ之ヲ提起シ得ルモノト解釋スルヲ相當トス(判旨第一點)  
一 寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ榎家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス(判旨第二點)

(參照) 各管内社寺總代人ノ儀氏子榎家中(氏子榎家ナキモノハ信徒)相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ速署ヲ以可爲差出且社寺收入財產ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱費儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事(明治二十四年五月内務省訓令第八號ヲ以テ共有「社寺有」ト改ム)但神官官幣社ハ非此限總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若ハ戸長役場ヘ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不貞ノ所爲アルトキハ臨時改撰セシムヘシ(同上法令ニヨリ本項但書共追加)但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ(明治十四年内務省) 達乙第三十三號)

一 寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ應訴シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス(判旨第四點)

第一審 福島地方裁判所平支部 第二審 宮城控訴院

上告人 波木井ミトリ

右法定代理人 波木井ハツ 訴訟代理人 村松山壽

取消ノ訴ノ提起ノ時期○榎家總代ノ代表權○無効ノ送達ニ基テ裁判ノ效力

右當事者間ノ地所所有名義書換請求取消訴訟事件ニ付キ明治三十三年四月二日宮城控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告論旨第一點ハ上告人ハ原院ニ於テ本件ハ民事訴訟法第四百七十四條第四項ノ規定ニ從ヒ其取消サントスル判決ハ被上告人ニ送達セラレ其送達ニヨリ判決アリタルコトヲ知リタル後ニ於テ提起セラル可キモノニシテ被上告人ノ供述スル如ク（前訴ノ判決ハ明治二十七年二月二十五日小田海著ニ送達アリタルノミニテ安立寺ノ法定代理人タルヘキモノニ送達アリタルコトナシ）ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第四百七十四條第四項ノ所謂「其訴ノ提起ノ期間ハ云々送達ニ依リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル」ニ該當セサルモノナルヲ以テ期間開始前ノ提起ニ係リ不適法ノ出訴ナルヲ以テ之カ棄却ヲ求ムル旨抗辯シタリ然ルニ原院ハ本訴ハ前判決ノ送達アラサルモ之ヲ提起スルヲ得ルハ民事訴訟法ノ規定ナリトシ上告人ノ抗辯ヲ却下セラレタルハ違法ノ裁判ナリ尙ホ本點ニ付大審院明治二十九年第三百三號地所賣買履行事件ノ判決及同院明治三十一年第三百四十號詐害行為廢罷事件ノ判決ヲ援用ス

ト云フニ在リ

判旨第一點

按スルニ民事訴訟法第四百七十四條第四項ニ「其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル」トアル規定ハ訴ヲ提起スヘキ不變期間ノ始期ヲ定メタル迄ニシテ不變期間ノ開始前ニ訴ヲ提起スルヲ得ルヤ否ヤノ問題ニハ關係ナシ而シテ本編中不變期間ノ開始前ニ取消ノ訴ヲ提起シ得サルヤ否ニ付テハ何等ノ規定ナシ然レハ該訴ハ控訴上告ト異ナリテ不變期間ノ開始前ニ於テモ之ヲ提起シ得ルモノト解釋スルヲ相當トス本院明治二十九年第三百號判決ハ上告論旨ヲ確ムルノ例トスルニ足ラサルノミナラス却テ其第四點ノ說明ニ依リ明カナル如ク原判決ノ相當ナルコトヲ證スルニ十分ナリ又本院明治三十一年第三百四十號判決ハ適法ニ代理セラレサル者ハ判決ノ送達ヲ受ケサル間ハ取消ノ訴ヲ提起ス可キ義務ナシトノ事ヲ判決シタルニ止マリテ判決送達前ニハ取消ノ訴ヲ提起スルヲ得ストノ事ニアラス故ニ此判決モ亦上告論旨ヲ確ムルニ足ラス然レハ原判決ハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

上告第二點ノ論旨ハ民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内寺院ニハ之ヲ適用セサルカ故ニ之ヲ代表シテ權利義務ニ關スル行為ヲ爲サントセハ寺院ノ成立要素タル住職ト檀徒ノ協議同行爲ニヨラサル可カラズ其何レヲモ偏廢スルヲ得サルナリ故ニ明治十四年内務省乙第三十三號達ニ依ルモ寺院ノ願届等ハ渾テ檀家總代人ノ連署ヲ以テ可爲差出旨ノ規定アリ其他從來ノ法規及ヒ慣例ハ皆此ノ趣旨ニ外ナラスト

信ス果シテ然ラハ本件ノ如ク單ニ住職ヲ以テノミ被上告寺ヲ代表セシメ訴訟行為ヲ爲スハ違法ノ手續ニ屬スト云フ可キナリ然ルニ原院ハ之ヲ相當ナリト判決セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

判旨第二點

按スルニ寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ之ヲ代表スル者ハ住職ニシテ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニシテ訴訟上ニ於ケル代表權ニハ何等ノ關係ナキ規則ナリ故ニ本論旨モ亦其理由ナシ

其第三點ハ寺院ノ代表者ハ其成立要素ノ一タル住職ノミヲ以テ足レリトセハ其他ノ一タル檀徒モ亦住職同様寺院ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲シ得可キナリ何トナレハ住職檀徒共ニ寺院ニ對スル利害關係ハ毫モ淺深アルヘキノ理ナケレハナリ果シテ然レハ本件取消ヲ求メラレタル判決ハ小田海耆ニシテ住職ニアラサルモ他ノ檀徒總代ニ依リテ安立寺ヲ代表シ得タルモノナレハ代理欠缺ヲ理由トシテ其取消ヲ求メサル可カラサルナリ故ニ原院カ以上ノ主張ヲ排斥シテ「寺院ハ其住職ニ因テ代表セラル可キモノニシテ檀家總代ハ無住職ノ場合ト雖モ之ヲ代表スルノ資格ナキモノナレハ云々」判定セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

按之訴訟上寺院ヲ代表スル者ハ住職ニシテ檀家總代ハ之ヲ代表スルノ權限ナキコトハ前點説明ノ如シ尤モ從來寺院ノ訴訟ニ住職ノ外檀家總代モ出廷辯論シタルノ例ナキニアラサルモ法律上檀家總代ハ寺

院ヲ代表スルノ權ナキモノナレハ代表者ノ資格ニテ訴訟ニ參加シタルモノト看做スヲ得ス故ニ本院ニ於テ近來寺院ノ訴訟ニ檀家總代ノ參加スヘキ理由ナキモノトシ裁判シタル例尠カラズ然レハ原院檀家總代ハ「無住職ノ場合ト雖モ之ヲ代表スルノ資格ナキモノトス」ト裁判シタルハ相當ナリ

其第四點安立寺住職ナラサル小田海耆ニ訴狀ノ送達アルモ固ヨリ之ヲ被上告寺ニ送達シタル效果ヲ生ス可キニアラサルヲ以テ前訴ハ上告人及被上告人間ニ權利拘束ノ結果ヲ生セサルナリ既ニ權利拘束ナク從テ判決ノ送達等ナクンハ固ヨリ本案訴訟ハ被上告人ニ對シテ確定判決ニアラス即チ再審ノ訴ヲ許容ス可キ場合ニアラサルナリ況ンヤ民事訴訟法第四百六十八條第四號ノ規定ハ當事者間ニ權利拘束ノ效果ヲ生シタル後其訴訟行為ヲ爲ス可キ代理資格ニ欠缺アリタル場合ニ恰當スル者ニシテ始メヨリ權利拘束ノアラサル本件ノ如キ場合ヲ包含セサルニ於テヤ然ルチ原判決ハ被上告人ノ再審ヲ許可シ人間ニ確定シタル訴ヲ却下セテレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

判旨第四點

按スルニ安立寺ニ對スル訴訟ニ付同寺ノ住職ニアラサル小田海耆ニ訴狀ヲ送達スルモ實質上其效ナシト雖モ海耆ニ於テ同寺ノ代表者トシテ應訴シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上其裁判ハ安立寺ニ對シ確定力ヲ生スルモノトス已ニ安立寺ニ對シ確定力ヲ生スル上ハ其代表者タル被上告人ハ形式上其確定裁判ニ拘束セラルハ筋合ナレハ被上告人ハ民事訴訟法第四百六十八條第四號ノ規定ニ依リ取消ノ訴ヲ爲シ得ヘキコト勿論ナリトス故ニ此論旨モ亦其理由ナシ

以上説明ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス可キモノトス

○地所所有名義書換登記手續履行請求ノ件

明治三十三年(オ)第三百四十一號  
明治三十三年十月一日第二民事部判決

○判決要旨

一 正當ノ所有者ヨリ買得シタル地所ト雖モ登記ヲ經タルニ非サレハ舊登記法第六條ノ法意ニ依リ其賣買ハ賣主ニ對スルノ外何人ニ對シテモ絶對ニ無効ナリ

(參照) 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與買入書入ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス(舊登記法第六條)

第一審 靜岡地方裁判所沼津支部 第二審 東京控訴院

上告人 野口タケ 訴訟代理人 水尾訓和 柴崎守雄 高木金之助

被上告人 相原平八

右當事者間ノ地所所有名義書換登記手續履行請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年五月十九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告理由第一點ハ民法施行以前ト雖モ所有權ノ物權ニシテ且意思表示ノミニ因リテ當事者間ニ之ヲ移轉シ得ヘキモノナリシコト論ヲ俟タス而シテ上告人ハ本件係争地ヲ買受ケタルモノナレハ所有權ノ效果トシテ主張シ得ヘキ諸權利ノ上告人ニ屬スルコト亦辯ヲ要セス勿論此權利ハ登記法ノ規定ノ爲メ制限ヲ受クト雖モ然レトモ舊登記法第六條ニ登記ヲ爲サル地所賣買ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトスト云ヘル所謂第三者ナルモノハ第一ノ賣買カ有效ナラサルトキニ於テ始メテ其結果トシテ法律上效力ヲ生スル權利關係ヲ有スル者換言セハ互ニ衝突セル權利關係ヲ有スルモノナラサルヘカラス若シ然ラスシテ何等ノ權利關係ヲ有セサル者ニ對シテモ尙ホ賣買ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトセハ所有權ノ物權タル所以ノ效果ヲ滅却シ登記法ノ公示方法タルニ過キサル精神ニ背馳スルニ至ルヘシ然ルニ原裁判所ハ權利關係ノ有無ヲ審究セス漫然被上告人ヲ第三者ナリト獨斷シテ上告人ノ請求ヲ却下

シ毫モ其理由ヲ説明セザリシハ判決ニ理由ヲ付セザリシ不法アルモノト信スト云フニ在リ其第二點ハ假ニ原判決ノ趣旨ハ被上告人ハ買得登記ヲ爲シ登記簿上ノ所有權者ナルカ故ニ上告人ニ對スル第三者ナリト爲シタルモノトセンカ上告人ノ主張ハ被上告人ノ先主湯川延次郎ハ所有權ヲ有シタルモノニアラサレハ同人ノ賣買行爲ハ無効ニシテ從テ被上告人ニ所有權ナシト主張スルモノナルカ故ニ假令上告人ハ登記簿上ノ所有者ニアラサルモノトスルモ無効ノ原因ニ基キ登記シタル被上告人ニ對シ登記名義ノ更正ヲ求ムルニ支障ナカルヘシ何トナレハ上告人ハ正當ノ所有者ヨリ所有權ヲ取得シタルモノナレハ他ニ牴觸シタル權利ヲ取得シタル者存在セサル以上ハ上告人ハ所有者トシテ所有權侵害ノ排除ヲ爲シ得ヘキハ當然ノ事理ナレハナリ故ニ無効ノ權原ニ基キ所有名義ヲ冒シテ上告人ノ權利ヲ侵害スル被上告人ニ對シ登記名義更正ヲ請求スルハ所有權者タルモノ、至當ノ處措ニシテ決シテ舊登記法第六條ノ制限ヲ受クヘキモノニ非スト信ス然ルニ原裁判所ハ漫然被上告人ヲ以テ第三者ナリト爲シ上告人ニ所有權主張ノ權利ナシト判決シタルハ舊登記法第六條ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ

然レトモ上告人ハ假令正當ノ所有者ヨリ本訴係争ノ地所ヲ買得シタルトスルモ登記ヲ經タルニアラサレハ舊登記法第六條ノ法意ニ依リ其賣買ハ賣主ニ對スルハ外何人ニ對シテモ絶對ニ無効ナリ故ニ上告人ハ本件地所ノ賣主タル莊司由修ニ對シテ所有權ヲ主張シ得ルノミニシテ其他何人ニ對シテモ所有權

ノ取得ヲ主張シ得サルモノトス然レハ被上告人カ正當ノ權原ニ基キテ係争地ノ所有名義ヲ得タルト否トニ論ナク上告人ハ被上告人ニ對シ本訴ノ請求ヲ爲スヘキ權利ナキヲ以テ原判決ハ適法ニシテ上告論旨ハ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ棄却スヘキモノトス

○貸金請求ノ件

明治三十三年(オ)第二百八十六號  
明治三十三年十月二日第一民事部判決

○判決要旨

一金錢ノ貸借ニ於テ辨濟期限後ノ利息ハ損害賠償ノ性質ヲ有スルハ固ヨリ論ヲ待タサレトモ又稱シテ遲延利息ト云フコトアルヲ以テ之ヲ損害金ト云フモ利息ト云フモ毫モ妨ケアルヘカラス

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

遲延利息ノ性質

上告人 柏木松太郎 訴訟代理人 瀬戸留吉  
外二名  
被上告人 和田壯三

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年一月二十七日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ被上告人ノ上告人ニ對スル請求ハ訴狀記載ノ如ク上告人ノ外小谷留次郎石井彌榮萩原龍吉木村松太郎大川傳吉麻布正吉岡敏吉ノモノ連帶シテ辨濟スヘシトノ請求ナルニ原院ハ上告人及ヒ大川傳吉ノ四名カ「控訴人」ノモノニ於テ連帶シテ辨濟ス可シト判決セラレタルハ當事者ノ申立ナキ事實ニ付キ判決セラレタル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

然レトモ連帶債務ノ性質ハ債權者ト債務者トノ間ニ在リテハ共同債務者ノ員數如何ヲ問ハズ債權者ニ對シテハ各一人ニテ債務全額ヲ辨濟スヘキ義務アルモノナレハ被上告人カ第一審ニ於テ共同被告ニ對シテ連帶ニテ本訴債務ノ辨濟ヲ爲ス可キ旨ヲ申立テタルハ則チ共同被告ハ互ニ各一人ニテ他ノ共同被告ナシテ債權者ニ對シ辨濟ノ責ヲ免レシムヘキ條件ノ下ニ債務全額ヲ辨濟ヲ爲サノコトヲ請求シタル

ニ外ナラス然レハ則原院ニ於テ共同被告中獨リ控訴シタル上告人等ノミニ對シ本論旨中ニ採用シタルカ如キ判決ヲ爲シタリトテ第一審ノ判決ニ比シテ上告人等ノ義務ニ重チ加ヘタルモノト云フヲ得ス故ニ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコト無シ

上告趣旨ノ第二ハ被上告人ハ第一審訴狀ニ於テ一定ノ申立ノ部ニ於テ「明治三十二年一月一日ヨリ本件判決執行濟ニ至ル迄云々ノ損害金ヲ添附シ原告ニ辨濟ス可シ」ト請求シアルニモ不拘原院ハ「明治三十二年一月一日ヨリ本件判決執行濟ニ至ル迄云々ノ利息ヲ積算シ其内ヨリ金八十五圓五十錢ヲ控除シタル金額ヲ辨濟スヘシ」ト判決セラレタルハ當事者ノ申立テサル點ニ對シ判決ヲ爲シ且ツ期限後ノ利息ヲ利息トシテ支拂フ可シト判決セラレタルハ法則ニ違反スル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ○然レトモ第一審判決事實ノ摘示ニ依レハ「前略右元金並ニ明治三十二年一月一日ヨリ支拂濟マテ約束通りノ利子ヲ辨濟スヘシトノ判決アリタシ云々」ト被上告人カ申立テタルコト明白ニシテ原判決ハ之ヲ採用シタルヲ以テ本論旨ハ原判決ノ趣旨ニ副ハサルノミナラス金銭ノ貸借ニ於テ辨濟期限後ノ利息ハ損害賠償ノ性質ヲ有スルコトハ固ヨリ論ヲ待タサレトモ又稱シテ遅延利息ト云フコトアルヲ以テ之ヲ損害金ト云フモ又ハ利息ト云フモ毫モ妨ケアルヘカラス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第三ハ原院ハ被上告人ノ請求中被上告人カ既ニ受領シタル利息ヲ控除セスシテ請求ヲ爲シタリトノ點ニ付キ第一審裁判ヲ廢棄シナカラ訴訟費用全部ヲ上告人(控訴人)ニ負擔セシメラレタル

ハ訴訟費用ニ關スル法則ヲ不當ニ適用セラレ且ツ此點ニ對シ一定ノ申立變更ノ書面ヲ被上告人ニ於テ提出セス且ツ控除ノ判決モ申立ナルニ恰モ被上告人ニ於テ斯ノ如キ請求ヲ爲シタル如ク判決セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ元金ニ附帶シテ請求スル利息ニ付テハ其數額ノ多少ニ關セス訴訟用印紙ヲ貼用スルノ要ナク其他利息ノ爲メ特ニ訴訟費用ヲ要スルコト極メテ稀有ナルヘキカ故ニ原院ニ於テハ控訴シタル利息ニ付テハ特ニ費用ヲ要セザリシモノト看做シ民事訴訟法第七十三條第二項ノ規定ニ從ヒ訴訟費用ノ全部ヲ上告人ニ負擔セシメタルモノニ外ナラサルコトハ原判文上自ラ明白ナリ又上告人ハ第一審判決ノ全部廢棄ヲ原院ニ申立而シテ被上告人ハ利息ノ内八十五圓五十錢領收シタル旨自白シタルコトハ原院ノ口頭辯論調書ニ載セテ明白ナルヲ以テ原院カ之ヲ控除シタルハ上告人ノ申立範圍内ニ於テ爲シタルニ外ナラス且之ヲ控除シタルハ被上告人請求ノ一部ヲ棄却スルモノナレハ其申立アルヲ必要トセサルコト固ヨリ論ヲ待タス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス如上ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百二十九條初項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

○不動産強制執行取消請求ノ件

明治三十三年(乙)第三百五十四號  
明治三十三年十月五日第二民事部判決

○判決要旨

一係争物件數筆ニ涉ルモ其物件ノ何物タルヤニ付キ當事者間ニ争ナキトキハ判決主文ニ該物件ヲ逐一明記セサルモ之ヲ知り得ヘキ程度ニ於テ掲クレハ足ルモノトス

第一審 鹿兒島地方裁判所 第二審 長崎控訴院

上告人 安樂盛右衛門 訴訟代理人 長谷川菊太郎

被上告人 野上啓兵衛

右當事者間ノ不動産強制執行取消請求事件ニ付明治三十三年三月十九日長崎控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ノ論旨ハ理由不備ノ瑕疵アリ故ニ法律ニ違背セル不法アリ原判決ノ要旨ハ上告人ト訴外九谷覺之丞間ニ成立セル明治三十一年十二月八日附金千六百六十餘圓ノ貸借契約ハ明治三十一年二月十

日附金貳千圓ノ貸借契約トハ全ク別種ノモノナリ且ツ右ノ契約ハ不成立ニ歸シタルモノナルヲ以テ其債務ニ關シ被告カ擔保トシテ本訴目的物ヲ債務者ニ供出スル旨ノ承諾ヲ與ヘタルモ同シク無効ニ歸セサルヘカラス故ニ後ノ契約ニ基ク請求ニ因リ本訴目的物ノ上ニ強制執行ヲ爲スハ不當ナリト云フニ在リ然リト雖モ右貳千圓貸借契約不成立トナリタル後ニ於テ更ニ同一當事者間ニ於テ明治三十一年二月二十日金五百五十圓同年三月三十一日金貳百圓ノ貸借アリ此債務ニ關シ本訴目的物ヲ擔保ニ供スルコトヲ被告人ニ於テ承諾シタルコトハ第一審調書明治三十二年九月二十九日ノ部ニ於テ被告人カ左ノ陳述ヲ爲シタルニ依ツテ明了ナリ「開期限明治三十一年五月二十五日限リナルカ其後ニ至リ貸借スルモ差支ナシトノコトナルヤ答其時借ルタケノ承諾ヲ爲シタルモノナリ問明治三十一年五月二十五日迄ナレハ何時借リテモ原告ハ異存ナキヤ答左様」トアリ則チ五百圓竝ニ貳百圓ノ債務ノ擔保ニ供スルコトヲ認メタルモノナリ第一審判決モ是ヲ確認シ「本訴ノ地所ヲ抵當トシ金五百五十圓ヲ明治三十一年二月二十日ニ金貳百圓ヲ同年三月三十一日ノ兩度ニ貸渡シタルコトハ云々之ヲ認定スルコトヲ得レハ抵當權ノ設定セラレタルコトハ實ニ明確ナリ」ト言明セリ果シテ然ラハ此貳千圓ノ債務ニ對シテハ貳千圓ノ貸借契約以前ニ擔保ニ供出スルコトヲ承諾シタルモノニシテ結局乙第一號證貳千圓ノ貸借ニ限ラレタルニ非サルコト明白ナルニ拘ハラス原判決ニ於テハ被告人ハ單ニ明治三十一年二月十日附金貳千圓ノ貸借ニ關シテノミ承諾ヲ與ヘタルモノ、如ク不當ニ論決シ是ヲ理由トシテ明治三十一年

十二月八日附金千六百六十餘圓ノ債務ニ關シ承認ヲ與ヘザリシモノト判決シタルハ理由不備ノ瑕疵アリト云フニ在リ

按之凡ソ控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ辯論ヲ爲スヘキモノナルコトハ民事訴訟法第四百十一條ニ規定スル所ニシテ裁判所ハ其辯論ヲ經タル事項ノミニ對シ法律ノ規定ニ反セサル限りハ自由ナル心證ヲ以テ之カ判斷ヲ爲シ得ヘキモノナリ而シテ本件ノ記録ヲ調査スルニ被告人ハ原院ニ於テ本論旨ノ如キ第一審ノ調書ニ於ケル被告上告人ノ答ヲ引用シテ防禦ノ方法ト爲シタル事跡ノ見ルヘキモノナシ然ラハ原院カ斯ル事項ヲ顧ミス同院ニ於テ爲シタル辯論及證據調ノ結果ノミヲ斟酌シ乙第一號證ノ貳千圓ノ貸借ニ付テハ被告上告人カ係争ノ物件ヲ抵當ニ爲スヘキコトヲ承諾シタルモ該證ノ貸借不成立ト同時ニ其抵當ノ承諾ハ消滅ニ歸シ其後ノ貸借ニ付テハ被告上告人ハ承諾ヲ爲シタルモノニ非スト認メ上告人ノ主張ヲ排斥シタルハ所謂原院ノ職權ニ屬スル自由ナル心證判斷ニシテ原判決ハ上告論旨ノ如キ違法ナル點ナシ

上告第二點ノ論旨ハ本件ノ原判決主文ニ依レハ本件控訴ハ之ヲ棄却ストアリ而シテ第一審ノ判決ヲ閱スレハ被告ハ原告ノ請求スル鹿兒島縣川邊郡知覽村鹽屋字二本松二万八百五十九番畑壹反貳畝拾三步外二十八筆ノ不動産ニ對スル強制執行ヲ取消ス可シトノ判決ニシテ原院ハ之ヲ認可シタルモノナリ而シテ第一審判決ハ畑壹反貳畝拾三步外二十八筆トアリテ明カニ執行シ得ヘキ不動産ノ表示ヲ欠キタリ



故ニ二十八筆ノ不動産ナルヤ之カ明示ヲ爲サ、ル限リハ該判決主文ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルハ甚ク  
 瞭然タリ一件書類及ヒ判決ノ事實摘示ト相對照シ以テ本件二十八筆カ如何ナル不動産ナルヤヲ知ルニ  
 足ルヲ以テ主文ニ表示スルモノハ二十八筆ト記載スレハ尙ホ執行力ヲ有スルモノトセハ畑壹反貳畝拾  
 三步ヲモ記載セシテ漠然二十八筆ヲ云々ス可シトノ判決主文モ尙ホ執行力ヲ有スルトノ最モ不可思  
 議ナル論結ヲ得ルニ至ラン故ニ上告人ハ信ス判決主文ナルモノハ其主文ニヨリ諸般ノ判決義務ノ效果  
 ナ生ス可キモノタル以上ハ苟モ判決主文ニ判決ヲ受ケントスヘキ事項之ヲ換言セハ命令ニ代ルヘキ事  
 項ヲ詳細ニ記載セサルヘカラス然ルニ原判決ハ之ニ反スルヲ以テ所謂執行シ得サル不法ノ判決ナリト  
 云フニ在リ

按スルニ元來判決ノ主文ハ當事者ノ一定ノ申立ニ基キ其訴訟ノ目的タル事物ヲ表示ス可キヲ一般トス  
 レトモ若シ係争物件數筆ニ涉リ其物件ノ何物タルヤニ付當事者間ニ争ナケレハ敢テ該物件ヲ逐一明記  
 セサルモ之ヲ知り得ヘキ程度換言スレハ之ヲ履行シ得ヘキ程度ニ掲クルヲ以テ足レリトスヘキコトハ  
 既ニ當院ノ判例トシテ認ムル所ナリ而シテ本件係争ノ不動産タルヤ二十有餘筆ノ多キニ涉リ總テ上告  
 人ノ強制執行中ニ係ル物件ナルコトハ上告人モ認メテ争ハサルノミナラス原院ニ於テ第一審判決主文  
 ノ記載方法ニ對シ不服ヲ主張シタルコトナキヲ見レハ右主文ノ如ク履行シ得ヘキモノト云ハサルヲ得  
 ス是ヲ以テ原判決ハ其主文ニ於テ單ニ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタルモノナレハ該判決ハ違法ナル點  
 ナシ

以上説明ノ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ依リ  
 之ヲ棄却スルモノナリ

○建物取拂地所明渡請求ノ件

明治三十三年(光)第三百五十八號  
 明治三十三年十月五日第二民事部判決

○判決要旨

一他人ノ地所ニ建設シアル建物ノ強制競賣ノ場合ニ告示ニ因リ地所  
 所有者ト被競賣者トノ間ニ於テ地所明渡ノ訴訟中ナル事實ヲ了知  
 シタル上之ヲ競落セシメタルトキハ其競落人ハ地所所有者ヨリ確  
 定判決ノ結果トシテ明渡ヲ請求セラル、モ之ニ對シ異議ヲ唱フル  
 權利ナシ

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

建物競落人ノ義務

上告人 森脇市松 訴訟代理人 牧野充安  
被上告人 松井九兵衛

右當事者間ノ建物取拂地所明渡請求事件ニ付大阪控訴院カ專治三十三年四月十九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ原判決ハ地上權ヲ設定シタル形蹟ナケレハ被上告人ト訴外人松井伊兵衛トノ賃貸借契約ニ基キテ上告人カ係争地面ヲ使用シタルモノト認メサルヲ得スト斷定シタリト雖モ上告人カ該土地ヲ使用スル權ハ他人ノ契約ニヨラスシテ上告人自ラカ該土地上ノ建物ヲ所有スル爲メニ土地ヲ使用セル事實ニ據リ上告人ト被上告人トノ間ニ地上權設定ノ形迹ナキモ明治三十三年法律第七十二號ニヨリ地上權ノ推定ヲ受クヘキモノナレハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法ヲ免レサルモノナリト云ヒ其第二點ハ本案上告人カ被上告人ニ對抗スルニ地上權ヲ有セリトノ物權ノ主張ヲ以テス然ルニ原判決ハ地上權ヲ設定シタル形迹ナケレハ各建物所有者ハ前記 被上告人ト松井伊兵衛間 賃貸借契約ニ基キ係争地所ヲ使用シタルモノト認メサルヲ得スト斷定シタルハ上告理由第一點ニ論述スル外左ノ不法アルモノ

ナリ一、賃貸借契約ハ人權ナルヲ以テ上告人ト被上告人間ニ賃貸借契約ナク且ツ債權ノ讓渡ナル事實モナキニ上告人カ他人間ノ賃貸借契約ニ羈束セラルヘキ筋合ナシ即原判決ハ債權ノ效力ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リテ第三者ノ債權效力ヲ上告人ニ及ホシ契約ノ成立ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リテ何等ノ意思表示ナキ上告人ニ契約ノ責任ヲ歸セシメタル不法アルモノナリ二、假ニ原判決ノ如ク上告人ハ第三者松井伊兵衛カ被上告人ト締結シタル賃貸借契約ヲ承繼シタルモノトスルモ被上告人ハ上告人ニ對シ本案地所ノ明渡ヲ求ムルハ不當ナリ何トナレハ被上告人ハ上告人ニ對シ賃貸借契約解除ノ意思表示ヲナシタルコトナケレハナリ即賃貸借契約解除ノ事實ヲ確定セズシテ賃借物件ノ返還ヲ言渡シタル不法ヲ免カレス三、賃貸借契約ノ解除ハ土地ニ就テハ一个年前ニ通知スルヲ要スルニ此要件ヲ充タサ、リシ被上告人ノ本案請求ヲ至當ナリトセシハ土地ニ關スル賃貸借契約終了ノ法則ニ違反セルモノナリ四、或ハ賃貸借契約ハ被上告人ト松井伊兵衛ノ契約ニ因リ定マリタル五個年ノ期限明治二十三年ニ滿了セシナリテ既ニ賃貸借終了後ナリト云フヲ以テ前二項ノ論旨ニ對スル辯解トセン乎然ラハ承繼セントスル賃貸借契約ハ終了ニ因リ賃借權ノ存在セサルモノナルヲ以テ承繼スルニ由ナシ即チ原判決ハ理由齟齬ノ不法アルモノナリト云ヒ其第三點ハ原判決理由ニ控訴人上告人ト被控訴人 被上告人ト松井伊兵衛 間ニ於ケル訴訟ノ繫屬セルヲ知リシヲ以テ其訴訟ノ結果本件地所ヲ返還スヘキ場合ヲ豫期セサル可カラズ(假令其訴訟ノ判決ハ闕席判決ニシテ未確定中ナリトスルモ)其豫期シタル事實ノ到來セシ時ハ之ニ服

從スヘキハ當然ナリトアレトモ上告人ハ訴訟ノ繫屬セル事ヲ知リシトスル必スヤ矢部勇吉ノ敗訴スヘキコトヲ豫期スヘキモノニアラス矢部勇吉カ敗訴シタルトキハ本案土地ヲ明渡ストノ意思表示ヲ爲シタルコトナシ故ニ原判決ノ理由所謂右豫期ノ條件ナルモノハ上告人ト被上告人間ニ於ケル法律關係トシテ解除條件附賃貸借契約トシテ適用セラルヘキモノニアラス單ニ一ノ事實ニ過キス此事實カ法律上上告人ニ地所返還ノ債務ヲ生スルヤ否ニ付法律關係ヲ稽查スヘキモノトス而シテ判決ハ當然第三者ニ對シ效力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ右判決ノ結果上告人カ返還セサル可カラストノ原判決理由ハ不當ナリト云フニアリ

按スルニ賃貸借ニ因リ他人ノ地所ニ建設シタル建物ノ強制競賣ニ付テハ民事訴訟法第六百四十三條第五號同條第三項同法第六百五十八條同法第六百六十三條ニ規定スル如ク債權者ニ於テ先ツ強制競賣ノ申立ニ賃貸借ノ期限並ニ賃貸借ヲ證スヘキ證書ヲ添附シテ之ヲ執行裁判所ニ提出シ若シ是等ノ要件ヲ知ル能ハサルトキハ債權者ハ其取調ヲ其裁判所ニ申請シ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシメ競賣期日ノ公告ニハ賃貸借ノ期限並ニ借賃ヲ表示シ尙ホ其期日ニ於テ執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告示スル等ノ手續ヲ爲シ以テ競買人ヲシテ地所所有者ト建物ノ所有者タル被競賣者トノ賃貸借ニ於ケル契約ノ要件ヲ明カニ了知セシメタル已上競賣ニ附スルモノナレハ此場合ニ於テハ直接ニ地所所有者ノ承諾ヲ要スルコトナク競賣申立人ニ於テ其物件ヲ競落シタルト

キハ被競賣者ノ地所所有者ニ於ケル賃貸借上ノ權義ハ當然之ヲ繼承スルモノトス去レハ競落人ニ於テ被競賣者ノ有スル權利ヲ有ス可キ筋合ナキヲ以テ競賣ニ際シ地所所有者ヨリ被競賣者ニ係リ地所明渡ノ訴訟中ナル事實ヲ告示ニ因リ了知シタル已上競賣ノ申立ヲ爲シタルトキハ其確定判決ヲ以テ定リタル權義ヲ繼承スルノ外他ニ何等ノ權利ヲモ有セサルモノナルニヨリ競落人ニ於テ地所所有者ヨリ確定判決ノ結果ニヨリ明渡ヲ請求セラルニ於テハ之レニ對シ異議ヲ唱フルノ權利ナキコトハ論ヲ俟タザル所ナリトス故ニ原判決ハ其理由ノ冒頭ニ於テ本訴係争地ハ被上告人ト松井伊兵衛トノ間ニ於テ賃貸借契約ヲ締結シ轉讓シテ被競賣者カ之ヲ繼承シ來レル事實ヲ認メ其中段ニ於テハ競賣ニ際シ上告人ト被上告人トノ間ニ於テ特ニ地上權ヲ設定シタル事蹟ナキヲ說示シ其末尾ニ於テ「云々之ヲ競賣シタル際被控訴人ト矢部勇吉間ニ該地所明渡請求ノ訴訟アリテ結局矢部勇吉ノ敗訴ニ歸シタルコトハ甲第一號證ノ證明スル所ニシテ控訴人カ之ヲ競落スルニ當リ其訴訟アルヲ知了セシコトモ亦甲第三四號證ノ證明スル所ナレハ控訴人ハ訴訟ノ結果該地所ヲ返還スヘキ場合アルヲ豫期シテ競落セシモノト謂ハサル可カラス然ルニ控訴人ハ甲第一號證ハ闕席判決ニシテ且未確定中ナレハ其效力ナキモノ、如ク論スレトモ闕席判決ナルト否ト未確定ナルト否トハ自己ノ豫期シタル事實ノ到來セシトキハ之ニ服從ス可キハ當然ニシテ今ヤ該判決ハ確定シ動スヘカラサルニ至リタルモノナレハ今更被控訴人ノ請求ヲ拒絕スルヲ得ス」ト斷定シタルハ相當ニシテ上告人ハ上告旨趣ヲ各點ニ分チ種々論スル所アルモノ

モ其理由ナシ

已上ノ理由ヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百二十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却ス可キモノトス是レ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

○地所買戻契約登記請求ノ件

明治三十三年(大正)第三百六十一號  
明治三十三年十月五日第二民事部判決

○判決要旨

一 買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後ニ至リテ之ヲ爲ストキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス  
(判旨第一點)

一 買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ラス再賣買ノ豫約ト見做スコトヲ得(判旨第二點)

一 當事者ノ認諾アリト雖モ登記法中登記スヘキ規定ナキトキハ裁判所ニ於テ本登記ヲ爲スヘキコトヲ言渡スヘカラサルモノトス(判旨第三點)

第一審 東京地方裁判所八王子支部 第二審 東京控訴院

上告人 福田甚太郎 訴訟代理人 森 隆

被上告人 福田兼太郎 外一名

右當事者間ノ地所買戻契約登記請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年五月二十三日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告第一點ハ原判決ハ冒頭ニ於テ凡ソ買戻ナルモノハ民法實施前後ヲ問ハス賣買契約ヲ解除シ得ヘキ爲メニ締結スル一種ノ契約ナレハ必スヤ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲サルヘカラスト云フト雖モ民法實施前ニ於テハ買戻契約ハ必ス賣買ト同時ニ締結セサルヘカラサルノ規定ナク一ニ當事者ノ意思ニ放任シタルモノニシテ殊ニ民法ノ規定ヲ實施前ノ事項ニ對シテ適用スヘキハ必スヤ特別ノ規定存スル場合

賣買後ノ買戻契約○再賣買ノ豫約○賣買豫約ノ登記

ナラサルヘカラサルハ民法施行法ノ明示スル所ナリ然ルニ原判決カ買戻契約ハ必ズ賣買契約ト同時ナ  
 ラサレハ效力ナシト判決セシハ法則チ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリ尙ホ買戻シノ定義チシテ民法  
 第五百七十九條規定ノ如ク買戻ノ效力ヲ制限セント欲スルニハ特ニ明文ヲ要シ其規定チ俟ツテ始メテ  
 效力チ生スルモノトス何トナレハ買戻シトハ其意味廣ク唯買主ヨリ更ニ其買受ケタル物ヲ賣主ニ賣渡  
 ス場合チ汎稱シ得ルナリ而シテ之ニ對シテハ特別ノ規定ヲ要セスシテ其契約ノ有效タル疑チ容レサル  
 所ナリ而シテ本件事實ノ如ク民法施行前ニ於テ甲第一號同第二號證ノ如ク買戻及ヒ之レカ登記チ爲ス  
 可キ旨ノ契約チ締結シタルモノナレハ其有效タルヤ論チ俟タサルモノナレハナリト云フニ在リ

判旨第一點

依テ按スルニ契約ハ既往ニ向テ何等ノ效果チ生スル事ナシ故ニ民法施行前ニアリテモ不動産ノ買戻  
 シナルモノハ上告論旨ノ如ク廣キ意味チ有スルモノニアラスシテ唯賣主ノ爲メ後日ニ至リ其契約チ解  
 除シ得ヘキ事チ賣買ノ當時約シタル所謂解除條件附ノ賣買ナルモノニ限り單純ノ賣買チ爲シタル以後  
 更ニ契約チ取結ヒ賣主ノ隨意チ以テ一定ノ期間ニ同一ノ物件チ買戻シ得ヘキコトヲ約シタルモノ、如  
 キハ再賣買ノ豫約ニ過キスシテ法律上之チ買戻トハ稱セザリシナリ而シテ原院ハ此點ニ付キ「凡ソ買  
 戻ナルモノハ民法實施前後チ問ハズ賣買契約チ解除スヘキ爲メニ締結スル一種ノ契約ナレハ云々」ト  
 說示シ買戻契約ニ民法實施前ノ法則チ適用シタルモノニシテ上告人所論ノ如ク之ニ新民法ノ規定チ直  
 ニ適用シタルニ非サルナリ故ニ本論旨ハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

上告第二點ハ原判決ハ若シ賣買契約成立シタル後ニ於テ買戻契約チ締結シタリトセンカ假令當事者間  
 ニ買戻ナル語チ使用スルモ其實再賣買ノ豫約ト云ハサルヘカラスト云フト雖モ當事者間ニ於テハ買戻  
 ノ契約チ爲スニアリテ換言スレハ前ニ爲シタル賣買契約チ解除セントスル意思アリシニテ毫モ再賣買  
 ノ豫約ノ意思アリシニ非サルハ被上告人ニ於テ爭ハサル所ナリ而シテ當事者間ノ右意思表示ハ決シテ  
 公ノ秩序ニ關スル法律ノ規定ニ反スルモノニアラス然ルニ原判決ハ當事者ノ意思如何ニ拘ハラス再賣  
 買ノ豫約ナリト判決セシハ法律ニ違背シテ事實チ認定シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

判旨第二點

依テ按スルニ第一點ニ於テ説明スルカ如ク賣買ノ後ニ至リ締結シタル買戻ハ法律上之チ買戻ト稱セサ  
 ル以上ハ設令ヒ當事者ニ於テ賣買後ニ至リ其賣買ノ解除チ爲スコトノ意思アリテ再賣買ノ豫約チ爲ス  
 ハ意思ナシト雖モ是法律ノ誤解ニ出テタルモノナレハ其行爲ニシテ法律上所謂買戻條件チ具備セサル  
 ニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラス再賣買ノ豫約タルニ過キサルモノトス故ニ本論點モ亦上告ノ理由ト  
 爲スニ足ラス

上告第三點ハ被上告人ハ甲第一號同第二號證ノ成立チ認ムルノミナラス上告人請求地所ノ内五百七十  
 二、五百七十三、五百七十四番ノ三筆ハ勿論六百二番ノ分割地イハ號等ノ地所ニ付テハ被上告人ニ於テ  
 第一審以來其請求チ承認シテ爭ハス單ニ六百二番ノ分割地口號ノ一筆ニ付相爭フモノタルコトハ一件  
 記録ニ徴シテ明瞭ナリ即チ第一審口頭辯論調書中「被告ハ之チ認ムルモ立證ノ趣旨ハ非認スト申立タ

リ且ツ貳反貳畝貳拾五歩ノ地所迄モ合セテ返還スルノ事實ヲ非認スル次第ニテ之ヲ除キ其他ノモノニ對シテハ原告ノ請求通り異議ナキモノナリト申立テタリトアリ又第二審ニ於テモ「控訴代理人ハ一審廷ノ抗辯ト大要同一ニ陳述シ本件控訴人ノ云フ賣戻スコトノ契約ヲ爲シタル事實ハ争ハス」云々トアルノミナラス控訴狀不服ノ程度ノ陳述ニ於テモ右口號ノ一筆ニ對スル不服ナルコト明白ナリ然ルニ原院ニ於テ如斯被上告人ニ於テ争ハス其請求ヲ承認スル部分ニ對シテモ亦上告人ノ請求ヲ排斥スルニ方リ何等ノ理由ヲ付セザリシハ違法ノ判決ナリト云フニ在リ

判旨第三點

依テ按スルニ原告ノ請求スル所カ法律上執行スルコトヲ得ルモノナルニ於テハ被告カ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ裁判所ハ原告ノ申立ニ因リ被告ニ敗訴ヲ言渡サ、ル可カラスト雖モ本件ニ於テ上告人カ請求スル所ハ不動産賣買ノ後ニ至リ約シタル其買戻約款ノ登記ノ請求ニシテ賣買後ニ至リ單ニ買戻スコトヲ約シタル賣買豫約ノ行爲ノ如キハ登記法中登記スヘキ規定アラサルヲ以テ被上告人カ上告人ノ請求ノ中認諾シタルモノアリト雖モ被上告人チシテ上告人ノ請求ニ從ヒ登記ヲ爲サシムルコトヲ得サルヲ以テ原院カ上告人請求ノ全部ヲ棄却シタルハ相當ニシテ本論點モ亦上告ノ理由トナスニ足ラス以上辯明スルカ如ク本件上告ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ主文ノ如ク言渡スモノトス

○貸金請求ノ件

明治三十三年(オ)第三百七號  
明治三十三年十月九日第一民事部判決

○判決要旨

一民事訴訟法第二百三十九條第二項ニハ無効ノ制裁ナキヲ以テ判決正本ニ裁判所ノ印章ノミカ落印シアルニモセヨ既ニ書記カ署名捺印シタルニ於テハ絶對ニ無効ト云フヲ得ス

(参照) 裁判所書記ハ判決ノ正本、抄本及ヒ謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可シ(民事訴訟法第二百三十九條第二項)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 永島國太郎 訴訟代理人 神直三郎

被上告人 山岸茂八  
外一名

總印ナキ判決正本ノ效力

右當事者間ノ貸金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年二月十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告第一點ハ原裁判ニ曰ク被控訴人ノ申立ニヨリ當院ニ於テ甲第一號證控訴人(上告人)名下ノ印影ト控訴人カ第一審ノ訴訟代理委任狀名下ノ印影ト彼是對照シテ檢眞ヲ爲シタル結果右印影ハ共ニ同一ナリト裁判シタルヲ以テ云々ト之レ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ何トナレハ裁判シタルヲ以テトハ現在ヲ意味スルニアラスシテ過去ヲ意味シタルコト明カナレハ本案ノ判決前已ニ檢眞ノ裁判ヲ爲シタルモノト解釋セサルヘカラス然ルニ原院ハ本案ノ判決前曾テ檢眞ノ裁判ヲ爲シタル事ナシ之レ檢眞ノ裁判ヲナサハルニモ拘ラス檢眞ノ裁判ヲ爲シタリト云フモノナレハ其不法ナルコト明ナリト云フニ在

然レトモ本案ハ先ツ其印影ノ如何ヲ裁判シ若シ其印影カ眞正ナリト決セハ次テ復タ其證書ノ眞實ニ授受セラレタルヤ否ヤヲ判定スヘキ順序ナリトス故ニ原判文ニ「右印影ハ共ニ同一ナリト裁判シタルヲ以テ」トアル過去ノ言詞ハ本案ノ判決前ニ已ニ裁判シタリトノ意ニアラスシテ次ニ爲スヘキ證書授受

ノ判定ニ對シ過去ノ言詞ヲ用ヰタルモノタルコトハ原判決書ノ行文上明白ニシテ委シク言ヒハ印影ハ共ニ同一ナリト裁判ス已ニ印影カ同一ナリト裁判シタルヲ以テ證書モ亦眞實ニ授受セラレタルモノト裁判スト言フカ如キ意味ナリトス故ニ原判決ハ不法ニアラス

上告第二點ハ原院カ甲一號證ヲ上告人ヨリ被上告人ヘ交付シタル事ヲ判決シタルモ甲第一號證ニ記載シタル金額ノ貸借アリタルヤ否ヤノ點ニ關シテハ毫モ説明ナシ單ニ借用金證書ヲ交付シタリトスルモ金額ノ授受アリタルヤ否ヤヲ裁判セサレハ當事者間ニ貸借アリタルヤ否ヤ判明セス之レ理由不備ノ裁判ナリトスト云フニ在リ

然レトモ原判文ニ「同號證ノ債務ハ控訴人ニ於テ承認ノ上其自己名下ニ押印シテ被控訴人等ニ交付シタル借用證書ナリト認メサル可ラス」トアリ此説明ニ依レハ上告人ハ已ニ其債務ヲ承認シテ甲第一號證ヲ被上告人ニ交付シタリトノ文意タルコト明カナレハ貸借アリタルヤ否ヤニ對シ説明ナシト云フヲ得サルモノトス故ニ原判決ハ理由不備ノ點ナシ

上告第三點ハ上告人ヘ送達シタル第一審判決正本ヲ見ルニ該正本ニハ裁判所書記須田道遠ノ職印ヲ押捺シタルノミニテ裁判所ノ印影ナシ民事訴訟法第二百三十九條第二項ニヨレハ判決ノ正本抄本及謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證スヘシトアルヲ以テ判決正本ニ裁判所ノ印ヲ押捺セサルトキハ判決正本ノ效力ナキヲ以テ上告人ハ未ダ第一審判決正本ノ送達ヲ受ケサルト同シ然ラハ則チ第

二審ノ判決ハ判決送達前ノ控訴ニ對シ判決ヲ爲シタルモノナレハ其不法ノ判決ナルコト明カナレハ第一  
 二審判決ヲ破毀スヘキモノナルコトモ明カナリト云フニ在リ  
 然レトモ民事訴訟法第二百三十九條第二項ニハ無効ノ制裁ナキヲ以テ判決正本ニ裁判所ノ印章ノミカ  
 落印シアルニモセヨ已ニ書記カ署名捺印シアルニ於テハ之ヲ絕對ニ無効ト云フヲ得ス從テ之レカ送達  
 セラレタルコトヲ證明シ得ルニ於テハ其送達モ亦タ其效ヲ失スルニアラス故ニ原院カ本案控訴ヲ審判  
 シタルハ違法ニアラス

以上説明セシ如クナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照シ主文ノ如ク判決ス

○假處分取消請求ノ件

明治三十二年(オ)第三十二號  
 明治三十三年十月十日第二民事部判決

○判決要旨

一 訴訟當事者以外ノ者ニ對シ假處分ヲ爲スハ不當ナリトス  
 一 社掌ハ社司ノ缺ケタル場合ニハ神社ヲ代表シ訴訟ノ對手ト爲ルノ

權アリ隨テ其訴訟行爲ハ訴訟審理中ニ任命セラレタル社司ニ對シ  
 テ效アリ

一 信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權ナシ

第一審	岡山地方裁判所	第二審	大阪控訴院
上告人	安井昭太郎	訴訟代理人	〔花井卓藏〕 〔高野金重〕
被上告人	佐伯増行 外三名	訴訟代理人	〔岸本常雄〕 〔井本治雄〕

右當事者間ノ假處分取消請求事件ニ付キ明治三十一年十二月十二日大阪控訴院カ言渡シタル判決ニ對  
 シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ヲ求ムト申立タリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

理由

上告第一點ハ原判決ハ法則ニ違背シ且事實理由ニ齟齬アル不法ノ判決ナリ本訴ニ於テ上告人ノ論争セ  
 ル點ハ吉川壽男外數名ノモノヲ由加神社代表者トシテ被上告人カ之ヲ相手取り假處分ノ申請ヲ爲シタ  
 ルハ不法ナリト云フニ在リ被上告人ノ訴求モ亦現實工事着手者タル一個人ノ資格ヲ以テ吉川壽男等ヲ



相手取りタルモノニアラス然ルニ原判決ハ一面ニ於テ吉川壽男等ノ神社代表權無キコトヲ認メ乍ラ一面ニ於テ現實工事着手者ナルカ故ニ之ヲ相手取りタルハ相當ナリト説明シタルハ事實理由ニ齟齬アリテ結局説明不備ニ歸シ且ツ法則ニ違背セル不法ノ判決ナリト云ヒ擴張第一點原判決ハ法則ニ違背シタル不法ノ判決ナリ假處分ナルモノハ本訴提起ニ先チ係争物件ニ關シ權利實行ヲ容易ナラシムル手續ニシテ其申請事件ニ對スル當事者ハ本訴ノ當事者ニ外ナラサルコト論ヲ要セス然ルニ原判決ハ「假處分申請トシテハ現ニ右工事ニ着手シタルモノヲ相手取りシコトハ敢テ失當ト云フヲ得サルナリ」ト説明シ訴訟當事者以外ノモノニ對シ假處分申請ヲ爲シ得ルモノ、如ク解釋シタルハ民事訴訟法第七百五十五條ニ背反セルコト勿論ナリト云ヒ其第二點ハ本件假處分ノ申請タル吉川壽男等外數名ノモノニ於テ不當工事ニ着手シタルカ故ニ其着手者タル一個人ニ對シ假處分ヲ求メタルニ非スシテ由加神社代表者トシ且社掌及ヒ檀徒總代ノ資格ヲ基礎トシテ其申請ヲ爲シ次テ本訴ヲ提起シタルモノタル事ハ訴訟記録上不可爭事實ナリトス然ルニ原判決ハ「神社ヲ代表スルノ資格ナキモノトスルモ實際ニ右模様替工事ニ着手シタルコトハ明カナル事實トス」云々ト説明シ恰カモ被上告人カ吉川壽男等外數名ノ一個人ニ對シ假處分ノ申請ヲ爲シタルモノ、如ク判定シタルハ一方ノ申立テサル事物ヲ上告人ニ歸セシムルモノニシテ即チ民事訴訟法第二百三十一條ニ違背セル不法ノ判決ナリト云ヒ其第三點ハ本件假處分ハ由加神社ナル一ノ法人ニ對シ申請セラレタルモノニシテ其本案訴訟モ同一當事者ナルコトハ爭フヘカ

ラス而シテ明治二十七年二月二十七日公布勅令二十二號ニヨルニ社掌ハ社司ニ屬スヘキ事務員ニシテ社務ヲ管理スルノ權能無ク又檀徒總代ハ是亦神社ヲ代表ス可キ資格ナキコト明カナルヲ以テ原判決ハ宜シク假處分事件ノ取消ヲ爲サ、ル可カラス然ルニ原院説明ニ於テ暗ニ上告人論旨ノ正當ナルコトヲ認メ乍ラ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルハ代表資格ニ關スル前段勅令ノ文旨ヲ不法ニ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ審按スルニ假處分ハ訴訟當事者間ニ於テノミ爲ス可キモノナルコトハ論ヲ俟タサルヲ以テ若シ本件由加神社ノ社掌タル吉川壽男外信徒總代數名ノモノカ本件假處分申請ノ當時同神社ヲ代表スルノ資格ナキモノナルニ於テハ被上告人ハ本件ニ付キ訴訟當事者以外ノ者ヲ相手ト爲シタルコトニ歸シ從ヒテ同人等ニ對シテ爲シタル本件假處分ノ申請ハ不當タルヘキヲ以テ原院カ「前略右假處分申請事件ノ被申請人タル吉川壽男外數名ノモノハ控訴人主張ノ如ク該神社ヲ代表スルノ資格ナキモノトスルモ實際ニ右模様替工事ニ着手シタルコト明カナル事實トス而シテ被控訴人ハ該工事ヲ以テ直接ニ自己ノ權利ヲ障害スルモノト認メ且ツ工事ノ完成ニ先チ假リニ之ヲ止ムルノ必要アリト確信シ吉川壽男外數名ヲ相手取り假處分ノ申請ヲナシタルモノニシテ假處分ノ申請トシテハ現ニ右工事ニ着手シタルモノヲ相手取りシコト敢テ失當ト云フコトヲ得サルナリ云々」ト判示シタルハ上告人所論ノ如ク違法タリ而シテ神社ノ社掌ハ社司アル場合ニ於テハ之ヲ擱キ神社ヲ代表ス可キモノニアラスト雖モ然レトモ社司

ハ、缺、ケ、タ、ル、場、合、ニ、於、テ、社、掌、ハ、專、ラ、ニ、社、務、ヲ、處、理、ス、可、キ、モ、ハ、ナ、レ、ハ、此、時、ニ、當、リ、社、掌、ヲ、神、社、ノ、代、表、者、ト、シ、テ、神、社、ニ、對、ス、ル、訴、訟、ノ、相、手、ト、爲、ス、ハ、當、然、ナ、リ、而、シ、テ、社、掌、カ、一、旦、神、社、ニ、對、ス、ル、訴、訟、ノ、相、手、タ、リ、シ、モ、審、理、中、社、司、ノ、任、命、ア、ル、ニ、至、リ、タ、ル、ト、キ、ハ、社、司、ハ、其、訴、訟、ヲ、有、效、ニ、受、繼、ク、ヘ、キ、筋、合、ナ、レ、ハ、社、司、ノ、欠、ケ、タ、ル、爲、メ、社、掌、ヲ、相、手、ト、シ、テ、提、起、シ、タ、ル、本、件、ノ、如、キ、訴、訟、ニ、對、シ、後、任、ノ、社、司、ニ、於、テ、神、社、ニ、對、ス、ル、訴、訟、ト、シ、テ、效、ナ、キ、モ、ハ、ト、云、フ、ヲ、得、ス、又、以、上、說、明、ハ、通、リ、神、社、ノ、代、表、者、ハ、神、官、ニ、シ、テ、信、徒、ニ、ア、ラ、ス、隨、テ、信、徒、總、代、ハ、其、代、表、者、ニ、非、ラ、サ、ル、コ、ト、ヲ、知、得、ス、可、シ、左、レ、ハ、被、上、告、人、カ、信、徒、總、代、ヲ、假、處、分、ノ、相、手、方、ノ、中、ニ、加、ヘ、タ、ル、ハ、不、當、ナ、レ、ト、モ、社、掌、ヲ、神、社、ノ、代、表、者、ト、シ、テ、提、起、シ、タ、ル、本、件、ノ、假、處、分、其、モ、ノ、ハ、相、當、ナ、レ、ハ、右、假、處、分、ハ、之、ヲ、取、消、ス、ヘ、キ、モ、ノ、ニ、非、ス、故、ニ、原、判、決、ハ、其、理、由、ニ、於、テ、法、律、ニ、違、背、シ、タ、ル、所、ア、リ、ト、雖、モ、以、上、說、明、ス、ル、如、ク、他、ノ、理、由、ニ、依、リ、結、局、正、當、ナ、ル、ヲ、以、テ、本、件、上、告、ハ、民、事、訴、訟、法、第、四、百、五、十、二、條、ニ、依、リ、棄、却、ス、ヘ、キ、モ、ノ、ト、ス、

○原状回復並不動産競落許可決定抗告ノ件

明治三十三年(ウ)第四百二十九號  
明治三十三年十月十日第二民事部決定

○決定要旨

一 民事訴訟法第七十四條第一項ノ規定ハ適法ノ送達ヲ受ケタル場

合ニ限り適用スヘキモノトス

(參照) 天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル原告若

クハ被告ニハ申立ニ因リ原状回復ヲ許ス(民事訴訟法第七十四條第一項)

- 一 公示送達ノ無効ナル事實ヲ立證セント欲シテ抗告人ノ申出テタル唯一ノ證據ニ屬スル人證ヲ排斥シテ之ヲ喚問セサルハ重要ナル訴訟手續ノ違背ニシテ再抗告ノ理由トナルモノトス

原 審 大阪控訴院

抗 告 人 小泉萬次郎

右抗告人ハ原状回復並ニ不動産競落許可決定抗告事件ニ付明治三十三年五月二十八日大阪控訴院カ大阪地方裁判所ノ決定ニ對スル再抗告ニ付與ヘタル決定ニ服セス更ニ當院ニ抗告ヲ爲シタリ依テ決定スル左ノ如シ

原裁判ヲ廢棄シ更ニ大阪控訴院ニ委任シテ事件ニ付裁判ヲ爲サシム

理 由

本件記録ヲ審査スルニ本件ハ大阪區裁判所カ民事訴訟法ノ規定ニ基キ爲シタル不動産競落許可決定ニ對シ抗告人ヨリ大阪地方裁判所ニ抗告ヲ爲シ同裁判所ハ抗告ヲ理由ナシト決定シ而シテ競賣強制執行

原状回復ノ許可○唯一證據ノ排斥

申請人ノ申立ニ因リ其決定ヲ公示方法ニ依リ送達シタリ然ルニ原告人ハ右ノ決定ヲ不當ナリトシ大阪控訴院ニ抗告ヲ爲スニ當リ被告人ハ從來ノ住所ニ居住シ他ニ轉居シタルコトナキニ原裁判所ハ居所不明ナリトシテ公示方法ニヨリ送達セラレタルハ固ヨリ無効ノ送達ニ付キ被告人カ右送達ヲ知ラザリシハ過失ニアラサル旨ヲ以テ原狀回復ノ申立ヲ前提ニ措キ再抗告ヲ爲シ同院ハ公示送達ハ有効ニシテ原狀回復ノ申立ハ理由ナシトシ其申立ヲ棄却シ從テ再抗告ヲ棄却シタルニ對シ本院ニ抗告シタルモノナリ而シテ本院ニ提出セル抗告理由ハ大阪控訴院ハ「執達吏ハ其職務上送達ニ付指定セラレタル住所ニ就キ取調ヲ爲ス可キモノナレハ之ヲ取調タリト推定ス可キハ勿論申立人ノ認メタル從來ノ住所ニハ自己ノ表札ヲ掲ケス植村幸太郎ノミノ表札ヲ掲ケ且ツ日常吉川榮子方ニ往復シタリトノ事實ニ參照スレハ眞實居所ヲ轉シタルヤ否ヤハ暫ク措キ現在地ヲ不明ナラシメタル事實ヲ推知スルニ足レハ執達吏代理カ現在地不明ナル旨報告シタルハ取調ノ結果ニ出テタルモノナルコトヲ認ムルニ足レリ故ニ本件公示送達ハ有効ニシテ之ヲ無効ナリトシ原狀回復ノ原因ト爲スハ其理由ナキコト明白ナリ以上ノ理由ナシテ以テ植村幸太郎ノ證明書ヲ信用セス又人證ノ申出ニ就テハ之ヲ制限シ原狀回復ヲ許ス可キモノニアラスト評決ス」トノ理由ヲ以テ原狀回復ノ申立ヲ棄却シ從テ抗告ヲモ棄却セラレタレトモ原院ハ眞實居所ヲ轉シタルヤ否ヤハ暫ク措キト説明シテ此必要ナル點ヲ調査セス且ツ職務上ニ基ク推定ハ反證ニ因テ之ヲ打破シ得可キモノナルコト勿論ナルニ同居セル植村幸太郎ノ證明書ヲ無視スルノミナラス

唯一ノ證據タル人證植村幸太郎ノ證明書ノ申立ヲ制限シタルハ違法ノ裁判ナリ加之申立人ハ公示送達ハ當事者ノ申請ヲ必要トスルモノニシテ其申請ヲ爲シタル田中喜兵衛カ申立人ノ現住所ヲ明知シナカラ虚偽ノ事柄ヲ記載シタルモノナレハ公示送達ノ原因タル要素ニ違法アルコトヲ陳述シタルニ原院ハ之レカ取調ヲ爲サ、ルノミナラス何等ノ説明ヲモ爲サ、リシハ理由不備ノ裁判ナリ依テ原決定ヲ廢棄シ原狀回復ノ裁判ト共ニ本案即チ不動產競落許可決定抗告事件ノ裁判ヲ爲ス爲メ大阪控訴院ニ差戻ストノ決定相成度民事訴訟法第四百五十五條ニ依リ抗告スト云フニ在リ

按スルニ民事訴訟法第七十四條第一項ニ「天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル原告若クハ被告ニハ申立ニ因リ原狀回復ヲ許ス」トアリ其第七十六條第二項ニハ「即時抗告ノ提出ヲ懈怠シタルトキハ原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得」ト規定シアルニ依レハ抗告ニ付キ原狀回復ノ申立ヲ爲ス可キ場合ハ正當ナル送達ヲ受ケタルモノニシテ天災又ハ其他避ク可カラサル事變ノ爲メ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得ザリシトキニ限ル可キモノニシテ本件抗告人申立ニ依レハ正當ノ送達ナク其期間ヲ知ル能ハザリシモノナルニ付キ此場合ニ於テハ原狀回復ノ申立ヲ爲ス可キモノニアラス其第七十四條第二項ニ故障期間ヲ懈怠シタルトキニハ其過失ニアラスシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラザリシ場合ニモ原狀回復ノ申立ヲ許スノ規定アルモ此規定ハ該法條ニ明示スル如ク故障期間ヲ懈怠シタル場合ニノミ適用ス可キ

モノニシテ他ノ場合ニ準用ス可キ規定ニテラス而シテ抗告ノ手續ニ付テハ原決定ノ送達前ニ之ヲ爲ス  
 事、許サ、ル、特、別、ノ、規、定、ナ、キ、ヲ、以、テ、送、達、前、ト、雖、モ、之、ヲ、爲、ス、ヲ、得、可、ク、且、ツ、本、件、ノ、如、キ、場、合、ニ、於、ケ、ル、訴、訟、手、  
 續、ハ、他、ニ、其、規、定、ナ、キ、ヨ、リ、此、場、合、ニ、於、テ、ハ、抗、告、ノ、前、提、ニ、公、示、送、達、ハ、違、法、ニ、シ、テ、無、効、ナ、リ、ト、ノ、事、實、理、由、  
 辯、明、ス、ル、ハ、必、要、ニ、付、キ、抗、告、人、カ、之、ヲ、原、狀、回、復、ノ、申、立、ト、シ、テ、提、出、ス、ル、モ、即、チ、之、ヲ、抗、告、ニ、付、テ、ノ、不、變、期、  
 間、ニ、關、ス、ル、辯、明、ト、看、做、シ、其、當、否、ヲ、判、斷、ス、可、キ、モ、ノ、タ、リ、故、ニ、原、裁、判、所、ハ、原、狀、回、復、ノ、申、立、ト、シ、テ、之、カ、判、斷、  
 ナ、爲、シ、タ、ル、ハ、失、當、タ、ル、ニ、モ、セ、ヨ、其、當、否、ノ、判、斷、ニ、シ、テ、正、當、ナ、ル、ニ、於、テ、ハ、其、結、果、ニ、消、長、ヲ、爲、サ、ル、筋、合、ナ、  
 ル、ニ、ヨ、リ、右、ノ、瑕、瑾、ハ、原、裁、判、ヲ、廢、棄、ス、ル、ノ、理、由、ト、爲、ス、ニ、足、ラ、ス、ト、雖、モ、原、裁、判、所、ハ、之、ヲ、裁、判、ス、ル、ニ、當、リ、抗、  
 告、人、ノ、入、證、ノ、申、立、ヲ、排、斥、シ、タ、ル、ハ、重、要、ナル、訴、訟、手、續、ニ、違、背、シ、タ、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、民、事、訴、訟、法、第、四、百、五、十、六、  
 條、第、二、項、ノ、新、ナル、獨、立、ノ、抗、告、理、由、ヲ、生、シ、タ、ル、モ、ノ、ト、ス、如、何、ト、ナ、レ、ハ、抗、告、人、ハ、反、對、ノ、事、實、即、チ、所、在、ヲ、不、  
 明、ナ、ラ、シ、メ、タ、ル、ニ、ア、ラ、サ、ル、事、實、ヲ、證、明、ス、ル、爲、メ、植、村、幸、太、郎、ノ、證、明、書、ヲ、提、出、シ、尙、ホ、之、ヲ、確、カ、ム、ル、爲、メ、同、  
 人、ヲ、證、人、ト、シ、テ、喚、問、ア、ラ、ン、コ、ト、ヲ、申、立、タ、ル、モ、ノ、ナ、ル、コ、ト、ハ、原、裁、判、所、ニ、提、出、シ、タ、ル、抗、告、狀、ニ、徵、シ、明、ナ、ル、  
 所、ニ、シ、テ、而、シ、テ、植、村、幸、太、郎、ノ、證、明、書、ナ、ル、モ、ノ、ハ、固、ヨ、リ、裁、判、上、證、據、力、ヲ、有、ス、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、サ、ル、ヲ、以、テ、抗、  
 告、人、カ、右、證、明、書、ノ、事、實、ヲ、確、カ、ム、ル、爲、メ、ニ、同、人、ノ、喚、問、ヲ、申、立、タ、ル、ハ、即、チ、本、件、公、示、方、法、カ、無、効、ナ、リ、ト、ノ、抗、  
 告、人、主、張、ノ、事、實、ヲ、證、明、ス、ル、ニ、付、テ、ノ、唯、一、ノ、證、據、方、法、ナ、ル、ニ、原、裁、判、所、ハ、恰、モ、抗、告、人、カ、一、事、實、ノ、證、明、ニ、付、  
 キ、二、個、ノ、證、據、方、法、ヲ、提、出、シ、タ、ル、モ、ノ、ハ、如、ク、看、做、シ、植、村、幸、太、郎、ノ、喚、問、申、立、ヲ、制、限、シ、タ、ル、ハ、絶、對、ニ、證、據、方、  
 法、ヲ、杜、絶、シ、タ、ル、筋、合、ナ、ル、ヲ、以、テ、ナ、リ、依、テ、民、事、訴、訟、法、第、四、百、六、十、四、條、ニ、依、リ、原、裁、判、ヲ、廢、棄、シ、事、件、ヲ、原、裁、  
 判、所、ニ、差、戻、シ、更、ニ、裁、判、ヲ、爲、サ、シ、ム、ル、ヲ、相、當、ト、ス、

○花田井養水番水法行使權確認並損害要償ノ件

明治三十二年(丙)第百八十四號  
明治三十三年十月十二日第二民事部判決

○判決要旨

一、事件自體カ直チニ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ性質ノモノニシテ且結局履行ヲ求メサレハ其目的ヲ達スルコト能ハサルモノニ付テハ確認ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

第一審 神戸地方裁判所姫路支部 第二審 大阪控訴院

上告人 後藤善十郎 訴訟代理人 磯部四郎

被上告人 島本本七郎 訴訟代理人 鳩山和夫  
外二百二十名 外二百九十八名 松本織五郎

右當事者間ノ花田井養水番水法行使權確認並ニ損害要償事件ニ付キ明治三十二年六月二十三日大阪控

確認訴訟ノ條件